

長岡義夫	長岡義夫	藤原惟人	昇曙	堀原三郎	小山内薫	米川正夫	中村白葉	昇曙	昇曙	原久一郎	トルストイ	トルストイ
世界名作文庫(314)	世界名作文庫(313)	世界名作文庫(312)	世界名作文庫(311)	世界名作文庫(310)	世界名作文庫(307)	世界名作文庫(331)	世界名作文庫(326)	世界名作文庫(304)	世界名作文庫(303)	世界名作文庫(301)	世界名作文庫(186)	世界名作文庫(186)
母	母	私	零落者	四十年	決	未成	死の家	虐げられし人々	虐げられし人々	永遠の良人	苦難の良人	苦難の良人
並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	布四六装入判	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	布菊半製	布菊半製
332	286	216	112	1038	167	390	274	336	291	272	378	407
四〇	四〇	四〇	二二	二一〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	中央公論社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	岩波書店	改造社	改造社
月九	月九	月九	月八	月十	月八	月二十	月十一	月九	月九	月七	月七	月一
▲「母」後篇。	▲ゴトリキイの傑作「母」の前篇。	▲ゴトリキイの傑作「私の大冒険」。	▲ゴトリキイの傑作「零落者の群」。	▲第二部は日露戦争の大惨劇を経て一九〇五年の所謂第一革命に至る迄のロシアを描く。	▲チェホフの長篇「決闘」の譯。	▲ドストエフスキイの長篇小説未成年の第一編で、私生兒とその父母以下十章迄收む。	▲シベリア流刑時代を題材としたドストエフスキイの名作、その第一部。	▲「虐げられし人々」後篇。	▲「虐げられし人々」前篇。	▲「帽子に喪章を付けた紳士、閑人の新らしい幻想外十五章より成る長篇。	▲アレクセイ・トルストイ作の長篇小説。下巻は第十九章より起る。	▲長篇小説。

佐藤春夫	佐藤春夫	宮原一郎	神近市	大間知篤	大間知篤	米川正夫	米川正夫	外川	長岡義夫	クロポトキン	クロポトキン	ゴトリキイ
世界名作文庫(198)	世界名作文庫(197)	世界名作文庫(416)	世界名作文庫(323)	世界名作文庫(322)	世界名作文庫(321)	世界名作文庫(319)	世界名作文庫(318)	世界名作文庫(317)	世界名作文庫(316)	世界名作文庫(15)	世界名作文庫(15)	世界名作文庫(15)
妖	妖	運命の舟	何を爲すべきか	セメント	セメント	消されぬ月	北極の記	ヴォルフガハス	蒼藍の馬	革命家の思出	革命家の思出	フアマール・ゴ
布菊半製	布菊半製	並菊半製	上四六製判	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	上四六製判	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製
265	384	432	780	235	255	119	191	369	190	305	240	312
四〇	六〇	六〇	二二	四〇	四〇	二二	四〇	一〇	四〇	四〇	四〇	六〇
改造社	改造社	春陽堂	南北書院	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	先進社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂
月一十	月一十	月一十	月三	月一十	月十	月八	月九	月六	月一十	月八	月八	月二十
▲前書の下巻で第二十三回より終末までを譯	▲元代著名の小説家羅貫中の作と謂はれてゐる支那小説の譯。	▲印度の詩人タグールの長篇小説「運命の舟」の全譯。	▲「何を爲すべきか」の長篇小説「運命の舟」の全譯。	▲長篇小説「セメント」の後篇で、靈魂の成層以下七章にて終結。	▲「消されぬ月」及び「狼の捉」。	▲「消されぬ月」及び「狼の捉」。	▲「消されぬ月」及び「狼の捉」。	▲「ヴォルフガハス」の長篇小説「ヴォルフガハス」の全譯。	▲「蒼藍の馬」の長篇小説「蒼藍の馬」の全譯。	▲後篇はセント・ペテルズブルグ以下三章。	▲後篇はセント・ペテルズブルグ以下三章。	▲「フアマール・ゴ」の長篇小説「フアマール・ゴ」の全譯。

岸田國士	岸田國士	有島武郎	中村古藏	坪内逍遙	坪内逍遙	坪内逍遙	坪内逍遙	坪内逍遙	坪内逍遙	松浦三郎	小田達夫	井上紅梅
チロルの秋	戯曲集 閑山	有島武郎戯曲集	戯曲集 明治畸人傳	義時の最期	名残の星月夜	牧の方	大いに笑ふ淀君・桐一葉	香手鳥孤城落月	香手鳥孤城落月	上海の怒	過	魯迅全集
並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
150	403	331	483	151	134	107	198	80	219	178	512	
二七	二〇	四〇	二〇	四〇	四〇	二〇	四〇	二〇	六〇	四〇	二〇	
春陽堂	白水社	改造社	雄文閣	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	白揚社	春陽堂	改造社	
月九	月五	月二十	月四	月八	月八	月八	月六	月七	月七	月二十	月一十	
▲古い玩具、チロルの秋、外戯曲二篇。	▲淡閑山、音の世界、ママ先生とその夫、犬は鎖に繋ぐべからず外四篇の戯曲集。	▲御柱、ドモ又の死、聖餐、大洪水の前、死と其の前後、老船長の幻覺等六篇の戯曲集。	▲天津事件(十三場) 田中正造(十一場) 明治畸人傳(九場)の三篇の戯曲集。	▲義時の最後を描いた三幕より成る戯曲。	▲尼公、實朝、公曉の悲劇「名残の星月夜」。	▲五幕より成る戯曲「牧の方」を収む。	▲大いに笑ふ淀君、桐一葉の二戯曲を収む。	▲香手鳥孤城落月。	▲上海大ゼネストの勝利を描ける長篇小説。	▲支那の現文壇の雄都達夫の創作過去、春の夜半、一人行く、香簾、血涙外二篇を譯載。	▲中華現代左翼作家第一人者の作品集で、狂人日記、阿Q正傳、常夜燈外廿三篇。	

北村小松	中里介山	城森弘	香春健一	野口活	伊藤恣	仲木貞一	仲木貞一	仲木貞一	永井柳太郎	長谷川伸
北村トキーシナリオ集	プロット小脚本集	大菩薩峠脚本	戯曲 異端者物語	戯曲 南方戦線に躍る	佐倉義民事件	飛	マダムX	蝕める戀	戯曲 大隈重信	戯曲 刺青
並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
230	162	283	559	314	403	412	293	178	530	205
一、三〇	四〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
映畫時代社	日本プロレタリア演劇同盟出版部	大菩薩峠刊行會	日月光社	同書研究社	内外社	内外社	雄文閣	雄文閣	雄文閣	講談社
月八	月六	月二十	月十	月二十	月四	月五	月三	月二	月八	月一十
▲マダムと女房、若き日の感激、勝敗、上陸	▲マダムと女房、若き日の感激、勝敗、上陸	▲長篇「大菩薩峠」の脚色で、「武州御嶽山連幕の巻」一甲府城下連幕の巻「外一篇」	▲宗教反對(村山知義) 俺の子供(島公靖) さあメーデーだ(久松義二) 外十八篇	▲十九幕と十八幕よりなる受刑者耶蘇を扱つた戯曲二篇を収む。	▲宗義に背異して遂に破門された親鸞の第三子善覺を中心とする五幕七場の戯曲。	▲支那を背景とする脚本集で、偶像南京に君臨す(三幕) 南方戦線に躍る(二幕) 外四篇	▲佐倉義民事件(廿二場) 又を向けられた時宗(一幕) 狼藉者(一幕) 外二篇の戯曲集	▲天野飛行中尉を主人公とする悲劇で、五幕六場より成る。	▲偉傑大隈重信の識見氣魄情熱風貌を描寫せる八幕七四場の戯曲。	▲刺青奇偶、堀部安兵衛、雪の渡り鳥、霜太郎の唄、旅の風來坊外七篇の戯曲集。

文學(演劇史・演劇論)

ストリンドベルグ作 舟木重信譯	ストリンドベルグ作 ルツツ	モルナアル作 鈴木善太郎譯	熊澤復六譯	中村ホフ作 中村ホフ譯	中村ホフ作 中村ホフ譯	米川正夫譯	小山内薫譯	トレチヤコフ作 大隈俊雄譯
爛	ルツツ	戀はすれども	検察官	かもめ・伯父ワニーヤ	三人姉妹・櫻の園	三人姉妹	どん底	吼えろ支那
並六 判	並六 判	並六 判	並六 判	並六 判	並六 判	並六 判	並六 判	並六 判
110	139	239	142	197	222	144	141	82
二五	二五	一〇〇	四二	四〇	四二	四三	四二	二〇
春陽堂	春陽堂	第一書房	春陽堂	春陽堂	春陽堂	岩波書店	春陽堂	春陽堂
月二十	月二十	月七	月八	月九	月九	月九	月八	月十
▲ストリンドベルグの四幕戯曲で舊刊を複製したもの。	▲宗教改革家ルツツルを取扱った五幕物の戯曲の譯。	▲白い雲(五場)元帥(一幕)戀はすれども一幕幕間一幕外三篇の戯曲集。	▲五幕よりなる喜劇「検察官」を譯載。	▲かもめ、伯父ワニーヤ、の戯曲二篇。	▲三人姉妹、櫻の園、の二篇。	▲四幕より戯曲「三人姉妹」を収む。	▲四幕より成る「どん底」の譯。	▲第九景より成る戯曲「吼えろ支那」を収めたもの。

(E) 演劇・映畫

演劇史・演劇論

東京帝國大學 演劇史學會編	演劇史研究
並六 判	並六 判
302	302
二〇〇	二〇〇
第一書房	第一書房
月四	月四
▲歌舞伎劇の一考察(鈴木英輔)アリストフアネス喜劇の傳統(新島良三)外十二篇。	

文學(國劇・能樂・映畫)

國劇・能樂

坪内博士記念 演劇博物館編	國劇要覽	野々村戒三編註	近世戯曲研究	金春十七部集	岸オット著 エリ松雄譯	映畫技術と映畫藝術	佐々木能理男譯	映畫の辯證法	大竹二郎	映畫撮影藝術の本的研究	
洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	洋四 判	
646	245	515	245	515	150	150	189	341	341	341	
三、五〇	二、三〇	三、五〇	二、三〇	三、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	
梓書房	中興館	春陽堂	中興館	春陽堂	往來社	往來社	往來社	往來社	往來社	往來社	
月五	月三	月六	月三	月六	月一	月一	月一	月二	月二	月二	
▲現存國劇の全般に亘つて之れを鳥瞰的に説述せる書で、古劇・民族劇外七篇。	▲戯曲研究の基礎的考察で、歌舞伎劇脚本の本質、脚本史の展望外廿二篇。	▲金春禪竹同種風及び下間少進の能樂に関する遺作を蒐めて考察せるもの。			▲「映畫技術の解剖」の譯で、畫面構成以下七章、立體映畫について。	▲エンゼンシュエインの紹介、映畫の原理と日本文化、觀念の映畫外四篇。	▲コンテイニエテイとは何か、線の研究、映畫的リズムの諸模倣外四篇。				

高	袋	吉	吉	大	鈴	北	交	上	川	佐	中	ボ	本
一	一	川	川	伴	尾	尾	野	北	川	阿	中	ボ	本
瀬	一	速	速	喜	木	木	山	川	添	木	根	々	間
マ	平	男	男	祐	録	録	宗	崎	利	能	根	々	七
著	露	バ	十	祐	之	之	一	夫	基	理	宿	々	郎
著	西	テ	六	一	陽	陽	正	・	基	男	宿	々	譯
著	亞	ー	ミ	・	助	助	一	知	著	著	宿	々	著
著	映	の	リ	シ	ト	ト	正	十	著	著	宿	々	著
著	畫	チ	の	ネ	キ	キ	一	十	著	著	宿	々	著
著	史												

坪内逍遙著
歌舞伎畫證史話

定價 金三圓五十錢・東京堂 版

東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會	東京名映畫鑑賞會
田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎	田中純一郎
藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編	藤田潤一編
満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明	満蒙建國の黎明
並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61	並四六製判 61
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社	駿南社
月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月六
▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載	▲三上於菟吉直木三十五兩氏原作映畫の筋書 ▲中野英治、入江たか子等の出演感想併載

市河・畔柳・飯島共著 **大英和辭典**

定價七圓五十錢
新六八列・一八六〇頁
(送料 五十七錢)

小田切良太郎共著 **新註解和獨辭典**

定價三圓五十錢
三六列・一七〇〇頁
(送料 二十一錢)

辭書を買ふなら富山房

東京市神田區
振替東京501番

上田・松井兩博士共著 **大日本國語辭典**

一―三卷定價各十三圓
四卷・十六圓 索引十圓
(送料二圓五十二錢)

服部・小柳兩博士共著 **改訂増補詳解漢和字典**

定價三圓五十錢
四六列・二二二二頁
(送料 三十三錢)

五語學

(A) 言語學・國語・漢文

著者	書名	形態	定價	送料	發行所	月行	内容大意
イエスマルセン著	人類と言語	洋四六	布入判 320	二〇〇	岡書院	四月	▲話と言語、正しいよい言語、言語の成層、言語の神秘外七章にて論述
佐久間 鼎	一般音聲學	洋四六	布入判 227	三三〇	内川老鶴園	二月	▲發音の機能、發聲の機能、語音の種別、人聲の特質の四章にて論述
小林 英夫	一般文法成立の可能性について	並	判 57	四	刀江書院	五月	▲言語事實の一般理論成立の要求、文法的一般理論成立の要求外一章にて論述
小 林 英夫	批判的 一般文法の原理	洋四六	布入判 241	二〇〇	岩波書店	二月	▲イエルムスレウの力作「一般文法の原理」を批判的に解説せる書
金澤博士選	金澤博士 東洋語學乃研究	洋四六	布入判 708	四〇〇	三省堂	二月	▲所謂「ヲ」に通ずる助詞「ガ」に就いて(吉澤吉則)そほ考(筑紫豊)外廿二篇
田正三	漢文音讀論	洋四六	布入判 200	一八〇	政經書院	二月	▲漢文音讀論に關する著者の七ヶ年の研究の集積である

言語學(言語學一般)

國語學・國語研究

林 爽 臣	日本語原學	洋書編	布入判	611	三〇〇	建設社	月二十	▲緒論、日本語源學總論、聲韻論、語原國語論の三編。附録語原の類別外五編。
金田 一京助	國語音韻論	洋書編	布入判	338	二〇〇	刀江書院	月三	▲國語音韻變化の法則を説けるもので、國語音韻組織、音韻變化外二章。
高橋 龍雄	國語音調論	洋書編	布入判	304	二〇〇	中文館	月五	▲廣義の國語に就て語學的音調的に闡明せるもので、漢字の音節外四篇。
三矢 重松	國語の新研究	洋書編	布入判	528	四〇〇	中文館	月九	▲作歌と助辭、和歌と文法、和歌と語法、助辭、莊内語外四篇より成る論文集。
三矢 重松	文法論と國語學	洋書編	布入判	502	四〇〇	中文館	月四	▲故三矢博士の文法に關する體系的な學說で口語の研究、日本文典外六篇。
日下部 重太郎	現代國語精説	洋書編	布入判	524	四〇〇	中文館	月六	▲現代國語に關する諸細目に就て學術上及び教育上から叙述せるもので、祖國語外十篇。
日下部 重太郎	朗讀法精説	洋書編	布入判	288	二〇〇	中文館	月十	▲國語國文の朗讀法を説いた書で、朗讀法とは何か、練習の方法外三章。
山田 孝雄	國語政策の根本問題	洋書編	布入判	212	六〇〇	寶文館	月一十	▲國語政策の根本問題、文部省の假名遣案を論ず、國語の理解と國語の消長外九篇。
小倉 進平	仙臺方言音韻考	洋書編	布入判	454	三〇〇	刀江書院	月三	▲仙臺市を標準としての方言の發音現象に就て論述せるもの。
荒垣 秀雄	北飛騨の方言	洋書編	布入判	176	二〇〇	刀江書院	月三	▲北飛騨に於ける方言、訛語、標語等を五十音順に排列して註釋を施す。
大田 榮太郎編	滋賀縣方言集	洋書編	布入判	176	二〇〇	刀江書院	月三	▲滋賀縣下の各郡で編んだ方言調査書を主として編集せるもの。

國文法

文部省 澤 季生	國字論批判	洋書編	布入判	58	二〇〇	ローマ字社の	月六	▲谷崎潤一郎、大谷光瑞、美濃部達吉諸氏の國字論を批判した諸篇を収む。
日本ローマ字會	ローマ字教育參考資料	洋書編	布入判	16	二〇〇	ローマ字社の	月十	▲文部省の是認、都市小學校協議會の決議其他を集めた問題資料。
後藤 藤次	ローマ字と口語の新しい見方	洋書編	布入判	278	三〇〇	西行會原	月五	▲邦語を表現するにはローマ字が最も適當なりとす文法の部、文字の部、單語の部其他。
佐伯 功介	ローマ字の使ひ方	洋書編	布入判	147	五〇〇	ローマ字社の	月三	▲十九ヶ國のローマ字使用法を研究して我が國ローマ字問題に論及した書。
鬼頭 禮藏	ローマ字おさらひ讀本	洋書編	布入判	138	四〇〇	ローマ字社の	月七	▲日本のローマ字運動を記録する年報で、理論的方面、實際的方面、ローマ字會の活動。
櫻井 役	ローマ字讀本	洋書編	布入判	44	四〇〇	大阪 受験研究社	月五	▲教科書用としてのローマ字おさらひ讀本。
日本ローマ字會編	ローマ字看板集	洋書編	布入判	135	四〇〇	ローマ字社の	月八	▲ローマ字の入門書。
世良 琢磨編	けちん坊の話	洋書編	布入判	50	二〇〇	ローマ字社の	月七	▲間違ひだらけのローマ字看板を一掃する爲美書體を集めた實例を字引式に配列。
ツルゲネフ著	運命	洋書編	布入判	48	二〇〇	ローマ字社の	月八	▲けちん坊の話其他讀物、笑話、考物、クロスワード等ローマ字讀物を収む。
田中 健三	國文法解説	洋書編	布入判	352	二〇〇	教育研究會	月六	▲露文豪ツルゲネフの傑作を譯したローマ字文藝書。

三省堂編輯所編	平野 太一	村川 積人	研究社編輯部編	三兼 大石	兒玉 尊臣	淺井 峯治	澤田 良清	藤井 乙男	宇佐美 喜三八	鈴木 等三郎	
分り易く 覚え易い 日本文法の研究	例式 國文 法	すぐ見て わかる 國文法解き方のこつ	研究社 小冊子 要語	國文書 取基礎 詳解	平家 物語 詳解	住吉 物語 詳解	新徒 然草 詳解	註 竹取 物語 土佐 日記 文記	土佐 日記 新釋	新十六 夜日記 講話	
洋三 六判	並四 六判	洋三 五判	洋三 五判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	
197	190	300	410	116	105	221	311	78	187	230	
六〇	六〇	六〇	二〇	四〇	四〇	一〇〇	六〇	六〇	六〇	六〇	
三省堂	昇龍堂	構書店	研究社	芳文堂	有精堂	大同館	健文社	博多成象堂	正文館	耀文堂	
月四	月一	月九	月十	月九	月七	月七	月三	月三	月一	月六	
▲海章練習問題を掲げ表解の形式をとつて叙述せる日本文法の研究書	▲一切の文法的事項を圖表式に整理組織して平易に説述す	▲國文法の學習參考書で、總説、單語篇、文章篇、附録送假名法、句讀法等を收む	▲總説篇にて國文解釋の基礎と方法を説き、解題篇に鈴屋集外數篇の解き方を講述	▲國文要語を品詞別にして五十音順に配列解釋を施せる參考書	▲最近約二十年の各種高等專門學校入試問題中の重要な書取問題を網羅して詳解す	▲平家物語の内容を区分し解釋を附せるもので、祇園精舍其他	▲中古文の手法とされてゐる住吉物語に詳解を施せるもの	▲徒然草全篇二百四十三段の中最も重要な部分抜いて解釋を施す	▲竹取物語、土佐日記、方丈記に解題、詳註譯解を施せるもの	▲紀貫之の作土佐日記の全文を解釋せるもので、國府の館より大淡へ外五章	▲十六夜日記を註釋せる參考書

龍澤田 良清	山内 素行	鈴木 春治	山内 素行	松井 博信	阪倉 篤太郎	市毛 保家	石 泉	久 米	田 中 耕 耘	島 袋 盛 敏	田 中 耕 耘
新花 月双 紙詳 解	花 月双 紙詳 解	方 丈記 詳解	玉 かつ ま詳 解	玉 勝間・ 鈴屋 集抄	近 世擬 古文 講義	擬 古 文 新 釋	詳 解 近 世 名 家 文 選	新 選 近 古 近 世 文	自 學 漢 書 國語 (1)	自 學 漢 書 國語 (2)	自 學 漢 書 國語 (3)
並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判	並四 六判
267	126	108	130	411	116	334	114	108	181	120	135
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	一〇〇	一〇〇	六五	六五	八〇	八〇	八〇
健文社	大周社	大周社	大周社	立川書店	日本文學社	淺見文林堂	芳文堂	新撰書院	玉川學部	玉川學部	玉川學部
月三	月四	月四	月四	月一十	月一十	月一十	月九	月四	月五	月十	月十
▲松平定信の著になる花月雙紙に語釋、通解等を施せるもの	▲松平定信の花月草紙の解釋書にして専ら受験生に適するやうに據出し全譯	▲全譯書にして原文に語句の註、解釋を加へたる外大意を添ふ	▲本居宣長の「玉かつま」を受験用として重要な部分を抄出し註釋全譯をなす	▲玉かつま、鈴屋集中九十三篇を掲げ讀方參考吟味文法其他詳述	▲玉勝間、鈴屋集、閑田耕筆、花月草紙其他の擬古文を收めて講述す	▲中等學校上級國語科補習教科、入學試驗準備文部省文檢受験者用として解釋	▲近世諸名家の文を抜抄して語釋及び通解を施せるもの	▲近古、近世文をとり各書の代表的な部分を選擇抽出して解釋を施した受験參考書	▲徒然草全篇二百四十餘段の中最も秀れたものを選んで註釋を施す	▲中等學校上級生の爲に増鏡の精癖とも云ふべき所を選んで註釋を施せるもの	▲志賀直哉氏の「焚火」「小説の神様」「流行感目」の註釋を施した教科書

新編 漢文解釋參考書	標準高等漢文典	漢文解釋參考書	漢文基礎解釋法	漢文解釋の先生	三省堂編輯所編 漢文	最新漢文提要	漢文十八史略詳解	新訂漢文解釋法	漢文のあらゆる受驗問題の漢文	漢文複式漢文研究	唐宋八家文讀本	唐宋八家文讀本	唐宋八家文讀本
新編 漢文解釋參考書	標準高等漢文典	漢文解釋參考書	漢文基礎解釋法	漢文解釋の先生	三省堂編輯所編 漢文	最新漢文提要	漢文十八史略詳解	新訂漢文解釋法	漢文のあらゆる受驗問題の漢文	漢文複式漢文研究	唐宋八家文讀本	唐宋八家文讀本	唐宋八家文讀本
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂	伊川堂
月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲先秦の文法に於ける不完全動詞と接續代名詞の總論外九篇にて論述	▲漢文の基礎語を説明しその語を使用して例題を掲げ通解を施す	▲高等専門學校受驗準備書で、わかり易き解釋方法篇、形による解釋篇の二部	▲一般中等諸學校に於ける初學年の學習參考書で、豫備篇入門篇解釋篇より成る	▲漢文上の適當な難語及び故事を蒐録して解説を施す	▲小學、十八史略、唐詩選等より材料を精選して説述せる參考書	▲訓讀語釋通釋及び參考の諸節に分けて十八史略を詳解す問題を附す	▲根柢事項の説明を一層平明懇切に訂正し一問毎に白文を添ふ、一更訂版	▲漢文のあらゆる受驗問題を解説したもの	▲漢文の組織と成分、句讀訓點品詞の概説、重要な語法(二章)等	▲卷一以下卷十四まで收載	▲卷十五以下まで收載	▲唐詩の精神を蒐めた唐詩選に讀方、語釋、通釋を施せるもの	▲荀子の學説を詳解せるもので、勸學篇、修身篇、天論序説外一篇

市村省三	澤田良清	澤田良清	龍澤芳清	漢籍刊行會	漢儀一郎編	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	東京國文學會編	東京國文學會編	東京國文學會編	東京國文學會編	東京國文學會編	國語漢文學會編	國語漢文學會編	
詩選	荀子鈔詳解	荀子鈔詳解	非子鈔詳解	孟子	老子註釋全書	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	國漢文問題集	現代文問題解釋	國文問題解釋	國文問題解釋	國文問題解釋	國文問題解釋	國文問題解釋	國文問題解釋	
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	
146	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	
芳文堂	健文社	健文社	健文社	秀名社	東洋圖書	伊坂出版部	伊坂出版部	伊坂出版部	伊坂出版部	伊坂出版部	大周社	大周社	大周社	大周社	大周社	大周社	大周社	
月九	月二	月二	月二	月五	月三	月五	月五	月五	月五	月五	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	
▲唐詩の精神を蒐めた唐詩選に讀方、語釋、通釋を施せるもの	▲荀子の學説を詳解せるもので、勸學篇、修身篇、天論序説外一篇	▲二柄、孤憤、説難、和民、定法其他にて非子鈔に詳解を施せるもの	▲章旨、訓讀、語釋、通釋、餘説の五段に分けて孟子を講義す	▲老子經國字解(金蘭齋)老子摘解(廣瀬淡窓)老子全解(大田晴軒)其他	▲昭昭七年度の高等學校專門學校の入試國語漢文問題集	▲大正十年度より昭和六年迄の問題を収めて解説す、出所問題語句索引	▲大正十年以後昭和七年度までの入試問題につき出所の年代順に彙類	▲昭和七年度分の國語解釋文法書取作文を學校別に排列す	▲最近十六ヶ年間の高等專門學校入試問題の重要なるものを集めて全部の解釋をなせる書	▲最近十六ヶ年間の高等專門學校入試問題の重要なるものを集めて全部の解釋をなせる書	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり	▲大正十年度以降昭和七年度までの高校入試問題を學校別に排列せり出所文法解説あり

語學(作文・書簡文)

清美堂編輯所 公立高等學校試論國文問題集

上四六判 240
六〇 清美堂
月五

▲全國官公立高等學校最近十二ヶ年間の國文
解題問題を分類蒐集す。

(B) 作文・習字・速記

作文・書簡文

三省堂編輯所編 新制學生の作文	上四六判 280	六〇 三省堂	月九	▲中等諸學校の學生の作文力養成の伴侶で、 文章を學ぶ心得其他。
東京市立第五中學校校長 藤野重次郎選著 受験生の合格作文	上四六判 148	六〇 大明堂	月二十	▲雜誌「受験生」に發表した優秀作文及びそ の選評を集録した参考書。
西條千代子編 現代女學生の模範作文	並四六判 280	六〇 西東社	月二	▲全國の美女及女子師範の一三三年の生徒の 優秀なる文章を録收して批評を施す。
近文學士 藤信編 古今俳人書翰集	並四六判 318	六〇 朝日書房	月一	▲芭蕉其角等より近くは松平子等の諸家に 至る迄の俳趣味濃き書翰を録收せるもの。
青木歌子 女子新書翰	上四六判 290	六〇 大倉廣文堂	月五	▲若い女性の手紙の書方に就て述べそれを實 際に應用した文例を收めたもの。
春日昇一郎 軍人書翰新選	洋四六判 250	四〇 日本圖書	月六	▲勅諭集、年賀狀、在營中通知種々、陸海軍 用、軍人送迎五分間演說と式辭。
青木歌子 女子新書翰	洋四六判 230	一〇〇 大倉廣文堂	月五	▲女らしい優しい手紙の書方と文例二百餘を 滿載した書簡文範。
同志社大學教授 荒木良造 説辯の研究	洋四六判 240	一〇〇 内外出版 株式會社印	月七	▲説話の説辯質問、柳橋集合不問事情不當 假定論點變更引證非難比喩因果隱微の詭辯。

語學(書道・習字)

書道・習字

大日本雄辯學會編 現代の式辭演說	洋四六判 427	一〇〇 六文館	月一十	▲式辭及び演說の態度其他の注意事項並に實 例を收録せる辭典。
東京雄辯協會編 新しい演說の仕方	上四六判 292	八〇 日本圖書	月三	▲新時代の實生活に適切なる材料を收録して 説ける書。
東京雄辯協會編 明るい演說と挨拶	上四六判 314	八〇 日本圖書	月三	▲演說、式辭、答辭、挨拶文を加入したる演 説参考書。
東京雄辯協會編 正しい演說の仕方	上四六判 290	八〇 日本圖書	月三	▲雄辯演說、式辭、挨拶、弔辭、挨拶とは何 か等。
東京雄辯協會編 新らしい正しい演說	上四六判 325	八〇 日本圖書	月三	▲演說、式辭、答辭、挨拶、弔辭。
東京雄辯協會編 これからの新しい演說	上四六判 293	八〇 日本圖書	月三	▲雄辯演說、式辭、答辭、挨拶、弔辭。
東京雄辯協會編 正しい演說と其こつ	洋四六判 370	一〇〇 日本圖書	月二十	▲辯論演說、音聲に就いて、音聲の練習、政 治、軍事、官衙、教育、土木、團體、其他。
三原山合吉奉勅書 廣澤參議神道碑	唐本仕立 二〇〇	小笠原書院	月二十	▲書者が明治大帝の勅を奉じて揮毫せしもの 文字二寸五分大四六四倍判摺書碑帖。
石川雅山 例新式書道	布四六判 258	改潮社	月五	▲基本點畫の濃淡を表示し趣味と實用の兩方 面より解説を施せるもの。
半田神來編 指導書道新	洋四六判 262	二松堂	月二十	▲行書學習の指導書で、基本點畫、行書體、 點畫の省略、行書體の研究外十六章。
楠瀬日年編 文人弄筆便益	洋四六判 550	書齋社	月二	▲文事篇、書便篇、書益篇の三篇に分け、雅 號に就て以下二十餘項を説述。

(7-10)

加藤 樂山	高橋 觀城	大橋 水月	平田 幹三	柳 田 邦	杉江 春象	木 俣 波	木 俣 波	木 俣 波	木 俣 波	黒柳 勳外一	黒柳 勳外一	石 島 古	石 島 古
ペン習字 三體和漢名詩選	三行草 ペン書道寶典	ペン書き方とくづし方	現代ペン字商業文	ペン字三體はがきの書方	就職用の手紙と履歴書の書方	楷書 千字文	行書 千字文	草書 千字文	ペン手紙と現代女子書翰文	ペン手紙と現代女子書翰文	新しい口語體 現代書翰文	正しきペン習字書簡	新時代のペン習字書簡
上四六製判	洋四六製判	上四六製判	上編	上四六製判	上編	和四六倍判	和四六倍判	和四六倍判	和四六倍判	和四六倍判	和四六倍判	洋四六製判	洋四六製判
219	245	140	114	201	30	91	91	91	500	500	91	160	160
六〇	一四〇	六〇	八〇	八〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
雄山閣	興文書院	成慶堂	現代ペン字研究会	中村書店	硬筆書方調査會	國華會本部	國華會本部	國華會本部	文販堂	文販堂	日本圖書	日本圖書	日本圖書
月五	月十	月三	月二	月十	月二	月十	月十	月十	月八	月八	月三	月九	月九
▲最も人口に膾炙せる和漢の詩篇を収録して楷行草の三體にて書せるもの	▲假名、漢字及び手紙の文例をペン書せる寶典	▲普通一般に用ひらるる漢字の多くを収めて楷、行、草の三體にて書せるもの	▲披露状、取引、買込状、宣傳文其他、紹介推薦、就職轉勤等六章七十八項	▲各種のハガキ文例を眞行草三體に認めた書	▲就職の世話を頼む文、採用を申込み文、就職準備運動其他、附録履歴書用紙	▲木俣曲水氏の楷書大字模寫練習帖で説明圖を附載	▲木俣曲水氏の行書千字文模寫練習帖で説明圖を附載	▲木俣曲水氏の草書千字文模寫練習帖で説明圖を附載	▲新しい手紙文を例と共に載せ黒柳氏のペン手紙を眞行草三體に分つ	▲新しい手紙文を例と共に載せ黒柳氏のペン手紙を眞行草三體に分つ	▲新年會の通知、婚禮の手傳を附し、見舞状招き事、紹介状、祝事其他の返事、名士の手紙	▲名士の手紙、ペンを持ち方、練習法	▲音訓索引付毛筆くづし方辭典

(7-11)

江 波 照	文明社編輯部編	三省堂編輯所編	小柳 司氣太	字野 哲人編	植 松 尙 男	淺田 政 一 郎	石 島 古 城書	書道研究會編
參考古語辭典	モダン漢和辭典	常用漢字新辭典	新修漢和辭典	新漢和字典	速記術手ほどき	應用速記術	趣味のペン習字書簡	毛筆くづし方辭典
洋四六製判	洋三六製判	並編	洋四六製判	洋四六製判	洋四六製判	洋四六製判	洋四六製判	洋四六製判
416	1250	295	1990	1872	107	99	160	340
二〇〇	一七〇〇	三〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
中文館	文明社	三省堂	博文館	三省堂	文友堂	松榮堂	日本圖書	日本圖書
月一十	月九	月九	月二	月二	月二	月一十	月九	月三
▲近古近世の作品に就て必要な語を採録し解説したもの	▲音でも、字訓でも、字割でも引ける現代的な漢和辭典	▲文部省國語調査會查定の常用漢字千八百五十八字の意義を網羅した字書	▲現代普通教育に必要な漢字一萬八百有餘を選んで解釋せる辭典	▲須要なる漢字を枚舉して見出しとなしこれに精細なる釋訓を施し故事成語を附録となす	▲練習例題を附せる誰にでも直ぐ覚えらるるやうに書いた速記術獨習書	▲速記術そのもの、本質的解説書で、基本符號、簡約用語、練習問題外一篇	▲名士の手紙、ペンを持ち方、練習法	▲音訓索引付毛筆くづし方辭典

日用語・新語辭典

鈴木周作	引音日用辭典	洋函三六	布入判	750	一〇〇六〇	弘道館	五月	▲實用的語彙を多數集録し發音引として假名遣ひを附記せる辭典
松華堂編	法律・經濟・新語・俗語・同音・其他 日用大辭典	洋函三六	布入判	940	三〇〇八〇〇	松華堂	十月	▲社會百般の外来語新語を網羅記述せる辭典
佐藤誠	手紙用語辭典	並菊半	製珍	34	二〇〇	日の丸堂	五月	▲起筆用語、結尾用語、時候用語、安否の言葉、收結の言葉其他を收録せる辭典
佐藤誠	銀座用語辭典	並菊半	製珍	43	二〇〇	日の丸堂	五月	▲銀座の流行語を蒐録して五十音調に排列せるもの
松樂寺三郎編	標準現代語常用辭典	洋菊半	布裁	831	一、三〇〇	文嶺閣	六月	▲書翰文範、いろは引常用辭典、臨時國語調査會新假名づかい外一部より成る辭典
社會ユーマ編	社會ユーマモダン語辭典	上油	製珍	400	一、〇〇〇	鈴響社	六月	▲滑稽、洒落、隱語、俗語、和製英語、モダン語、スポーツ語其他を收録せる辭典
改造社編	最新百科社會語辭典	洋函菊	布入判	353	八〇〇	改造社	五月	▲醫學、社會學、官賞、政治其他の社會語百般を網羅し五十音順に配列す
石山福治編	支那語大辭典	洋函	布珍	995	一、八〇〇	文求堂	九月	▲携帶に便なる縮刷せる羅馬字發音順四聲發音付支那語大辭典。一縮刷版
井上翠	支那語辭典	洋函	布珍	1743	二、八〇〇	文求堂	十月	▲現今支那に於て普通に使用されてゐる文字八千二百餘を逐み對譯を施す。一縮刷版

支那語辭典

外國語辭典

宮原明民編	支那破音字典	洋函	布珍	374	一、〇〇〇	文求堂	九月	▲ウェーリド氏式の羅馬字發音符號に據つた支那破音字典
矢野龍吉助敏	支那語辭典	洋函	布珍	766	二、八〇〇	尙文堂	四月	▲部首索引、檢字、發音の三種の索引を附し初學者にも容易に使用出来る編綴せる辭典
文學博士 藤二	大英和辭典	洋函四六	布入判	1638	特四、六〇〇	大倉書店	十月	▲諸方面に涉つての新造語を蒐集して譯述せる大辭典で、第一卷はAよりLまで
文學博士 藤二	大英和辭典	洋函四六	布入判	2119	特七、五〇〇	大倉書店	十月	▲第二卷はMよりZまでを蒐録す
東京開成館編	標準英和辭典	洋函三六	布入判	658	一、五〇〇	東京開成館	三月	▲英語學習の實際に必要な見出語を豊富に譯集せる英和辭典。一洋布一冊三十錢
岡田實三郎編	新式英和辭典	洋函三六	布入判	505	一、五〇〇	素人社	一月	▲新式小型英和辭典
金井半三郎編	ベスト英和辭典	洋函三六	布入判	900	特二、八〇〇	好文閣	十一月	▲一一般語を初め人名地名、社會語新語を多く載せた英和辭典
東洋大學教授 三木春雄編	ダイヤ英和辭典	洋函三六	布入判	954	一、五〇〇	至誠書院	四月	▲主として中等程度を目標とした英和辭典。一洋布一、五〇〇
東京文大教授 石川林四郎編	新コンサイス英和辭典	洋函三六	布入判	965	二、五〇〇	三省堂	四月	▲ローマ字綴を以て見出語を發音のままに寫記せる和英辭典
英法研究會編	英和法法律辭彙	洋函三五	布入判	114	四〇〇	ロゴス書院	三月	▲現在教科書に採用されてゐる數多の原書を基準として術語を選択し譯語を附す
法學士 菊地潔	英和法法律經濟用語新辭典	洋函新四六	布入判	674	三、五〇〇	太陽堂	一月	▲法律及經濟用語約二萬五千を網羅し獨英和を一冊に纏めた辭典
H・I・クレスウェル	兵語辭典	洋函新四六	布珍	1462	六、二〇〇	開拓社	六月	▲英和、和英の兩方より成り語彙の豊富最新の内容定義の適確等を期して編纂

東京開成館	英文法辭典	洋袖布珍	三六	四	東京開成館	▲英文法に關する限り何でも分り文例も豊富に載せた和英兩方から引ける辭典。
德尾俊彦編	新佛和熟語辭典	華三五號判	470	三六〇	白水社	▲熟語、成句、俗語、諺語、詩語其他多數を収録せる辭典。
小澤部	日英獨逸語單辭典	布三六號判	348	四〇	株式會社	▲英語より獨逸へ入る學徒に必須の獨英和辭典。
(D) 外國語						
外國語一般						
柴田義彦	外國語の話し	並四六號判	50	二五	社會協會	▲外國語の必要以下十六項にて説述。
加茂正一	歐文タイプライター手引	布三六號判	75	一〇〇	文友堂	▲ローマ字書きの日本語を本位としてタイプライターの一般使用法に就て述べた書。
英語學習書						
エイクン著	英語の現在と過去	洋四六布入判	301	三〇〇	研究社	▲新しい態度で古い英語の正確な知識を述べたもので、英國語の概観外三篇。
中島文雄	英語學とは何か	並編	98	四〇	刀江書院	▲語學の意義、フィロロギの領域問題、言語學とフィロロギ外三章にて論述。
日本英文學會編	英語英文學論文集	並編	148	一〇〇	研究社	▲昨日、一昨日(島崎藤村)現代英語に於ける文學の影響に就いて(鈴木重威)外廿一章。
余弘正雄	實驗英語音聲學	洋四六布入判	3.5	一八〇	文友堂	▲英語發音法の實驗的研究で、音聲の主觀的及び客觀的研究法、破裂音外廿七章。

近藤義一郎	英文の型と其の構造、分析、文法	並四六號判	148	四〇	保古社	▲正規的英文とその要部の型總て、英文分析法詳細、文法要點詳細、英作と英譯の基礎。
清水清	英語の正しき研究	洋三六布判	223	六〇	泰文館	▲理解し易き様平明に説ける英語の研究書で動詞、名詞、形容詞外一章。
宇都宮浩	新ABCの手ほどき	洋三五布判	158	一五〇	泰文堂	▲音標文字、文字、單語、文章、基礎公式、慣用語句外二章にて説述。一改訂増補版。
福本享	唯れにもわかる英語の讀み方	洋四六布判	267	一五〇	大日書房	▲唯れにもわかる様平易に英語の讀み方を説ける書。
米本新次	英語の第一歩	洋四六布判	516	一三〇	文修堂	▲英語の構成と應用に關して説けるもので、發音の基本外二編。
岡田實	卒業までわれらの英語	洋三六布判	367	一三〇	青々書院	▲一通りの英語の知識に就き述べたもので、發音及び綴字、われらの英語教課外一篇。
櫻井役	ABCの初等英語の先生	洋四六布判	167	六〇	受驗研究社	▲ABCから中等二年程度迄の英語を自學出来るやう説述せる書。
松本正雄	プロレタリア英語入門	布四六號判	200	一三〇	鐵塔書院	▲プロレタリアートの必要を顧慮して説ける英語入門書で、英語の概念外三篇。
内山常治	新英語4週間	洋四六布判	259	一三〇	尙文堂	▲ABCの發育からリダ第二卷の程度に及ぶ英語の基礎概概を説いた學習書。
高谷實太郎	高等英文法	洋四六布判	468	二五〇	泰文社	▲高等學校に於ける英文法の教科書で、名詞冠詞、形容詞、比較其他。
齋藤秀三郎	置詞大完	洋四六布判	1310	七〇〇	正則英語學校出版部	▲前置詞に就て詳述したもの。
細江逸記	動詞時制の研究	洋四六布入判	193	二二〇	泰文堂	▲動詞とその時制概観、Present Tense Present Perfect 外二章。
收	英語重要單語の統計的研究	洋四六布裁	281	二〇〇	松邑三松堂	▲英語に於ける重要語彙を統計的に調べたるもの。

河合逸禪	岩田奇禪	長沼直兄	野原三郎	伊佐襄	木畑竹三郎	小野圭次郎	瀧川規一	青木常雄	石橋幸太郎	海江田進	須藤象吉	佐藤竹次郎	岡田實
八五〇基礎英語の應用	標準英語單語集	標準英語單語集	英語基本單語集	英語單語の知識のふやし方	常用英文熟語例解	最新英語の熟語	英文熟語講義	英文文法	英文文法	英文文法	英文文法	英文文法	英文文法
洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋三六布判	洋三六布判	洋三六布判	洋三五布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判
181	408	231	307	256	345	295	111	305	144	388	400	500	550
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
開文社	開隆堂	開拓社	研究社	研究社	日英社	山海堂	日本文學社	修文館	四條書房	歐文社	昭和出版社	青々書院	青々書院
月十	月九	月三	月二	月五	月六	月二	月一十	月一十	月九	月十	月二	月五	月二十
▲八五〇基礎英語とは何か、Basic Englishの規則に就て、名詞其他十四章にて説述。	▲英語學習の根柢たる標準英語五千語を容易に覚え得る合理的方法を提示せるもの。	▲文部省内の英語教授研究所の發表にかゝる英語單語を収録して譯語及び發音記號を附す。	▲英語基本單語五千を中心とし名詞、動詞、形容詞、副詞等に區分して解説。	▲人、教育、書籍、政治、軍事、趣味、交通自然の八章に分けて單語の習得法を説述。	▲重要な熟語、成句及文法なる構文の型を網羅し其譯語用例を示せる書。	▲熟語の覚え方其他必要な事項を詳述せるもので、熟語の知識の必要其他。	▲平生必要な慣用語を列挙して解説せる参考書。	▲解釋の中心を文法に置き各問題に涉つて詳註を施せる書。	▲廣い範圍から其材料を集め精確な譯文と懇切な註説を加へたもの。	▲英文解釋に就て研究詳述した書。	▲中學三年以上の英語學習者及上級學校への受驗者の知つて置く要件を詳述。	▲英文の基本的形式に始まり各課を十二課に分ち解説を加へ特に熟語の研究に努む。	▲中學四五年生の英文解釋上必須なる基礎事項を網羅して解釋を施せる書。

上條辰藏	岡田實	培風館編輯部編	松本環	佐々木賢治	守十良	菅田良岳	坪井道昇	長澤英一郎	北山太平	加賀谷林之助	青木常雄	瀧川規一
四五年生の英文解釋	二年生の英語讀本	三年英語基礎問題集	英文對譯受驗生の英語	英文和譯詳解	英文和譯新指導	女子英文和譯研究	工學英語解釋研究	新和文英譯法	和文英譯の研究	和文英譯の研究	和文英譯の工夫	和文英譯單語熟語選
洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判
550	465	92	362	317	262	310	380	371	337	608	318	188
二、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
青々書院	青々書院	培風館	育英書院	大進堂	培風館	大周社	太陽堂	昇龍堂	有朋堂	三省堂	研究社	日本文學社
月二十	月五	月十	月五	月四	月四	月六	月八	月一	月九	月一	月一	月二十
▲中學四五年生の英文解釋上必須なる基礎事項を網羅して解釋を施せる書。	▲英文解釋に必要な須要事項を詳細説明せる二年生の英語讀本。	▲三年程度の教科書より問題及び單語を選択して解釋せるもの。	▲中學校の四年程度から讀むべき英文の物語と小論文と偉人傳を収めて解説す。	▲最近の英文新聞及び雑誌等から難句難語を収録して譯註を施せるもの。	▲英文和譯の要領を丁寧に説述せるもので、十五章より成る。	▲女子の上級學校受驗用として著はされたるもの、問題千數百題を類別し講義。	▲機械工學を主とした電氣及化學工藝に関する問題を抜萃して解説す。	▲最近六七年間に於ける主要學校の入学試験問題を殆ど網羅して解説を施す。	▲最近七ヶ年の官公私立高等專門學校入学試験問題を類別蒐集して解釋を施す。	▲高等及び專門學校の入学試験の和文英譯に對する答案作成の準備を指導せる書。	▲和文英譯上の諸注意諸工夫を説いたもので豫備的知識、語句構文の暗示外二篇。	▲最近五年間に於ける高等專門學校の和文英譯入試問題中より其代表的なものを集録す。

語學 (英語學習書)

三浦太郎	倉山長	神英二	長澤英一郎	堀口香洋	岡田實	伊小法	鈴木芳松	白井總好	神戶榮	平井義富	最上梅雄	前田定之助
高等學和文英譯問題新解	新和文英譯基礎八〇項	英作文の組立法	大學生英文作文練習	英作文講話	二年生の家庭英作文	受験上級生の英作文	要項受験生の英作文	英語書取の聴き方と書き方	英會話	最新英語會話	英語會話基礎句研究	商業英語研究
並四六判	並三五判	並三六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並三六判	並四六判	並四六判	並四六判
334	179	300	153	174	490	361	330	179	255	290	120	512
八五	一〇〇	八〇	一三〇	一〇〇	一三〇	一三〇	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
泰文堂	タイムス	昭和出版社	研究社	弘道閣	青々書院	泰文堂	日英社	タイムス	昇龍堂	東洋協會	大小タイムス出版所	東京泰文堂
月七	月十	月二	月九	月六	月五	月五	月一	月四	月九	月八	月十	月四
▲高等學校別に最近七年間の和文英譯入試問題の内容構文を詳述して解譯を施す。	▲和文英譯の重要事項に就て述べた書で、代名詞、形容詞、否定の形式外九章。	▲中等二三年以上の英文構成を詳述し、指針問題、解答篇の三段に分つ。	▲官立大学の入試問題及び文部省の檢定試験問題を集録して二通りの譯文を施す。	▲中等學校上級生及高等學校の學生の英作文參考書で、文章法、語句論外二篇。	▲中等程度初年生の爲に平易な題材を選んで解説せるもので、基本文外一篇。	▲和文英譯の基礎知識、和文英譯公式、應用和文英譯の三篇に就て述べた受験研究書。	▲英作文の基礎的構造を説けるもので、重要代名詞、分詞と動名詞外十一項。	▲例題及注意すべき發音、重要な語句等を掲げた英語書取の獨習書。	▲現代人の日常話題にのぼる題材を捉へて自然と會話感をえしむる様興味本位に説述。	▲會話の常識、日常會話、鐵道會話、名所日用語句集。	▲談話體英語の主要なる基礎句を輯録し之れに簡明なる説明と使用例を示せるもの。	▲廣く商業に關する英語の研究で、商店會社に關する英語、賣買の英語外九章。

語學 (英語問題集・英文學・註釋書)

英語通信社	川合友次郎	後藤乾藏	清美堂編輯所	小野圭次郎	清水起正	青年教育普及會編	英文學	英文學	英文學	英文學	英文學	英文學
高級英語問題詳解	高等學校入學試験英語問題集	官立大學入學試験英語問題全集	公立高等學校入學試験英語問題集	高等專門學校入學試験英語問題集	高等專門學校入學試験英語問題集	高等專門學校入學試験英語問題集	マンスフィールド	マンスフィールド	マンスフィールド	マンスフィールド	マンスフィールド	マンスフィールド
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
316	154	259	203	202	200	226	66	73	73	73	69	66
八〇	四〇	一〇〇	六〇	四〇	四〇	四〇	二五	二五	二五	二五	二五	二五
英語通信社	育英書院	大同館	清美堂	山海堂	二三子堂	青年教育普及會	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社
月四	月五	月二	月六	月五	月七	月二十	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲昭和七年度の高等學校、專門學校の入學試験英語問題の解答集。	▲高等學校及專門學校の昭和七年度入學試験問題を和譯、英譯、文法、書取に分け收む。	▲各官立大學の當初の入試問題より今日に至る迄の理科の問題を集録す。	▲過去十餘年に亘る各高等學校の英語入試問題を蒐集せるもの。	▲凡べての問題の性質構造を精査して幾多の公式の下に分類し解法ヒントを施す。	▲高等學校及び專門學校の昭和七年度英語入試問題を收録して解説を施す。	▲文部省直轄學校の入學英語問題を收録して講評を施せる書。	▲マンスフィールド女史の小品文に註釋を施せるもの。	▲マンスフィールド女史の短篇三篇譯註。	▲コンラッドの短篇「青春」に解説註釋を施せるもの。	▲ミイラを中心とするコナン・ドイルの小説に解説註釋を施す。		

ポールドウケン著 佐藤正治譯註	増子義亮譯註	長野綱夫譯註	西村 穉譯註	花 園 兼 一 定 譯 註	戸 田 謙 介 譯 註	柴 孝 平 譯 註	小 日 和 幹 夫 譯 註	花 園 兼 一 定 譯 註	清 水 起 正 譯 註	坂 英 四 郎 譯 註	ス 川 孝 四 郎 譯 註	平 田 亮 木 譯 註
英文註釋書(19)	英文註釋書(21)	英文註釋書(22)	英文註釋書(23)	英文註釋書(24)	英文註釋書(25)	英文註釋書(26)	英文註釋書(27)	英文註釋書(28)	英文註釋書(29)	英文註釋書(30)	英文註釋書(31)	英文註釋書(32)
フエイマス・ストーリーズ	ウイリアム・テル	ギリシヤ・ローマの神話	ジョンソン博士傳	ハーン短篇傑作集	タングルツウド物語	吉 田 寅 次 郎	四六時中の生活法	野 性 の 呼 聲	トワイストールド・テイルズ	蜘蛛の網の家	ガリヴァ旅行記	リットル・ウイメン
洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判
191	229	239	209	209	207	143	145	359	231	321	177	207
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語
月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月五	月五	月六	月七	月六
▲ファイフティ・フエイマス・ストーリーズ中より選出せるもので、ミニオン外廿四篇。 ▲ウイリアム・テル物語の譯註。	▲神々からの二つの贈物、よき歌ひ手の話外十九篇のギリシヤ・ローマ神話の譯註。 ▲サムエル・ジョンソン傳、キリヴァー・ゴードン・スミス傳の二篇譯註。	▲東洋に於ける私の最初の日、七夕物語、クサヒバリ、倩女離魂の話の四短篇譯註。 ▲ギリシヤ神話中の極く有名な物語りの譯註で、パンドラ、ホーシス外三篇。	▲流麗な文章を以て知られたステイヴンスの短篇の譯註で、吉田寅次郎外二篇。	▲一日二十四時間の最有効的能率的使用法を説けるもので、日毎の奇蹟其他譯註。 ▲原始の中へ、棍棒と牙との律法外五項より成る「野性の呼聲」の譯註書。	▲吾輩は共同水道である、デーヴィッド・スウオーン外五篇に譯文を添へ註釋を施す。 ▲蜘蛛の巣の家、クリストファスン、貧乏紳士外ギツシンの短篇三篇の譯註。	▲小人國航海外一篇を収む。譯註。	▲全篇廿三章より成るオルコット女史のリットル・ウイメンの最初の五章を抽出譯註す。					

ス 原 順 一 譯 註	土 井 晚 翠 譯 註	佐 久 間 原 譯 註	ク ン ズ 一 郎 譯 註	柴 孝 平 譯 註	増 子 義 亮 譯 註	矢 島 敬 二 譯 註	ゴ ー ル プ ー ジ 譯 註	ホ ー ソ ン 清 譯 註	布 上 莊 衛 譯 註	サ 井 磯 吉 譯 註	鈴 木 基 一 郎 譯 註	三 木 春 雄 譯 註
英文註釋書(33)	英文註釋書(34)	英文註釋書(35)	英文註釋書(36)	英文註釋書(37)	英文註釋書(38)	英文註釋書(39)	英文註釋書(40)	英文註釋書(41)	英文註釋書(42)	英文註釋書(43)	英文註釋書(44)	英文註釋書(45)
湖 上 の 美 人	チヤイルドハロウドの巡禮	オ・ヘンリ短篇集	鴉片服用者の懺悔	チエホフ短篇傑作集	アラビヤ夜話	聖 書 物 語	大 衆 に 話 る	ホオソーン短篇集	天 路 歴 程	ネ ル ス ン 傳	グリムとアンデルセン童話集	タゴール短篇集
洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判
237	541	431	459	285	239	201	205	599	233	151	247	259
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語	研外 究國 社語
月六	月七	月八	月九	月七	月八	月八	月八	月八	月九	月九	月九	月十
▲スコットの代表的作品たる湖上の美人及びアイヴアンのほか其他を収めて譯註を施す。 ▲「チヤイルドハロウド」の巡禮に譯註を施せるもの。 ▲二十年後、巡査と讚美歌、駁者兼から、自動車の特つ間外十二篇の短篇集。 ▲鴉片、鴉片の興ふる快樂、鴉片より受くる苦痛の三篇より成る名篇。 ▲賭、いとしい人、コーラスガール、堪らない氣持外六篇。 ▲アリ・ババと四十人の盜賊、漁師の話、盗人と盲人外四篇に譯註を施せるもの。 ▲聖書中の有名な物語を選んで譯註を施せるものでアブラハム傳外三篇。 ▲ローウェル百年祭に於て、米國人と英國人外五篇のゴールズワージーの講演選集。 ▲婚禮の凶鐘、牧師の黒いヴェール、豫言の肖像外ホオソーンの短篇八篇の譯註。 ▲凡ゆる試練と誘惑とに關つて神の道を辿り行く篤信なクリスチャンの有様を描いた書。 ▲一世の名将ネルスンの生涯を叙せるもので生ひ立ち、海員生活の第一歩其他。 ▲憐れなマツチ賣りの少女、野薔薇、月の物語、黄金の若者外十二篇の童話集。 ▲夜中、叔母、姉、昔王様があつた、郵便局長、隣りの美人外三短篇集。												

浦口文治	新評註ハムレット	洋四六	布判	304	二、三〇	三省堂	月一十	▲ハムレット、ヴェニスの高人、テムペスト、グエロナの二紳士、以上四篇の原文及譯註。
山口晃	シエークスピア研究	洋四六	布判	216	一、八〇	泰文館	月一十	▲マクベス、各物語、御氣に召す、傑作一、何れも原文對照譯文並に註釋を附す。
關口晃	シエークスピア研究	洋四六	布判	216	一、八〇	泰文館	月一十	▲第三卷はオセロ、リヤ王、から騒ぎ、十二夜の四篇に譯註を施せるもの。
八住利雄	シエークスピア研究	洋四六	布判	198	一、七〇	泰文館	月一十	▲第四冊は「ロミオとジュリエット」「真夏の夜の夢」外二篇。
八住利雄	シエークスピア研究	洋四六	布判	198	一、七〇	泰文館	月一十	▲「犬とその影」外八十三篇を撰んで譯註を施す。
ラハ住利雄	シエークスピア研究	洋四六	布判	198	一、七〇	泰文館	月一十	▲「犬とその影」外八十三篇を撰んで譯註を施す。
山田惣七	イソップ物語新解釋	並三五	製判	231	四、五〇	泰文館	月一十	▲ミルの自由論に註釋を施せるもの。
松浦嘉一	自由論	並四六	製判	193	一、三〇	研究社	月一十	▲ハマーントンの代表的評論に譯註を施せるもので、家族の縁外四篇(一上巻七十號)。
清水ハマー	アラビアン・ナイツ物語講義	布四六	裝載	173	四、五〇	研究社	月一十	▲アラビアン・ナイツ中の最も人々に膾炙された物語の譯註で、第一航海其他。
英語普及會編	アラビアン・ナイツ物語講義	布四六	裝載	173	四、五〇	研究社	月一十	▲エリオット女史が幼時育つた社會を理想化して描寫せるサイラス・マーナの講義。
宮田オット	サイラス・マーナ講義	布四六	裝載	654	二、三〇	健文社	月一十	▲有名なグリムのお伽話の講義書で、眠り姫、ハンセルとグレンテル外十四篇。
英語普及會編	グリムズ・フェアリ・テイルズ講義	布四六	裝載	654	二、三〇	健文社	月一十	▲デフォオの代表作ロビンソン・クルーソーの原文を収めて譯註を施す。
英語普及會編	ロビンソン・クルーソー講義	布四六	裝載	654	二、三〇	健文社	月一十	▲ステイヴンソンの傑作の一つであるドクタ・ヂーキルアンドミスター・ハイドの講義。
勝田孝興	ドクタ・ヂーキル・アンド・ミスター・ハイド講義	洋四六	布判	233	一、五〇	健文社	月一十	▲ゴリゴンの首、黄金自在力外三篇の原文譯文及び詳註を收む。
田部大藏	ゴリゴンの首、黄金自在力外三篇の原文譯文及び詳註を收む。	洋四六	布判	421	一、五〇	北星堂	月一十	▲ミツキマースのベビーゴルフの巻を漫畫に其説明を英文にて中等三四年程度に書いた物
中山準藏	ベビーゴルフ	洋四六	布判	421	一、五〇	北星堂	月一十	
岡田満壽夫	ベビーゴルフ	洋四六	布判	26	一、五〇	三友社	月一十	

深澤由次郎	ボオ短篇傑作集	洋四六	布判	589	一、八〇	研外究國社語	月一十	▲エドガアランボオの短篇傑作集で、畫像のいはれ、沈黙、赤死病の假面外五篇。
吉田周平	英國史	洋四六	布判	239	一、八〇	研外究國社語	月一十	▲英國の歴史物語を解り易く書いたもので、上代、ドルイド僧徒外廿四章。
市川又彦	武器と人・運命の人	洋四六	布判	393	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲ショウの出世作たる「武器と人」及び英傑ナボレオンを描ける「運命の人」の譯註。
小暮春雄	短篇傑作集	洋四六	布判	183	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲フランソワの最も名高いバルタザアル、聖母の曲藝師、クレンクビエユの三篇收録。
ス間トウ	トムズ・ケビン物語	洋四六	布判	261	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲奴隷に對する熱烈な愛を描ける小説で、人買ひ、夫と妻、エライザの逃走外十九章。
花川金之助	サロメ	洋四六	布判	105	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲アイルドがフランス文で書いた戯曲「サロメ」を對譯し詳註を施せるもの。
若目田武二	マンフレッド	洋四六	布判	207	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲英文學に於ける傑作の一つであるバイロン劇詩「マンフレッド」の譯註。
山崎貞譯註	コナン・ドイル短篇傑作集	洋四六	布判	257	一、三〇	研外究國社語	月一十	▲マスグレイルウ家の式文、ホスコム平註の事件、五粒の蜜柑の種の三篇に譯註を施す。
南日恒太郎	英詩文鑑賞	洋四六	布判	184	一、三〇	北星堂	月一十	▲南日氏の遺稿集で、Wild of the Happy Prince、外十篇を收録。
澤村寅二郎	沙翁入門	洋四六	布判	157	一、三〇	研究社	月一十	▲テキストを中心に各篇の梗概、解題、シエクスピアの年譜等に附して譯註を施す。
浦口文治	新評註ハムレット	洋四六	布判	304	二、三〇	三省堂	月一十	▲歐米の註釋書を參照集解して一々出典を明瞭に記してハムレットの本文を註釋。
山口晃	シエークスピア研究	洋四六	布判	216	一、八〇	泰文館	月一十	▲沙翁の四大悲劇創作期に於ける第一の傑作「ハムレット」に詳註を施せるもの。

語學(英文書)

荒井忠市郎	ミツキマースの音楽家	上編	製判	26	三友社	月十	▲ミツキマースの音楽家の巻を漫画に其説明を英文にて中等三四年程度に書いたもの
山崎宗直編	註解 小説 ロンドン 日刊タイムズ	上四六	製判	116	式九會善社株	月四	▲日刊タイムズの記事中より選り掲げたもの
山崎宗直編	註解 模範英語時事論説集	上四六	製判	168	式九會善社株	月四	▲英語時事論説を収載した書
山崎宗直編	註解 模範英語演説集	上四六	製判	213	式九會善社株	月四	▲英語演説を収載したもの
山崎宗直編	New Selections from the Times. No. 4. Studies in English Literature.	脊四布六	製倍	189	式九會善社株	月一十	▲I. The English Language. II. English Literature. III. Glossary. 文學的文學的の教養に資する教科書
山崎宗直編	New Selections from the Times. No. 5. Studies in English & English Literature.	脊四布六	製倍	142	式九會善社株	月一十	▲I. England and Englishmen. II. English Oratory. 英國魂を論じた古来の雄辯、安辭を衆
山崎宗直編	New Selections from the Times. No. 6. Studies in Political Philosophy.	脊四布六	製倍	149	式九會善社株	月一十	▲I. Politics and Law. II. Politics and Privileges. III. Politics and National Government
廣瀬水又起	英和語彙	洋四六	布入判	567	二三子堂	月五	▲英國神學博士レッグ氏の英譯になる論語に註を施せるもの
廣瀬水又起	英和語彙	洋四六	布入判	221	二三子堂	月十	▲孟子を英和雙譯せるもので、卷之一梁惠王卷之二公孫丑外五章
小泉八雲	英文學	洋四六	布入判	548	北星堂	月十	▲ハーンの文學論收載
エフ・エル・ハントレー	英詩研究	洋四六	布判	210	開拓社	月五	▲ワーズワース・キーツその他抒情詩に就て詳述した書(英文)
ブライアン	The Interpretation of Nature in English Poetry	洋四六	布判	324	開拓社	月四	▲英文學上に於ける自然と詩との關係を論じた書で Nature and Poetry 外十四章(英文)

語學(獨逸語)

桃井鶴夫	繪用獨逸語 30日	洋四六	布判	358	アルス	月九	▲文法偏重を避けて繪單語應用の譯讀に重きを置いた獨逸語自修書
關口存男編	獨逸語大講 第六卷	並編	製判	197	研外究國社語	月九	▲「無言の議員」に譯註を施せる獨逸語大講座の最終卷
關口存男編	獨逸語大講 第五卷	並編	製判	101	研外究國社語	月八	▲第五卷は「發音に關する諸種の知識」に就て説述せるもの
關口存男編	獨逸語大講 第四卷	並編	製判	234	研外究國社語	月七	▲不定法、接續詞、副詞、數詞、固有名詞、過去分詞と現在分詞外五講
關口存男編	獨逸語大講 第三卷	並編	製判	185	研外究國社語	月五	▲第二卷は動詞の三要形、六つの時稱の構成法、受働形と能働形其他を講述す
關口存男編	獨逸語大講 第二卷	並編	製判	175	研外究國社語	月四	▲第一卷はABCから文法の詳細な講義で、文字に就て、發音に就て外十講
三浦吉兵衛編	高等獨逸語講座 第三卷	洋四六	布判	235	大學書林	月一	▲第三卷は哲學論文、文學理論、自然科學、和文獨譯、社會科學の五講座
山崎春二	英日世界週遊記	上四六	製入判	137	研外究國社語	月二十	▲英文で書いた滿洲上海事變の解説記録
チー・ケーチャー	今日の英國	洋四六	布判	154	開拓社	月五	▲著者の日本に於ける隨筆感想集で、川柳、安來節其他數十篇
福喜多清之助	China-No-Yu	布編	裝判	111	式九會善社株	月九	▲英文を以つて茶道の奥儀をつくす、木版、コロタイプ版寫眞版十數面
GLENSHAW	日本雜草記	洋四六	製入判	389	北星堂	月七	▲現代英國の風俗習慣其他の事項に就き英文にて高等學校教科書用に編
ヘッランド社編	ENGLISH ENFANGLEMENTS	洋四六	布判	335	ヘッランド社	月七	▲世界週遊に出た著者の英語まじりの日記で船の中、ホノルル、桑港の三篇

語學(獨逸語)

三浦吉兵衛	井波卓一	マイエンブルク	六笠武生	角信雄	橋本清之助	關口存男	日獨書院編輯部編	桃井鶴夫	桃井鶴夫	上西半三郎	橋本吉通郎	星野道三
初獨逸語研究	獨逸語	マイエンブルク獨逸語習成	モデルネ・ドイチエーク	最新獨逸語文法	配語法と複文章の新研究	例題和文獨譯の實際	大試獨逸語問題と解答	新獨逸語單語の應用と解釋法	新獨逸語單語急速暗記法	最も實用的な新聞獨逸語の讀み方	化學獨逸語解釋研究	工學獨逸語解釋研究
並四六製刊	洋四六布判	洋四六布判	布四六製刊	布四六製刊	洋四六布入判	洋四六布判	並四六製刊	洋三六布判	洋三六布判	洋三五布判	洋四六布判	洋四六布判
243	287	288	136	250	410	220	251	285	337	419	354	345
一〇〇	一〇〇	二、三〇	一、三〇	一、六〇	二、三〇	一、三〇	一、三〇	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	二、三〇	二、三〇
崇文堂	南北書院	丸善社	賢文館	大學書林	南陽堂	橋書店	日獨書院	太陽堂	太陽堂	出版ス	太陽堂	太陽堂
月三	月五	月三	月一十	月三	月三	月一十	月九	月二	月二	月九	月十	月二
▲發音、文法、讀本の三篇より成る初等獨逸語研究。一普及版	▲文字と發音、語・文章及び文法の二篇にて説述。	▲獨逸語學習書。	▲ドイツ語の文法書で前篇詞論、後篇文章論より成る。	▲學習者本位の説明方針に従つて編述した初等獨逸語文法書。	▲配語法の立場から重要品詞の配置、單文章の組立法、複文章の構成其他を説述。	▲中級程度の獨逸文教科書で、熟語動詞の語順他動詞の絶対用法外七章。	▲昭和五年より同七年迄の全國帝大入試獨逸語問題を集録して解答を施す。	▲獨逸語單語五千數百を選びその應用を示した。	▲獨逸語學習上の基本單語五千數百を選び收む。	▲新聞獨逸語の總ゆる形式を網羅せるもので自然、國際、政治、社會其他。	▲化學研究者に取つて不可缺の獨逸語各種術語の研究書で、講義篇外三部。	▲技術者及び工學生の基礎的一篇。獨逸語學習で、

語學(獨逸語)

山岸光宣	關泰祐	大學書林編輯部	大學書林編輯部	小笠原稔	濱田三郎	小原慶正	多田基造	内田策二	小柳篤	小笠原稔	谷口秀太郎	谷口秀太郎	磯部幸一
文近世獨逸文學讀本	文現代法獨逸話選集	文世界童話傑作集	文グリム童話選集	グリムお伽噺講義	日獨對譯臨床短文例	高等獨逸文抄	獨逸語征伐	クローン獨逸日常生活	直截に印象的獨逸文法	直截に印象的獨逸文法	獨逸語講座	獨逸語講座	獨逸語の書き方
並四六製刊	並四六製刊	並四六製刊	並四六製刊	布四六製刊	洋三五布判	洋三六布判	上四六製刊	洋三五布判	布三六製刊	布三六製刊	並編製刊	並編製刊	洋四六布判
110	110	105	100	291	108	120	554	212	119	254	257	161	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一、八〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
大學書林	大學書林	大學書林	大學書林	株式會社	株式會社	株式會社	大倉廣文堂	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	大學書林
月三	月九	月九	月七	月五	月六	月九	月九	月六	月一十	月三	月三	月三	月二
▲グリテ、シルレルの詩、ハイネの隨筆、シュニツレル、エーグリス小説其他數篇を收む	▲現代獨逸の藝術童話十數篇を選んで、適當に排列したもの	▲千一夜話、アンデルセン、ハウフ等の童話から作と見做される數篇を選び翻刻したもの	▲グリム童話の中から傑作とされてゐる十數篇を選び翻刻したもの	▲初學的向きのグリムお伽噺の講義。	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂	▲獨逸語學雜誌に連載されたものを集成増訂

吉田 豊吉	大學書林編輯部	獨逸新興文學	並四六	85	二〇	大學書林	月一	▲アンデルセン・セグラー著名なる現代三作家の代表作數篇を收め、註を附す。
大學書林編輯部	獨逸新興文學傑作集	並四六	85	二〇	大學書林	月七	▲現代獨逸文壇の最も新しい傾向を代表する作家の代表作九篇を選び、翻刻したもの。	
紅 露文平	シユニツツンルと ワツセルマン二つの小説	並四六	75	二〇	大學書林	月一十	▲シユニツツンルの「殺害者」及びワツセルマンの「アダム・ウルバス」の二小説を收む	
高橋 績二	ゲーテと現代	並四六	78	二〇	大學書林	月一十	▲ワルター・リンデンの名著の翻刻、デーモン發展と人生思想、活力の自然科学の諸章	
大學書林編輯部	ゲーテ記念論文集	並四六	78	二〇	大學書林	月九	▲エミール・ルヴドヴィヒとフリドリヒ・グンドルフのゲーテ記念講演を録め一巻とす	
大學書林編輯部	市民時代の代表者としてのゲーテ	並四六	65	二〇	大學書林	月十	▲現代獨逸の二大作家トーマス・マン及びヘルマン・ヘッセのゲーテに關する二論文を收む	
石川 鍊次	現代の精神的地位	並四六	42	二〇	大學書林	月十	▲カール・ヤスバース教授の「時代の精神的地位」の序説の部分を翻刻したるもの	
舟木 重信	獨逸隨筆集	並四六	130	六〇	大學書林	月二	▲現代の著名な獨逸の詩人、文人、學者、批評家の隨筆論文批評等十篇を收め註を附す	
佐久間 政一	近代思想	並四六	100	四〇	大學書林	月四	▲オスカール・ワグネルの著書を脚註を附して翻刻したもの	
小池 堅治	現代自然科学論集	並四六	120	六〇	大學書林	月四	▲現代の自然科学の諸問題を平明に解説した諸名家の論文十數篇を輯め註を附す	
江間 道助	現代自然科学論集	並四六	125	六〇	大學書林	月一	▲ドジツタ・バウルニグリ等現代の著名なる科學者の自然科学に關する論文五篇を收註を附す	
磯部 幸一	醫學の勝利	並四六	50	二〇	大學書林	月九	▲N・エヴァン博士の「健康への指導者」の批評醫學の争闘と勝利との歴史を叙述す	
三浦 吉兵衛	ランケ歴史論文集	並四六	130	六〇	大學書林	月三	▲ランケの著名なる歴史論文を撰んで、翻刻したるもの	

青山 延敏	現代社會時事論文集	並四六	85	四〇	大學書林	月九	▲現代獨逸の指導的思想家の社會時事に關する諸論文を收む
長 守善	文政政治經濟讀本	並四六	130	四〇	大學書林	月九	▲ハンス・ケルゼン、M・T・ボン、カール・ディール、ルヴドヴィヒ・ミーゼス、の諸論文
丸善株式會社編輯	獨逸文記論集	並四六	94	六〇	式會善社	月五	▲ギーゼ、獨逸の國家思想、ホフマン・シュタール「希臘の風景」その他十餘項
根本 恒太郎	獨逸語論文研究	並四六	277	一八〇	太陽堂	月一	▲獨逸近代の論文及び著名なる學者、論客の各種論文に譯文と註解を施せる書
根本 恒太郎	獨逸語論文研究	並四六	258	一八〇	太陽堂	月六	▲獨逸語論文並に各種獨逸文の作成法を説けるもので、獨逸語の構造外七章
田中 康一	獨逸乙文章論	並四六	274	二〇〇	高陽書院	月十	▲定評あるハイゼ教授の獨逸文法書に據つて編述せるもので、格、詞の配置外十章
河 東 涓	ルンペン物語	並三五	55	二〇	尙文堂	月五	▲中級ドイツ新聞から取材したルンペンの告白で詳細な文法の説明と共に面白い讀物
奥 脇 要一	嘘吐け!	並三五	55	二〇	尙文堂	月六	▲ドイツ語文庫中の初級に屬する讀物
關 口 存男	マルテン・ハイデツゲルと新時代の局面	並三五	150	六〇	尙文堂	月五	▲難解をもつて聞えたマルティン・ハイデツゲルの哲學を譯註せるもの
黒川 武敏	金星を旅行するとしたら	並三五	50	二〇	尙文堂	月七	▲通俗天文学書
大野 勇二譯註	現世の苦しみ	並三五	100	二〇	尙文堂	月八	▲ドイツの短篇小説「現世の苦しみ」を譯註せるもの
青木 欽二	ヘラクレス物語	並三五	130	四〇	尙文堂	月七	▲初級物でヘラクレスの物語
多田 基譯註	日毎の訪問者	並三五	76	二〇	尙文堂	月九	▲クルト・キユヒラー作の「空中争闘」「日毎の訪問者」を譯述せるもの

語學 (獨逸語)

大野勇二譯註	工業染料製造化學	並三六製判	103	四〇	尙文堂	月二十	▲染料製造化學の原文を獨逸語で収め譯註を施せる書でズルフオン化外三章。
黒川武敏譯註	ドイツ語文庫(9) スポーアアルビニストの體験	並三六製判	125	四〇	尙文堂	月二十	▲山の知識を得ながら獨逸語を習熟出来る様「アルビニストの體験」を譯註す。
吹田順助譯註	ヘルデルリン詩集	洋四六布判	195	一八〇	春陽堂	月九	▲ヘルデルリンの譯詩集で、自然に、夕暮の空想、生の半ば外七九篇。
浦上后三郎解註	對譯シユミットボン傑作集	上四六製判	227	一〇〇	研外究國社語	月二十	▲獨逸派の白眉シユミットボンの傑作を収めて譯註を施せる書で、キスされた妻外四篇。
辻善定	和獨教材	洋四六布判	98	四〇	大倉書店	月二	▲自然科學に關する問題を比較的多く收めた和文獨譯練習。

佛蘭西語

語學 (佛蘭西語)

丸川順太郎	初佛蘭西語研究	並四六製判	212	一〇〇	崇文堂	月三	▲初等佛蘭西語の自習書。一書及版。
藤本民雄	組織的佛蘭西語研究	洋四六布判	179	六〇	研外究國社語	月七	▲讀み方、品詞論其他にて組織的に佛蘭西語に就て述べた書。
鈴木貫一郎	新式佛語要諦	洋四六布判	178	八〇	研外究國社語	月七	▲佛語で書いた上級文法書に進む中學卒業程度の人々の準備用書。
澤柳貞晴	フランス動詞變化の彙	洋四六布判	162	六〇	研外究國社語	月三	▲佛蘭西語を學ぶ者にとつて最も難關とする動詞の變化に就て述べたもの。
馬屋原實	佛蘭西語動詞及び前置詞の研究	洋三五布判	382	六〇	太陽堂	月九	▲佛蘭西語學習上最も難易なる前置詞を伴ふ動詞の用法に就て述べたもの。
井上源次郎	組織的佛蘭西語發音法	洋四六布判	190	一〇〇	研外究國社語	月七	▲單語の正しい讀み方、句の朗讀法等にて佛蘭西語の發音を組織的に組織的に説述。
鷺尾猛	佛蘭西語基礎熟語二〇〇〇	上三五製判	268	六〇	出版タイムス	月一	▲初歩的基礎的佛蘭西語熟語約二千を収録してABC順に配列解釋す。
桃井鶴夫	新々佛蘭西語急速暗記法	洋三六布判	252	一〇〇	太陽堂	月一	▲佛蘭西語學習上の基本單語五千語をABCの順に並べ最も一般的な單語を附す。
目黒三郎	佛蘭西會話	布四六製判	329	一〇〇	白水社	月七	▲訪問、食事、人體及び健康、家族外四十四章にて標準會話を蒐録す。
藤本民雄編	佛語論文作法研究	洋四六布判	271	一八〇	太陽堂	月四	▲佛文論語並に各種佛語の作成法を説けるもので、佛語の構造佛文法の要所外九章。
小林龍雄	佛語選文讀本の講義	上四六製判	228	一〇〇	研外究國社語	月五	▲初級佛蘭西選文讀本の講義で、發音譯讀を主とす。
秋田支務譯註	現代佛蘭西語研究	上四六製判	159	一〇〇	研外究國社語	月二十	▲現代佛蘭西の代表的作家十二人の作品を選んで譯註を施せる書で、無言劇其他。
秋田支務譯註	近代コント撰集	布四六製判	142	一〇〇	白水社	月九	▲アポリネールの「碧い眼」ルナアルの「ピ」其他六篇のコント集。

下永憲次	奈良一雄	林龍編	今井信一郎	宮腰正文	三科樂山	參謀本部編	田尻泰	藤木教實	足立忠八郎	甲斐靖	善迅	岩村成允
日蒙會話	ボケツト満日會話	滿洲語會話獨修	滿洲語會話獨修	滿洲語會話獨習	滿洲語一週間	日支會話	日支會話	日支會話	日支會話及時文	日支單語と會話	魯迅創作選集	支那現代文
洋編半布裁 257	布裁 270	洋三五布裁 232	洋三六布裁 180	上三五製判 205	上編半製裁 172	並袖製珍 220	洋三六布判 89	洋三六布判 388	洋編半布裁 788	洋編半布裁 471	並四六製判 128	洋四六布判 95
西香	西六	西五	西六	西六	西六	西三	西三	一、六	二、〇	一、〇	六、〇	二、五
川流堂	尙文堂	二松堂	橋書店	日本書院	内外社	兵用圖書株式會社	日東書院	春陽堂	金刺芳流堂	駿々堂	文求堂	東亞研究會
月四	月九	月八	月十	月五	月四	月二十	月八	月七	月六	月七	月四	月四
▲外蒙古ウランベートル附近で常用される標準語を會話體に収録せるもの。	▲滿洲語の最も初歩から四聲發音を一々付して日常必要な對話、單語、散語を収めたもの。	▲日滿會話の入門書で、支那語に對する概念會話編外二編。	▲滿洲に移住する人々の爲に必要な通語を、用的に編纂せるもの。	▲南北滿洲から蒙古へかけて使用されてゐる言語の必要な會話だけを集録説述す。	▲滿洲の日常必須語を輯め平明に講述せるもので、發音、常用語、會話外一篇。	▲滿蒙の地に又支那を研究せんとする者の爲に編纂された會話書なり。	▲單語、市府、旅館、鐵道、郵便局、道を尋ねる、訪問外十三項より成る會話集。	▲支那の代表的標準語たる北京官話に就ての平易なる解説書。	▲單語、入門、社交談論、兵事談論、尋常用語、書信用語外六篇にて説述。	▲四聲を註し發音を正し註解を施せる北平官話の詳細なる指導書。	▲支那第一の文豪魯迅の名作四篇阿語正傳・藥・孔乙己・故郷の四篇を輯印したもの支那文藝の精華なる指導書。	▲白話文、書翰文、カード、領收書、電報、公文等。

語學(支那語・滿洲語・西藏語)

矢野藤助	池田澄達	金鳥若水	金鳥若水	廣野鳥若	宇治武夫	中垣虎兒	桃井鶴舟	石黒修	ボエウ教育部編	露木清彦
用實支那語會話	初西蔵語讀本	對日鮮會話獨修	對日鮮會話獨修	三ヶ月日鮮語新會話	速習式馬來語入門	初等エスペラント講座	應軍用エスペラント30日	エスペラントの手紙書き方と文例	エスペラントの必携手帳	武士道刀劍鑑
洋編四六布判 162	上編製判 108	洋編半布裁 247	洋編半布裁 361	洋編半布裁 361	並三五製判 95	布四六製判 169	洋四六布判 220	洋四六布判 306	布四六製判 253	並編半製裁 21
西六	三、三	六、六	八、八	八、八	二、五	六、〇	一、八	一、二	四、五	二、五
小學書林	山喜房	近代文藝社	近代文藝社	近代文藝社	岡崎屋書店	鐵塔書院	内外社	文理書院	鐵塔書院	日本エスペラント學會
月二十	月四	月五	月五	月五	月二十	月三	月四	月九	月三	月三
▲日用單語、普通會話、商業會話、附録の四篇にて實用本位に一貫したものである。	▲佛敎を研究する者の爲に西藏語の初歩讀本である。	▲初學者をして可及的に實用的韓語に通曉せしむるやう説けるもので、諺言と音外卅章。	▲最も時勢に必要な言語のみを蒐集して解説せるもので、語學外二篇。	▲馬來語に就いて、人に物を問ふ時の注意に就いて其他にて説ける馬來語入門書。	▲唯一の國際語として採用されてきたエスペラントの入門書。	▲僅か三十日の間にエスペラントの一切を終了出来るやう説述せるもの。	▲エスペラント手紙の書き方及び文例に重心を置いて述べたもの。	▲記入出来るやうになつてゐる手帳。	▲刀劍の本質、刀劍の歴史、刀劍の概説、刀劍の流派の四章にて記述。一エス文一。	▲日本刀に就いて。

語學(鮮語・馬來語・エスペラント)

磯部幸一	醫學生のラテン	並四六製判 30	二五	大學書林	月四	▲醫學生の心得べき程度のラテン文法。發音名詞、形容詞、數詞、前置詞等の解説及び練習。
------	---------	----------	----	------	----	--

早稻田大學教授
日高只一 著

アメリカ文學概論

定價金二圓二十錢・東京堂 版

中垣虎昇郎譯	豐年飢饉	並四六製判 42	二四	鐵塔書院	月七	▲德永直氏の「豊年飢饉」をエスペラントに譯せるもの。
石黒修	エスペラントの基礎	上四六製判 320	一〇〇	博文館	月二十	▲エスペラントの創始者ザイメンホフ博士の原著に基き書かれた書。
下村芳司	新エスペラントの書方	洋四六布判 368	一〇〇	博文館	月三	▲エスペラント文の各種手紙の書方を實例によつて示したもの。
野原休一譯	エスペラント大學中庸	洋四六布判 98	七五	博文館	月七	▲大學と中庸のエスペラント譯。
野原休一譯	エスペラント大學中庸	洋四六布判 98	七五	博文館	月七	▲大學と中庸のエスペラント譯。
野原休一譯	佛說阿彌陀經	並菊牛製紙 20	二五	博文館	月五	▲佛說阿彌陀經のエスペラント譯。
小坂羽二譯註	エスペラントイソップ物語	並四六製判 69	二五	博文館	月四	▲イソップ物語のエスペラント譯に脚註を加へたもの。
下村芳司	エスペラント童話集	並四六製判 125	六〇	博文館	月十	▲別掲「エスペラント童話讀本」に和譯および註釋を施したもの。
下村芳司譯	エスペラント童話讀本	並四六製判 44	二〇	博文館	月九	▲西洋の童話九篇をエスペラント譯して教科書用としたもの。
伊井迂	綠葉集	並四六製判 126	六〇	博文館	月四	▲エスペラント原作詩、萬葉、古今、その他和歌、俳句、漢詩、民謡等のエスペラント譯。
日本トエスベ	中村精男博士遺稿	並四六製判 104	四〇	博文館	月五	▲日本エスペラント學理事長故中村博士のエスペラント文科學論文とエスペラント譯文。
日本トエスベ	エスペラント年鑑	並菊牛製紙 112	二〇	博文館	月九	▲エスペラント運動史年表、エスペラント會名簿、エスペラント運動のABC等。
日本トエスベ	國語の擁護を論じて 國際語に及ぶ	並四六製判 58	二〇	博文館	月五	▲題名と同じ黒板勝士の論文の他に、三宅雪嶺、神保格氏等の論文。
井上英一弘譯	言語學と國際語	並四六製判 182	七〇	博文館	月九	▲スピリトガイッチ原著、マルクシイズムから見た言語學。

目書行刊社版出スムイタ

	英語参考書
編輯部編纂 英語基礎單語四〇〇〇項	送價一、二〇〇
介長眞著 受驗英語新單語	一、〇八〇
介長眞著 新英文解釋基礎	一、〇八〇
介長眞著 新和文英譯基礎	一、〇八〇
介長眞著 英語基礎熟語	一、〇八〇
介長眞著 英語入試問題種本調べ	〇、三五六
遠藤武男著 和文英譯基礎單語句	一、〇〇〇
松村寛著 英語會話練習帳	一、八八〇
松村寛著 新聞英語の讀み方	一、五八〇
松村寛著 英語對照現代米語小辭典	一、〇八〇
白井同風著 英語書取の聽き方書き方	一、〇八〇
城谷默著 英語のバンクチユエーシヨシヨシ	送價一、五四〇
牧一著 分解式和文英譯	一、五二〇
佐伯有三著 分解式英文和譯	一、五二〇
獨、佛、露參考書	
高子木夫人著 獨逸語基礎單語	一、三〇〇
宮下義信著 新聞ドイツ語の讀み方	一、五〇〇
上西半三郎著 獨逸文法整理ノート	一、八六〇
大島桂吾著 佛蘭西語基礎單語四〇〇〇	一、〇八〇
鷲尾猛著 佛蘭西語基礎熟語二〇〇〇	一、〇八〇
大村雄治著 基本新佛蘭西語文法	一、二八〇
松田節著 露西亞語基礎單語四〇〇〇	一、〇八〇
露大使館編輯部編纂 ソヴエトロシア 略語新語辭典	一、八二〇

社版出スムイタ 區町麴市京東有
目丁二町樂
番一三〇〇六京東替振(部版出スムイタンバヤジ稱舊)

六、美術・音樂

(A) 美術・工藝・寫眞

美術評論・美術一般

著者	書名	裝釘體裁	頁數	定額送料	發行所	月行發	內容大意
外山卯三郎	美術史學の方法論	洋装布入判	183	二、五〇〇	第三書院	三月	▲美術史學と藝術學、ヴェルファリンの美術史的基本概念、様式史としての藝術史外二章。 ▲歴史的同時代性的の問題、時代による美術史の企て、時代としての美術史外四章。
神保光太郎	美術史に於ける時代の問題	洋装布入判	230	二、五〇〇	第三書院	十月	▲純粹繪畫の基本概念、純粹繪畫の精神、純粹繪畫の畫因外二章。
外山卯三郎	純粹繪畫論	洋装布入判	254	二、五〇〇	第三書院	一月	▲玉洲畫趣(桑山玉洲)山人饒舌(田能村竹田)靈禪畫適(安西雲煙)外一篇及解題
坂崎眞編	西洋文庫(828) 畫四種	並裝半製裁	152	四、〇〇〇	岩波書店	六月	▲都會の性格描寫とカメラ、東京と新建築其他研究評論斷想短評等を收む。
板垣鷹穂	藝術界の基調と時潮	洋装布入判	425	二、九〇〇	六文館	二月	▲ドイツ都市を主とする歐洲建築の諸相を述べたもので、伯林雜記其他。
藏田周忠	歐洲都市の近代相	洋装布入判	496	三、五〇〇	六文館	二月	

美術・音樂(美術評論・美術一般)

日本美術史・研究

Table with 10 columns: Author, Title, Edition, Pages, Price, Publisher, Date. Includes entries like 中村亮平 '日本美術の知識', '源豊宗編 '日本美術史圖録', and '鶴故郷含編 '白鳳之研究'.

西洋美術史・研究・評傳

Table with 4 columns: Author, Title, Edition, Pages. Includes entries like 川路柳虹 'マチス以後', '外山卯三郎 '最近フランス繪畫研究', and '外山卯三郎 '現代世界繪畫總論'.

東洋美術史・研究

Table with 6 columns: Author, Title, Edition, Pages, Price, Publisher. Includes entries like 外山卯三郎 '日本洋畫總論', '寶雲含編 '寶', '寶雲含編 '寶', and '寶雲含編 '寶'.

▲現代日本洋畫總論、反印象主義と繪畫的個性、新古典主義的繪畫外八章にて説述 ▲會津地方の古寺を訪れて(東伏見邦英) 倭錦に就いて(濫江終吉) 外十五篇 ▲奈良より(東伏見邦英) 大津繪研等賛故としての藤娘圖繪馬(藤懸静也) 外五篇 ▲安倍の文殊(明珍恒男) 中尊寺願成就院の石塔(飯谷良之進) 外十三篇 ▲高野山の天平唐寫金光明最勝王經に就いて(東伏見邦英) 外七篇 ▲印度支那及び日本の美術に關する論文集でアジヤンタ1石窟寺に於ける彫刻外廿四篇 ▲印度藝術の要素、阿育王の石柱藝術、サッチー1佛塔と其藝術外五章、挿圖四一圖 ▲全七巻より成る支那書畫名家姓名字號捷覽で、掲載人員五萬三千餘、七册

▲日本の美術を系統的に探究せるもので、上巻は飛鳥時代以前の美術外四篇 ▲日本の美術を系統的に探究せる書で下巻は室町時代の美術外三篇 ▲日本美術史上重要なる作品を選び時代別に配列し簡單なる解説を施せるもの ▲上巻は藥師如來、阿彌陀如來の二篇にて論述、圖版卅二、組込圖版卅五 ▲白鳳時代に於ける佛教一脈(谷本富) 白鳳時代に於ける佛教美術(橋本渡龍) 外十篇 ▲白鳳時代に於ける文化と藝術(小野玄妙) 法隆寺金堂壁畫論(内藤藤一郎) 外七篇 ▲白鳳時代に於ける淨土信仰に就いて(望月信亨) 外十一篇の論文と圖版收載 ▲南畫と水畫の分宗論及びこれに伴ふ畫人の作風を歴史的に叙述す ▲大津繪に就いての考證的研究で、大津繪の發達とその特色外十二章口繪三〇圖 ▲好色名取川以下浮世繪一四圖を寫真版にて収録し解説を附した書 ▲日本初期洋畫の歴史的發展、圓山應舉の洋畫平賀源内の洋畫一外章にて論述 ▲長崎系洋畫の源流、川原慶賀と田口盧谷、長崎系洋畫の特徵外十章、挿圖九十二圖

川路柳虹	西洋畫の見方	並四六 製入判	128	一〇〇	アトリエ社	月二十	▲西洋畫を見るに要する知識を平易に述べたもので、一般觀畫の基礎知識外二章。
富永次郎	ダ・ヴィンチ	並菊半 製入判	65	四三	出玉川學部園	月一十	▲レオナルド・ダ・ヴィンチの傳記で、生ひ立ち、初期の作品、ミラーノ時代外一篇。
安原喜弘	セザンヌ	並菊半 製入判	68	四三	出玉川學部園	月一十	▲十九世紀の最大の畫家ポール・セザンヌの傳記。
安原喜弘	ゴッホ	並菊半 製入判	71	四三	出玉川學部園	月二十	▲畫家ヴィンセント・ヴァン・ゴッホの生涯を述べたもの。
式場隆三郎	フアン・ゴッホの生涯と精神病	布四六倍 裝入判	780	二〇〇	聚樂社	月六	▲若くして自殺せる畫家フアン・ゴッホの生涯とその精神病を闡明す。一特製十五圓。
式場隆三郎	フアン・ゴッホの生涯と精神病	布四六倍 裝入判	778	二〇〇	聚樂社	月二十	▲下巻はフアン・ゴッホの書誌、文獻及作品の研究。
黒田重太郎	素描・色彩の研究	洋四六 布入判	24	二八〇	日學本院美	月六	▲繪畫の形式より見たる素描及び色彩の意義素描の原理、色彩の原理外一部。
間部時雄	みづゑの描法	布新菊 裝入判	200	二〇〇	春陽堂	月二	▲みづゑに關する概念及び其實地に於ける描法並に畫の上の用語等にて詳説。
外山卯三郎	油畫新技法の研究	存菊洋 布入判	189	二四〇	金星堂	月九	▲油繪技法論、油繪技法の變遷、デフォルマシヨンの技法外一章にて論述。
外山卯三郎	モチーフの研究	存菊洋 布入判	29	二四〇	金星堂	月四	▲繪畫に於けるモチーフ論、風景をモチーフとする繪畫外二章、挿畫廿二圖。
外山卯三郎編	現代繪畫の靜物研究	並菊洋 製入判	150	二〇〇	金星堂	月一	▲靜物畫の起源とその發達(外山卯三郎)現代の靜物畫(福澤一郎)外六篇。
外山卯三郎編	現代の素描研究	並菊洋 製入判	180	二〇〇	金星堂	月四	▲純粹素描の理論(外山卯三郎)現代フランスの版畫家(秋田滋)外五篇、挿畫廿八圖。

畫集・圖録

外山卯三郎編	現代の水彩畫研究	並四六 製入判	157	二〇〇	金星堂	月七	▲純粹水彩畫の理論と技法(外山卯三郎)現代フランスの水彩畫(青山義夫)外三篇。
小寺健吉	風景畫の第一歩	上四六 製入判	87	一〇〇	アトリエ社	月九	▲風景の寫生に就ての重要な事柄を述べたもので、名作と自然の種々相外二章。
石川欽一郎	水彩畫の第一歩	上四六 製入判	92	一〇〇	アトリエ社	月九	▲用具、寫生、技法、構圖、額縁の五章にて論述せるもの。
山口蓬春	新日本畫風景の第一歩	上四六 製入判	79	一〇〇	アトリエ社	月九	▲新日本畫の意義、風景畫構成の準備、風景畫構成の必要條件外三篇にて論述。
鶴田吾郎	スケッチの第一歩	上四六 製入判	90	一〇〇	アトリエ社	月十	▲誰にでも入り易いスケッチの道を述べたもので、スケッチの必得外十章。
太田三郎	裸體畫の第一歩	上四六 製入判	92	一〇〇	アトリエ社	月二十	▲裸體畫の技法書で、裸體の素描、素描に就いてのメモ、細目の技外四章。
宮坂勝	構圖の新研究	上四六 製入判	92	一〇〇	アトリエ社	月二十	▲構圖に就ての指針書で、構圖の考案、水平線と垂直線、線人體畫の構圖外九章。
水谷清	楽しい素描スケッチの描き方	洋四六 布入判	147	二〇〇	春陽堂	月十	▲スケッチの描き方に就て述べたもので、繪と繪に於けるスケッチの位置外十六篇。
太田三郎	實地スケッチ習畫帖	上四六 製入判	137	二〇〇	崇文堂	月八	▲参考圖を多く挿入したスケッチ習畫帖で、用具について、硬軟雨様の線其他。
松田義之	日本畫の描き方	洋四六 布入判	165	二〇〇	雄山閣	月一十	▲日本畫の過去の潮流と現在、日本畫の描き方、日本畫の寫生法外九章にて論述。
伊東深水	美人畫の描き方	容四六 布入判	148	一八〇	崇文堂	月十	▲美人畫の専門的技術に就て述べたもので、人體の比例、器物、習技、技術外六章。
旭正秀	版畫實習讀本	並四六 製入判	48	二〇〇	内外社	月七	▲版畫の作り方、リノリウム版の技法其他。

(7-6)

美術・音楽(畫集・圖録)

アトリエ社編	伊之助編	宮田重雄編	伊藤 廉編	伊原宇三郎編	田口省吾編	外山卯三郎	美術新論社編	中山昌樹編	石井柏亭	小出楯重	安井曾太郎	小杉放庵
アトリエ社(泰西名畫コレクシヨ)	西洋名畫(1)	西洋名畫(2)	西洋名畫(3)	西洋名畫(4)	モチリアニ	シアガル	西洋名畫原色畫集	ダンテ神曲畫集	柏亭畫譜	小出楯重畫集	安井曾太郎畫集	小杉放庵畫集
並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判
28冊	53冊	48冊	38冊	39冊	51冊	61冊	20冊	270冊	10冊	32冊	23冊	30冊
一、三〇六	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	三、三〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	三、三〇〇
アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	金星堂	美術新論社	新生堂	春鳥會	春鳥會	アトリエ社	アトリエ社
月一	月十	月十	月十	月十	月二十	月一十	月七	月五	月四	月五	月七	月六
▲聖クララの像(ハマルチニ)手袋のある風景(ゴオホ)外原色版廿六葉及解説	▲眞珠の女、自畫像、肌脱ぎの女、横はれる少女外廿二圖及びコロの評傳	▲グイルタルーズの教會、モンマニイの道、外廿四圖及びストリロの評傳	▲女の首、自畫像、沐浴する人々、郊外のキリスト外廿二圖及び評傳	▲坐せる女、静物、走る二人、傷つける馬、赤い帽子外廿一圖及び評傳	▲グイオロセルを弾く男、白襟の女、眠れる女若き娘外廿二葉及評傳	▲マルク・シアガルの傳記を中心として外四章にて論述。作品五十圖收録	▲ピカソ、モヂリヤニ、マチス其他西洋名家の原色畫を収め解説を施す	▲ドレエの神曲挿畫の全部百廿五枚を網羅し本文とその譯文を附し簡潔な説明を施す	▲原色版油繪二枚水彩畫八枚を収む、各作品につき解説を附す	▲四色版二十五枚石版二枚コロタイプ版五枚及友人の追悼文五編を収む	▲女の顔、東京郊外、足洗ふ女、ダリア、黒き髪の外十八圖を収む。一普及版	▲スペイン風景、泉外原色版八圖、通り雲、水郷、秋果童子外十七圖の原色版を収む

四二〇

(7-7)

美術・音楽(畫集・圖録)

有島生馬	美術工藝會編	美術工藝會編	日本藝術學會編	獨立美術協會編	獨立美術協會編	伊藤 廉編	春陽會編	アトリエ社編	朝日新聞社編	足立源一郎	大内青圃	
有島生馬(人物畫集)	大久保作次郎畫集	桑重儀一畫集	兒島善三郎畫集	兒島善三郎畫集	兒島善三郎畫集	獨立美術協會	春陽會作品集	現代日本畫コレクシヨ	第十一回南畫展	上高地版畫集	日本神話版畫	
並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	並四六倍判	
35冊	34冊	42冊	42冊	63冊	99冊	98冊	99冊	45冊	28冊	5冊	30冊	
三、一〇〇	一、一〇〇	二、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	
アトリエ社	美術工藝會	美術工藝會	美術工藝會	美術工藝會	美術工藝會	建設社	建設社	アトリエ社	朝日新聞社	日本風景會	版畫俱樂部	
月二十	月八	月八	月八	月八	月十	月十	月十	月二十	月四	月五	月七	
▲支那の女、赤い唇の少女、日夫人像外冊一葉を収めた人物畫集	▲舟遊圖以下三十四圖	▲カルメン以下二十圖	▲ロシアの女以下二十圖及び感想十篇	▲南佛小景、五人の女、洋人横隊外二十五葉及び兒島善三郎論六篇を収む	▲林武氏の作品二十及び獨立美術協會の作品十二並びに畫論五篇を収む	▲老人、二人の男と子供外高島氏の作品十六及一生活とモチク。其他の畫論を収録	▲福澤一郎氏の作品(タイヤのある風景外十七圖)及び畫論等を収む	▲静物(足立源一郎)髪むすぶ女(長谷川伸)冬のよき日(倉田白羊)外四十二葉	▲秋晴(伊東深水)仙女圖(橋本關雪)埃及土人の灌概(速水御舟)外廿五葉。普及版	▲日本南畫院第十回展覽會出品作品を蒐録せるもので、家鷄(赤松雲嶺)其他	▲大正池、燒嶽、雪澤嶽、明神池、小梨方の五枚にして各着彩版畫集	▲日本神話を第六編に領ち自刻版畫にて現はせしものにして繪卷仕立にも出来る

四二一

恩地孝四郎外三氏	日本風景版畫會編	帝室博物館編	秋山光夫解説	相模山中香光一雨夫編	山本悌二郎	澄懷堂書畫目録	宋元名畫集	名古屋離宮障壁畫大觀	大東京百景	恩地孝四郎外三氏	
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	
18枚	100	133	130	1200	130	133	100	100	100	18枚	
二五	一、八〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二五	
版畫俱樂部	日本風景會	聚樂社	聚樂社	文求堂	聚樂社	聚樂社	聚樂社	聚樂社	聚樂社	版畫俱樂部	
月一	月十	月一	月一	月三	月五	月一	月一	月一	月一	月一	
▲木版年賀葉書を試むる人への参考書を兼ねた物で着彩版畫に一々作版の説明附	▲洋書界權威者の作になる新市區二十ヶ所及び舊市區十五區四十圖を収めた版畫集	▲名古屋離宮障壁畫の大畫集(徳川初期風俗畫並に裝飾畫の傑作)一並百四	▲村山時代に渡來せる支那宋元時代の名畫の集大成一並百三十五圖	▲山本二峯氏所藏の唐宋元明清の書畫目録にして詳細なる解説を付したるもの	▲圖案の美學に就て論述せるもので、原理、方式、創作圖案、文様の構成の四講	▲圖案の構成例を収めたもので、各種圖案構成の實例外五章	▲人物、玩具、植物、器物等我が國最古よりの傳統的圖案意匠を集録す	▲單位の巻は植物動物人物器物景色天象地文文字等一三一八個の圖案資料を集録す	▲圖案構成の基調となる單獨模様連續模様の多數作例及印刷圖案其他を描寫集録す	▲懸賞募集の第十二回第十三回作品集で、絹半巾圖案其他	▲商業美術裝飾圖案其他あらゆる裝飾藝術に進展しつつある影響の研究書

金子九平次	香取秀眞	小林鶯里編	六角紫水	倉橋藤治郎編	青山二郎編	倉橋藤治郎編	井上吉次郎	倉橋藤治郎編	新彫塑の造り方	日本産業美術年鑑	日本産業者の理論と方法	池井義教編	大阪毎日新聞社編	東京日日新聞社編	
新彫塑の造り方	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	日本産業者の理論と方法	
194	193	147	193	147	193	147	193	147	193	147	193	147	193	147	
二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	
春陽堂	明文堂	伊東書房	大同館	大同館	博文館	寶文館	博文館	アトリエ社	アトリエ社	明文堂	伊東書房	大同館	大同館	博文館	
月九	月一十	月二	月六	月一十	月二	月七	月十	月一十	月二十	月一十	月二十	月一十	月二十	月一十	
▲新興彫塑を基として論述せるもので、土の質について、小品を造る場合其他	▲商業美術展覽會入賞入選作品、民藝品展覽會入賞入選作品、染織美術展覽會入賞入選作品	▲商業美術裝飾圖案其他あらゆる裝飾藝術に進展しつつある影響の研究書	▲圖案の構成例を収めたもので、各種圖案構成の實例外五章	▲人物、玩具、植物、器物等我が國最古よりの傳統的圖案意匠を集録す	▲單位の巻は植物動物人物器物景色天象地文文字等一三一八個の圖案資料を集録す	▲圖案構成の基調となる單獨模様連續模様の多數作例及印刷圖案其他を描寫集録す	▲懸賞募集の第十二回第十三回作品集で、絹半巾圖案其他	▲商業美術裝飾圖案其他あらゆる裝飾藝術に進展しつつある影響の研究書	▲金工の各名稱及び種類、技法變遷の觀察、時代の區別外六章より成る日本金工史	▲古文書を基礎とし各種金石物を多方面に探究して輯録せるもので、梵鐘其他	▲四千年來の發達と傳へられる東洋漆技の歴史的研究で、上代期、奈良朝時代外六章	▲日本赤繪物の隨一古九谷の中から定評ある逸品を厳選した原色圖に解説を附す	▲支那南方の民衆で焼かれた吳須赤繪のうち大皿のみ三十七圖を収めて解説す	▲瀬戸及び美濃瀬戸の歴史書で、瀬戸物と美濃瀬戸、里に溢れる工人外十二篇	▲主として分院を産地とした陶器李朝白磁二十圖を収録

(7-10)

倉橋藤治郎編	倉橋藤治郎編	小野賢一郎	小野賢一郎	上村獨笑編	丸本眞萍	楠瀬日年	永瀬正路	有坂與太郎	竹内涉
陶器油	陶器油	茶碗の読み	茶碗の読み	磁器の架	磁器の架	篆刻新解	服飾	玩具・手工藝	玩具・手工藝
上巻	上巻	並巻	並巻	洋巻四六	洋巻四六	布巻四六	並四六倍判	洋巻四六	洋巻四六
20冊	20冊	113	102	262	174	202	70	278	78
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
出版部	出版部	發行所	發行所	内外社	金星堂	春陽堂	青騎書房	建設社	協本會
月二十	月二十	月七	月二十	月三	月七	月四	月七	月一	月一
▲尾張、三河、遠江、美濃、等を中心とする地方に行はれた油皿二十冊を収録	▲宋の宋瓷、磁器、漆器、土陶二十冊を収録。以前は其の宋瓷、磁器、漆器、土陶二十冊を収録	▲やきものに就ての知識を述べたもので、時代、密繪の土瓶、焼物一夕話外十一篇	▲茶碗に關する感想集で、茶碗のすがた、茶碗の扱ひ、日本の茶碗外九篇	▲我邦各地の陶器に就て其の起原沿革を略述し、陶工の技巧品種等を詳かにす	▲現代陶磁工藝分野の一瞥、新興陶磁工藝論の基點、陶磁器製作過程種々相外二篇	▲篆刻を樂しまんとする者の爲に平易に篆刻を説けるもので、印の文字其他	▲實用であると同時に裝飾である服飾用品八十四種を収めて説明を施す	▲後篇は雄辯時代、江都二色に収録された玩具外一篇にて論述す	▲製作に容易な木製玩具を選び其の構造や意匠を説述せる書で、色彩と仕上げ其他

美術・音楽（篆刻・服飾・玩具・手工藝）

四二四

(7-11)

霜田静志	堀野正雄	金丸重領	齋藤鶴兒	佐和九郎	山崎悦三郎	佐和九郎	高田謙正	中島謙正	齋藤鶴兒	永田喜健
寫眞の構圖	カメラ・眼×鐵・構成	新興寫眞の作り方	藝術寫眞の作り方	整色寫眞の研究	修整の實際	現像の實際	引伸寫眞入門	寫眞撮影第一課	寫眞のうつしかた	寫眞のうつしかた
洋巻四六	並四六倍判	上巻四六倍判	洋巻四六	布巻四六	洋巻四六	洋巻四六	布巻四六	洋巻四六	洋巻四六	洋巻四六
270	73	220	268	302	248	723	246	264	242	242
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
アールス	木星社	玄光社	玄光社	アールス	アールス	アールス	光大社	玄光社	松榮堂	松榮堂
月二十	月七	月一	月六	月八	月四	月二十	月四	月一	月五	月五
▲最も重要な寫眞の構圖の研究で、寫眞の構圖、藝術としての寫眞外一部	▲機械的環境を寫眞藝術の對象とする寫眞集で、作品とテキストより成る	▲新しい寫眞運動の紹介で、ダゲールから藝術寫眞へ、新興寫眞の作り方外六篇	▲最も組織的な藝術寫眞の實際的指導書で、藝術寫眞の概念、撮影の態度其他	▲整色寫眞の實際に就て述べたもので、整色撮影の一般知識、整色撮影尖端外八章	▲素人向きに背像原板の修整の詳細を記述せるもので、修整材料篇修整知識篇外二篇	▲現像に關する凡ゆる基礎知識を披瀝せる書で、今日の乾板フィルム外廿二章	▲寫眞の引伸法を實行し易く實際に役立つやうに記述せる玄で、引伸の興味外廿二章	▲撮影の秘奥を説いた指導書で、撮影の實際外一部、附録原板の仕上げ其他	▲寫眞のうつしかたの最も新しき方法を平易に解説せるもので、寫眞術の起り外十六章	▲寫眞のうつしかたの最も新しき方法を平易に解説せるもので、寫眞術の起り外十六章

美術・美術（寫眞）

四二五

吉川 速男	小形カメラの第一歩	洋四六 布入判	478	二、 四、 五、	玄光社	月七	▲名刺判以下の小形カメラに就て述べた寫眞術書で、撮影の實際外六十一頁に就て述べた寫眞の心得、原板の修整外四篇
眞繼 不二夫	アマチュア寫眞の修整	布四六 裝入判	217	一、 五、 八、	光大社	月二十	▲山の撮影の實際に就て述べたもので、山の寫眞に就いて、外廿二章
手塚 順一郎	山の寫眞のうつし方	洋四六 布判	269	一、 二、 三、	朋文堂	月七	▲山岳寫眞を撮影する際の諸注意を述べた書で、寫眞器に就て、レンズに就て外廿二章
額田 敏	山岳寫眞のうつし方	洋四六 布入判	294	二、 三、 四、	玄光社	月二十	▲全日本寫眞界の過去一年間の傑作を輯めたもので、花の靜物(河野龍太郎)其他
東京朝日新聞社編	日本寫眞年鑑	並四六 倍判	131	三、 四、 五、	朝日新聞社	月二十	

(B) 音

樂

西洋音楽史・評傳

セシル・グレイ著 大田黒元雄譯	音楽藝術史	並四六 製判	355	一、 二、 三、	第一書房	月八	▲グレゴリイ聖歌、十六世紀の多聲部的教會音楽、ロシヤ系派外十四章、一書及版
三島喜代造	音楽の形式と樂器の編成	洋四六 布入判	255	一、 二、 三、	共益商社	月一十	▲音楽を聴く人の常識として知つて置くべき一般的な事柄を叙述せるもの、一書及版
大田黒元雄	西洋音楽物語	洋四六 布判	333	一、 二、 三、	第一書房	月四	▲古代から現代までの西洋音楽の變遷を平易に説述せるもの、一書及版
大田黒元雄	西洋音楽物語	並四六 製判	333	一、 二、 三、	第一書房	月二十	▲古代、中世初期浪漫派の運動、ワアグナア時代、國民音楽の發生外六章、一書及版
牛山 元	西洋の音楽	並四六 製判	54	一、 二、 三、	育社 協會 會教	月一十	▲樂曲の組織其の性質等を説述せる書で、洋樂の味ひ方外廿六章

大田黒元雄	ドビュツシイ	並四六 製判	178	一、 二、 三、	第一書房	月十	▲クロオド・アシル・ドビュツシイの生涯に就て述べた小傳
大田黒元雄譯	ドビュツシイ	並四六 製判	278	一、 二、 三、	第一書房	月三	▲ヨオゼフ・ハイドンの生涯、作品、作品目録等を收む、一書及版
田邊尙雄	日本音楽史	洋四六 布入判	320	特二、 三、 四、	雄山閣	月一	▲日本音楽變遷の大要、上代の音楽、外邦樂輸入時代の音楽外三章
山田耕柞	レコードによる洋樂鑑賞の實際	布四六 裝入判	177	一、 二、 三、	雄山閣 雄山閣 株式會社	月四	▲レコードによつてどういふ風に音楽を鑑賞したらいふかを述べた書
服部龍太郎	洋樂名曲集成	布四六 裝入判	398	一、 二、 三、	春陽堂	月十	▲交響管絃樂を主とする古今の作品百七十曲を集成解説せるもの
邦樂研究者のために	邦樂研究者のために	洋四六 布入判	224	一、 二、 三、	先進社	月四	▲邦樂研究者の爲に其技藝の眞隨を説けるもので、三味線、箏其他
三條商太郎	日本音楽の調子の話	布四六 裝入判	374	一、 二、 三、	厚生閣	月九	▲邦樂の音律に關し西洋及支那との比較をなして詳述
柞屋榮藏	續長唄のうたひ方	布四六 裝入判	362	一、 二、 三、	創元社	月四	▲續篇は娘道成寺、蜘蛛柏子舞、操三番叟、橋邊慶、楠公、花の友外十六篇を收む
池内信嘉	謠稽古の常道	上四六 製入判	211	一、 二、 三、	日月社	月十	▲謠の練習法に就て述べた書で、謠稽古の心得、謠の七大要綱外四章

小松平五郎譯	聲樂を志す人々へ	布四六 製判	339	二〇〇	春陽堂	月九	▲聲樂を志す人々にとつての注意すべき事項に就て述べたもので、器樂を學べ其他、 ▲「門馬の樂典」として世既に定評あるものを内容頁数を倍加したもの。一改訂版 ▲樂譜を書き込める様編んだ實習帳。
門馬直衛	樂典	青四六 布判	256	一〇〇	岡田日榮堂	月一	
本居長世編	等中音樂實習帳	並四六 製判	61	六〇	樂譜出版社	月二	
桂近乎	ヴァイオリン音樂解説	洋四六 布入判	350	二〇〇	敬文館	月二	▲獨奏ヴァイオリン曲の形式、フランス及びベルギーのヴァイオリン文獻外三篇 ▲ヴァイオリンの機能のエッセンスを抽出して記述せる書で、基礎練習外十四章、抽出し ▲フランススコ・タルレガのギター奏法を集成せるもので、ギターの概念外卅章 ▲ハワイアレギターの獨習書で、樂典講義、ギターの持方外七章及び練習曲を収む ▲日本國歌から泰西の優しい名曲を約三十曲 ▲初歩者の心理をとらへ徐々に上達する様丁寧に現はした教則本 ▲舶來教則本を日本版に解り易く編纂
門馬直衛譯	ヴァイオリン奏法	洋四六 布判	210	一、五〇	春陽堂	月五	
大河原義衛	西洋音樂法入門の奏法	並新菊 製判	120	一、六〇	春陽堂	月二	
香樂院編	ハワイアンギター教本	並菊 製判	41	六〇	樂譜出版社	月二十	
安倍盛編	オルガン小曲選集	上菊 製判	56	一、〇〇	樂譜出版社	月七	
草野茂三郎	マイヤ・パング詳解	上菊 製判	96	一、〇〇	樂譜出版社	月八	
編者部編	オデルマンドリン教則本	上菊 製判	64	一、五〇	樂譜出版社	月六	
編者部編	マンドリン獨奏名曲集	上菊 製判	46	一、〇〇	樂譜出版社	月七	▲ギター名曲集の姉妹編として泰西の名曲を集めた曲集 ▲泰西名曲を一巻に集めた曲集
編者部編	ギター獨奏名曲集	上菊 製判	46	一、〇〇	樂譜出版社	月五	

京文社編輯部	第一私たちの唱歌	上菊 製判	143	六〇	京文社	月一十	▲林檎の嘆き、鶯の夢、宵待草外百五篇の本講及びハイモニカ譜を収録。一改訂増補版
京文社編輯部	第二私たちの唱歌	並菊 製判	128	六〇	京文社	月一十	▲學校並に一般家庭の愛唱歌中より童謡、唱歌、校歌、軍歌其他歌謡曲合計百二を選出
京文社編輯部	世界歌謡名曲選集	上菊 製判	224	六〇	京文社	月二十	▲男女中等學生並に音樂愛好者の携帶に便する爲の泰西名曲集、合計百十曲、袖珍判
京文社編輯部	本軍歌名曲大觀	並菊 製判	180	六〇	京文社	月五	▲明治大正昭和に亘る軍歌數百中より眞の名作と稱せらるるもの一百二十を精選収録す
堀内敬三	明治軍歌唱歌名曲選	洋菊 布入判	180	一、八〇	京文社	月二	▲明治年間於る代表的軍歌唱歌八十曲、何れも伴奏と考證を附し此種曲集の定本を爲す
小松爲三	新愛國唱歌	並菊 製判	16	二〇	京文社	月四	▲最近の時局に鑑み新作せる五曲、鐵兜、靖國神社、空中戦、陸戦隊、新興の滿洲
野ばら社	標準軍歌集	洋菊 布入珍	255	四〇	野ばら社	月六	▲代表的軍歌證式歌八十餘曲に今村嘉吉少佐の軍歌三十頁を挿入附録陸海軍喇叭譜全部
野ばら社	増補標準軍歌集	洋菊 布入珍	320	四〇	野ばら社	月二十	▲明治大正昭和の代表軍歌軍歌證式歌陸海軍喇叭譜全部世界主要國々歌今村少佐軍歌全部
福井直秋	兒童唱歌七十一曲集	洋菊 布判	180	八二	書出版協會	月二十	▲兒童唱歌の補充教材を七十一曲集載
志賀翁男編	女聲二部合唱曲集	上菊 製判	64	六〇	樂譜出版社	月二十	▲日本古謡から一般教材曲を二部唱に誦曲し下總皖一氏の作曲も挿入

東京音楽協会編	音 樂 年 鑑					
音 樂 年 鑑 昭和八年版	詳四六布判 320					
一〇〇 六〇	音楽世界社					
月二十	▲音楽関係人名録、全国主要レコード楽器製作所及び楽器店一覽外二十章。					
河本逸童	新邦樂小曲 七集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月十	▲新邦樂、ひばり、つぐし、月のマラソン、唄、汽車の窓の五曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 六集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月四	▲新作曲、唐がらし等五つの童曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 五集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月四	▲新作曲、雀の士、童心等の五曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 四集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月三	▲新作曲として流行の、可愛いお猿、キューピー、金魚、雀の士、童心等の五曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 三集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月三	▲河本逸童氏新作曲、時計、海の憶れ、どんぼ、秋祭り、良寛さま等の童曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 二集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月三	▲河本氏の新作曲、五色の花、彼岸、閑居の春、風流節賣、飛行機の五曲を収む。
河本逸童	新邦樂小曲 一集	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月一十	▲秋の雨を主題とする邦樂交響曲、河本逸童氏新作、古風和風を伴奏として列記。

尺 八 曲 譜				尺 八 曲 譜			
河本逸童	安 碁	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月十	▲秋の雨を主題とする邦樂交響曲、河本逸童氏新作、古風和風を伴奏として列記。	▲幼稚園向けの繪本に樂譜を附したるもの春、夏、秋、冬の巻。
河本逸童	馬 燈	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月十	▲新作曲として河本逸童氏の新作曲、歌詞は井手蕉雨氏である。	▲かアごめかごめ、春風ほうほう外四十六篇の童謡に作曲を施せるもの。
河本逸童	荷 詣	折大 本影 14	二五	講東京尺八會	月四	▲伏見詣と狐の嫁入を主題として河本逸童氏が作曲されし等三絃尺八の三曲對照譜。	▲朝の唄、あゝ眠むい、冷いお水、お茶碗とお箸外四篇の童謡唱歌及び歌曲を収む。
河本逸童	都の四季	折大 本影 8	二五	講東京尺八會	月二	▲大東京十景を作曲せしもの歌詞は小谷青楓氏作曲は等、三絃、尺八共同河本逸童氏。	▲六段の唄、汽車の唄、郵便屋さんの唄外二篇の童謡唱歌及び歌曲を収む。
弘田龍太郎	如 意 輪 堂	並四六倍判 製判 6	四〇	京 文 社	月三	▲曲目内容「キューピーさん、雪の日の雀、正月元旦・ダリヤ・如意輪堂」十九の秋。	▲可愛い子達に五十曲集む。
弘田龍太郎	山 の 櫻	並四六倍判 製判 6	四〇	京 文 社	月三	▲日本古謡民謡を出来る限り集め、松原氏の編曲による歌詞も収む。	
松原千嘉士	日本俚謡俗曲集	上四六倍判 製判 46	六〇	樂譜出版社	月十	▲曲目内容「圓い明るいお月様・元日・寂寥温泉の道・お山の櫻・村雨」以上六曲。	
長谷山峻彦	雛 菊 童 謡 集	上編 製判 96	六〇	樂譜出版社	月六		
佐々紅華	秘 ち や ん の 繪 本	上編 倍判 10	四〇	出 版 社	月六		
佐々紅華	茶 目 子 の 一 日	上編 倍判 14	四〇	出 版 社	月六		
河村直明	河村直則童謡曲集	並編 製判 89	二五	樂譜出版社	月二十		
日本教育音楽協会	エ ホ ン シ ャ ウ カ	並編 製判 32	四〇	書出版協育	月十		

最新 小學校 最良 體育指導書

- ▲最近體育思潮 東高師教授 大谷武一氏
- ▲體育指導原理方法 東高師教授 大谷武一氏
- ▲體操徒手篇 東高師教授 中島海氏
- ▲體操器具器械篇 東高師教授 森悌二郎氏
- ▲遊戲と競技 東高師教授 佐々木等氏
- ▲競技指導法 東高師教授 野口源三郎氏
- ▲兒童體育心理 體育研究所技師 松井三雄氏
- ▲兒童體育運動衛生 醫學博士 吉田章信氏
- ▲朝會體操合同體操 東高師教授 大谷武一氏
- ▲運動會競技會 東高師訓導 齋藤薰雄氏
- ▲學校ダンス 東高女教授 戸倉ハル氏
- ▲課外體育 廣島高師教授 杉浦卯三氏
- ▲兒童體力測定 醫學博士 岩原拓氏

著新最生先藏七堀 授教師高女京東 事主小附師高女京東

理科の學習作業

- 小學理科書と連絡統一せる作業主義兒童生活理科學習書！
- 春夏秋冬の兒童理科生活を指導せる趣味の理科智囊！
- 新時代の改造理科教育は本書の中に明示さる教師の最良參考書
- 内容梗概
- | | | | |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|--|
| 春の理科
花壇園藝
虫の友達
風と飛行機
有益害植物 | 夏の理科
動物の友達
樹木と森林
太陽星
兒童化學 | 秋の理科
寫真
水族箱
室内花壇
果實と種子 | 冬の理科
冬の天氣
兒童物理學
冬の動物
動物の利用 |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|--|
- 三色版挿繪豊富 全四冊
春・秋 壹圓貳拾錢 送料各十錢
夏・冬 壹圓 送料各十錢

東市京東 四三三 谷目 院書文同 振替 口替 座六 京東

七、歴史・傳記

著者	書名	装形	頁數	定價	發行所	月行發	内容大意
大類 仲史	史學概論	洋函菊 布入判	279	二、〇〇	共立社	八月	▲動的史觀、歴史認識の目標、歴史研究の實際的方法の三篇にて論述
内藤 智秀史	史學概論 第一論	並菊 關判	78	四、〇〇	高原書店	十一月	▲平易に史學概論の梗概を叙述せるもので、歴史論、史學史外編
理想 社編	歴史の諸問題	並菊 關判	183	六、〇〇	出版部	五月	▲歴史記述の方法(今井登志喜) 歴史觀の諸形態(竹下直之) 外九篇の論文集
羽仁 五郎	歴史學批判敘説	布函四六 裝入判	1811	一、八〇	鐵塔書院	五月	▲言語及び文字の階級性、神話學の方法及び概念外三篇にて論述(一冊賣止)
羽仁 五郎	轉形期の歴史學	並菊 關判	206	一、〇〇	鐵塔書院	五月二十	▲歴史主義批判、歴史學の方向及び方向轉換世界史の可能性と必然性外三章
德富 猪一郎	境遍 歴史	布函四六 裝入判	400	三、〇〇	民友社	五月	▲歴史上に直接間接に關係ある德富氏の講演を採録せるもので、維新偉業の完成外十二篇
朝日 融溪	史論と史實	洋函菊 布入判	350	三、〇〇	章華社	九月	▲歴史の興味、史論と史實、イギリス史に現れたるイギリス人の特性論外六篇
坂口 昂	逸史學史	布函菊 裝入判	556	三、三〇	岩波書店	五月	▲坂口博士の京都帝大文學部に於ける晩年の講義でヘンデルよりモムゼン迄の解説

歴史・傳記(史學一般)

四三三

(7-3)

著者	書名	種別	巻数	頁数	発行所	発行年	備考
廣島史學會編	史學研究	史學	第二卷	506	中文館	一月二日	▲日本建國の精神(白鳥庫吉)室町時代に於ける食糧慣習の推移(櫻井秀)外十八篇
廣島史學研究會編	史學研究	史學	第三卷第二號	166	中文館	一月一日	▲ルートの商業論(渡邊鼎)創作の歴史性と歴史の創作性に就て(朝日融溪)外四篇
廣島史學研究會編	史學研究	史學	第三卷第三號	163	中文館	一月三日	▲王朝時代の農民生活と法律文化(瀧川政次郎)安南と朝鮮二(杉本直治郎)外三篇
廣島史學會編	史學研究	史學	第三卷	504	中文館	一月十日	▲神護寺鎮莊園に於ける成立と統制(西岡虎之助)員外國司考(岩間武雄)外十八篇
廣島史學研究會編	史學研究	史學	第四卷第一號	185	中文館	一月七日	▲ヘラクレスの問題(原隨園)ルートの革命主義者との關係(渡邊鼎)外三篇
廣島史學研究會編	史學研究	史學	第四卷第二號	184	中文館	一月二十日	▲支那古明器の一新資料(梅原末治)權任國司に就いて(岩間武雄)外五篇
三田史學會編	史學論文集	史學	第二集	264	三田史學會	一月一日	▲占部、間崎、松本(芳)、松本(信)、加藤、橋本諸氏の史學に關する論文を集めしもの、
田中萃一郎	田中萃一郎史學論文集	史學	一冊	685	三田史學會	一月八日	▲故田中博士の論文中よりその粹を選び東洋史、史學研究法、政治學の三部に分ち類集す
下澤瑞世	民族年齡文化誌論	民族學	一冊	1248	輝文堂	一月六日	▲諸民族に於ける歳功の單位觀念、各齡臺の文化能力誌、文化事功の年齡的消長
廣島史學研究會編	考古學研究法	考古學	一冊	175	岡書院	一月十日	▲考古學に於ける年代學的研究、「發見物」とは何ぞや、型式學的研究外一篇、「發見物」
平竹傳三編	露西亞考古文化史圖説	考古學	一冊	250	刀江書院	一月二日	▲非スラウ民族の文化、スラウ民族の文化の二章にて圖版を主にして説述す
郭沫若	兩周金文辭大系	考古學	第三三卷	310	文求堂	一月一日	▲周代青銅器の銘文を時代の順及び地方別に分類して解釋を加へたものである(漢文)

民俗學・傳説

(7-3)

著者	書名	種別	巻数	頁数	発行所	発行年	備考
郭沫若	文叢考	文叢考	一冊	56	文求堂	一月一日	▲實際を闡明せんとした新研究(漢文)
郭沫若	文叢考	文叢考	一冊	152	文求堂	一月一日	▲那古代青銅器銘文の文字に就いて一字宛細い解釋を十九字に亘つて下してゐる
長谷部一言郎	過去の我南洋	南洋學	四六	255	岡書院	一月六日	▲南洋諸島の名稱、カナカとチャモロ、南洋諸島の人類相其他九章、附録、年表、文獻
鳥居龍藏	滿蒙を再び探る	南洋學	四六	336	六文堂	一月一日	▲昭和五年に於ける滿蒙探查旅誌で、二十五年前の蒙古と今日の蒙古外四篇
梅原末治	支那古鏡	考古學	四六	227	刀江書院	一月一日	▲歐米に於ける支那の古鏡の古鏡の研究中、歐米に於ける支那古鏡其他圖版八十五圖
後藤守一	墳墓の變遷	考古學	四六	197	雄山閣	一月六日	▲先史時代の墳墓、原史時代の墳墓、奈良時代の墳墓、中世の墳墓外二篇にて論述
東京考古學會編	考古學年報	考古學	第一卷	67	東京會考	一月九日	▲昭和六年一月から十二月迄のあらゆる研究結果を整頓せるもの
ジエネップ著	民俗學入門	民俗學	四六	133	郷土研究社	一月十日	▲フォーククロア全般に關する考察で、フォークロアの歴史、説話と傳説外八章
永橋元夫	呪術と宗教	民俗學	四六	237	新撰書院	一月九日	▲共感呪術、呪術と宗教、天候の呪術的調節
内田嘉次郎	日本民俗藝術大觀	民俗學	四六	64	郷土研究會	一月六日	▲秋田縣角館町飾山崎子の記録で、飾山崎子大要(北野博美)外五篇を収む
民俗藝術の會	日本民俗藝術大觀	民俗學	四六	237	郷土研究會	一月六日	▲天草島の民俗誌で、正月行事の二つ三つ、神送りと神待ち、河童雜記其他
濱田隆一	天草島民俗誌	民俗學	四六	237	郷土研究社	一月六日	▲人類犠牲譚、呪詛秘録、別に關する風俗、琉球の島々に於ける性生活外十五篇
金城朝永	熊習俗考	民俗學	四六	378	六文館	一月二十日	

藤澤衛彦	日本傳説研究	洋四六 布入判 432	二、五〇 一、四〇	六文館	月一	▲梅若家の柳、七夕二星の傳説、鶴橋考、葛の葉物語、人獸交婚傳説考外七篇
長尾豊	傳説民話考	並四六 製判 349	一、〇〇 一、〇〇	六文館	月十	▲附紐關慶、匂ひの僧正、入あがひ、女に追ひかけられる、水の物の手紙外廿九篇
藤澤衛彦	東西幽霊考	並四六 製判 412	一、八〇 二、〇〇	六文館	月十	▲死後の生活と幽霊、日本妖譚、支那妖譚、近代妖譚の四編にて叙述す
文野白駒	加無波良夜譚	背四六 洋六 布入判 212	一、八〇 一、八〇	支久社	月一	▲佐渡の小橋、大晦日の客、強情な狐、花まき爺、和尚と子僧、お杉外九十六篇
松本時彦	正續神都百物語	洋四六 布入判 518	二、〇〇 二、〇〇	古川書店	月五	▲宇治山田市の史話傳説口碑等を採録し白木の鶴臺外九十九編を載す
大倉静雄	伊豫上伊曾乃神社	洋四六 布入判 304	三、〇〇 一、四〇	郷土研究社	月七	▲伊曾乃神社の創祀及び神野の起因に就ての考證で、郷土史的考察外二章
信濃教育會	北安曇郡郷土史稿	並四六 製判 366	一、五〇 一、五〇	郷土研究社	月九	▲俗信・俚諺等四千六百餘種を収録、俚諺と俗信との關係(柳田國男)附載
高橋源一郎	武蔵野歴史地理	布四六 製入判 682	二、五〇 一、四〇	武蔵野歴史地理學會	月九	▲第四冊は多摩川北岸地方及び北多摩郡南部に就ての研究
札幌放送局編	北海道郷土史研究	布四六 製入判 475	二、五〇 一、四〇	富貴堂	月十	▲札幌放送局より放送された各専門研究家の「北海道郷土史講座」を録した書
藤原相之助	奥羽古史考證	洋四六 布入判 217	一、八〇 一、〇〇	友文堂	月五	▲東國から陸奥、越から出羽、國司時代の陸奥の三篇にて論述、追記滿洲國と羽越外三篇
玉林晴朗	下谷と上野	上四六 製入判 631	三、〇〇 一、四〇	東臺社	月十	▲下谷區の郷土史で、三千年前の下谷と上野上野と東叡山寛永寺外十二編
萩原頼平	甲斐志料集	洋四六 布入判 568	三、〇〇 一、四〇	甲斐郡書	月十	▲日記、行爲で、みとものかず(池原香翠)山日記、川春村、等十二種を収録

石井正義	甲州街道の今昔	並四六 製判 88	三、〇〇 一、四〇	多摩郷土史研究会	月五	▲甲州街道の變遷、同街道の史實、同街道の名勝
東洋帝國大學教授	國史の研究	洋四六 布入判 530	三、五〇 二、三〇	岩波書店	月六	▲各説上巻は神代、氏姓時代、分家時代の一古武家時代の一外四章、一更訂版
橋本辰彦	國史研究法の原理と實際	洋四六 布入判 393	二、八〇 一、四〇	三友社	月五	▲存在判断より價値判断への止揚、哲學的價値史觀の四基本型外十一章にて論述
東京帝國大學助教授	國史學の骨髄	洋四六 布入判 268	一、八〇 一、〇〇	至文堂	月九	▲國史學の骨髄、歴史の回顧と革新の力、歴史を貫く冥々の力外九篇の國史學論文集
東京帝國大學教授	國民綜合日本史	洋四六 布入判 450	二、八〇 一、八〇	中文館	月九	▲國史の全般に亘つて簡明な編述をなせるもので、古代史、上代史、中世二史編
東京帝國大學教授	日本文化史序説	布四六 製入判 645	三、〇〇 二、三〇	改造社	月二	▲文化史研究の性質及び發達、日本文化の展開の二篇十一講にて論述
藤崎俊茂	概観日本文化史	布四六 製入判 340	二、八〇 一、四〇	弘學館	月五	▲文化について、有史以前の文化、古代の文化の三章にて論述す
清原貞雄	改撰日本文化史年表	洋四六 布入判 534	一、五〇 一、〇〇	中文館	月一	▲日本文化學全體に亘る最も詳細なる年表、索引、一學生版
高市慶雄	日本前史	布四六 製入判 523	三、〇〇 一、四〇	日本評論社	月一	▲伴天連フロイスの日本史をタイプチツヒのマヨール版獨譯より達字譯したもの
橋本増吉	東洋史上日本上古史研究	洋四六 布入判 612	六、〇〇 二、三〇	大岡山書店	月十	▲里程記事と日程記事との矛盾、風俗習慣に關する疑問、行政と交易外廿六篇
中村徳五郎	神代の建國とその由來	洋四六 布入判 527	一、五〇 一、〇〇	文叢堂	月四	▲開闢當初の状況と國家成立の由來、海外發展の二大方針外二篇にて論述

熊田 葦城	下村三四吉	永吉二郎	澤田 章	德富猪一郎	德富猪一郎	德富猪一郎	天野正治	猪坂直一	土岐仲雄	渡邊義通	長野 朗
地理上より觀たる神代史	日本武士道史	概観鎌倉時代史	井伊直弼執政時代	安政大獄前篇	安政大獄中篇	眞田三代年表	國史事件論集	眞田三代年表	日本國家成立過程小論	日本母系時代の研究	日本自治史觀
洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊
552	358	311	296	550	537	539	531	98	59	188	167
二〇〇	二八〇	一四〇	一四〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
四條書房	日本文學社	中文館	鳳鳴書院	民友社	民友社	民友社	有文書院	生絲の國社	白林社	白揚社	建設社
四月	一月	五月	三月	四月	七月	十一月	六月	十二月	四月	一月	十月
▲主として神代史上より見たる地史を説いたもので、天神と別天神との眞意義外五十章。▲平安時代に於ける政治の隆替及び文化の變遷の概要を述べた書で、朝權隆盛時代其他、過に就て論述せる書で、武士道發生期其他、▲國民指導原理の一たる日本武士道の發達經過を論述せる書。▲當時の社會狀態乃至は生活狀態文化の移轉等を綜合的に叙述せる書。▲井伊直弼と當面の二問題、江戸に於ける紀一、▲井伊直弼の活動外十六章。▲上野五郎一、▲間部酒井の上洛決定、井伊の水戸壓迫、京都に於ける志士論客外十五章。▲上野五郎一、▲井伊派對否井伊派の情勢、京都の近狀、井伊側の間部觀外十六章。▲上野五郎一、▲眞田三代年表主要人物、海野氏系譜、眞田氏系譜、年表、附眞田父子論。▲事件を主題に扱つた國史教育の資料集で、建國の大精神(三浦周行)外四十一篇。											

權藤成憲	野村岩夫	阿刀田令造	木村靖二	細川龜市	細川龜市	竹内理三	石井秀雄	石井秀雄	石井秀雄	船口萬壽	船口萬壽	横井時冬
日本震災凶謹致	仙臺藩農業史研究	天明天保仙臺の飢饉記録	原始日本生産史論	日本佛教經濟史論考	日本寺領庄園經濟史	奈良朝時代寺院經濟の研究	社會組織の發展過程と皇室	經濟的發展過程と皇室	軍事的發展過程と皇室	宗教的發展過程と皇室	政治的發展過程と皇室	日本小商業史
洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊	洋装菊
395	244	189	239	596	571	434	26	31	33	28	299	
二二〇	一八〇	一〇〇	二〇〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	
文藝春秋社	無一文館	無一文館	白揚社	白東社	白揚社	大岡山書店	高原書店	經濟國會	經濟國會	經濟國會	經濟國會	白揚社
八月	九月	十一月	十一月	七月	九月	四月	七月	十一月	七月	七月	六月	
▲年表の部、地震海嘯噴火の部、風水旱魃の部、火災の部外一節。▲舊仙臺藩に行はれた買米制度と明治維新後に於ける産米検査の概況外三編を収む。▲飢饉録(天明)、天明天保凶年、天保飢饉録の三記録と其研究を収む。▲増訂版。▲人類進歩の階梯、原始日本の社會姿相、先史農業史論外二章にて論述。▲王朝時代及び鎌倉室町時代に於ける寺社領庄園を個々に就て検討せるもの。▲王朝時代に於ける寺社領庄園を綜合的に解明せるもので、寺社領の本質其他、▲奈良朝時代に於ける寺院の經濟的機構とその社會的意義とを闡明せるもの。▲族長統制社會、以下六節。▲經濟的發展過程と皇室との關係を論じたもので、緒言、氏族制的經濟外四節。▲緒言、太古、上古、上世、中世、近世の六節にて宗教的發展過程と皇室とを論ず。▲政治的變遷及び皇室に就て論述せる書。▲日本商業史、日本殖産史、かたらひくさ、ことばのいづみの四書を收載。												

農商務省農務局編	大日本農政史	洋四六	布入判	266	五、〇〇	文藝春秋社	月二十	▲明治十五年農商務省農務局で編纂刊行した農政史料の複刻本
賀田直治	維新産業建設史	洋四六	布入判	266	一、〇〇	白東社	月七	▲明治維新後日本産業略史、維新産業開發の中心人物、維新産業の三傑等三章
池田内八著	東西交渉史の研究	洋四六	布入判	700	六、五〇	岡書院	月三	▲故藤田博士の遺著で、狼牙倭國考、前漢に於ける西南海上交通の記録外論文廿一
岡本良知	長崎開港以前歐船來往考	布四六	藍入判	291	三、〇〇	日東書院	月二	▲享祿三年以下永祿八年に至る間に長崎に來た歐船の研究、附録一篇
西村文則	詩歌日本史	洋四六	布入判	328	二、三〇	雄山閣	月二十	▲漢詩和歌俳句等の短詩形から見た一種の日本史で、詩歌日本の解説外十三篇
和田辰雄	日本服裝史	洋四六	布入判	330	二、八〇	雄山閣	月二十	▲衣服發生時代、唐制模倣時代、内外制融合時代、國風全盛時代外一章
赤堀又次郎	衣食住の變遷	並四六	藍判	204	一、三〇	F社出版部	月二	▲歴史的に見たる食物の變遷や調理の方法日本料理の改善等に就て説述す
宮内省式部職編	放	洋四六	布入判	711	特六、八〇〇 二、五〇〇	吉川弘文館	月四	▲放鷹の沿革調査等に就て述べたもので、本邦放鷹史、宮内省に於ける放鷹其他
永見徳太郎編	珍らしい寫眞	並四六	藍判	144	一、八〇	粹古堂	月二	▲明治初期の時代風俗を語る多くの珍らしい寫眞を網羅したもの
堀田善太郎	密寶楠公遺訓書	洋四六	布入判	312	三、〇〇	楠公研究会	月一十	▲楠公遺訓原文、大平記拔萃、遺訓の解説と敷衍、楠公の戦史(林中將)其他を収む
中島謙校訂	新著 隣國費記	洋四六	布入判	200	一、六〇	文求堂	月五	▲足利時代の日交交通史料として貴重な書物、在来の本は誤りが多いので校訂を加ふ

特殊史・風俗史

史料・史蹟

石野瑛	亞墨理船渡來日記	洋四六	布入判	110	一、〇〇	内外社	月三	▲石川氏所蔵の亞墨理船渡來日記及藤田氏所蔵の亞米利加船渡來日記の校訂
諸根樟一	白河及菊多剗研究	洋四六	布入判	208	三、三〇	櫻關書院	月七	▲白河及び菊多剗の建置沿革文獻の三方面を論じた書で、奥州に入る三關外十三篇
明光會	聖徳を仰ぎ	布四六	藍入判	1450	二、〇〇〇	意仰社	月十	▲聖徳繪畫館奉揚の八十畫像に付き各事蹟に干與せる名士の謹語史料を収載偏著
立命館禁衛隊護編	歴代皇陵	布四六	藍入判	52	四、五〇	出版部	月六	▲天皇を中心とする御在位中の重要事項を抄出し、其皇陵の所在地を明かにせるもの
文部省編	史蹟調査報告	布四六	藍入判	79	四、三〇	刀江書院	月四	▲昭和四年十二月より同五年十一月迄指定の史蹟中京都府外十六ヶ所の調査報告
群馬縣編	群馬縣史蹟名勝天然記念物調査報告(第二輯)	上編	藍判	160	二、〇〇	三明明社	月五	▲群馬縣史蹟名勝天然記念物の調査報告で、上芝古墳址、八幡塚古墳を詳報してある
岡田榮三郎	菩提達磨嵩山史蹟大觀	布四六	藍判	564	二、五〇〇	六星館	月二	▲嵩山史蹟寫眞及び文獻を集録したもので寫眞及楠本解説より成る
内田良平	皇國日本之亞細亞	洋四六	布入判	350	三、〇〇	出版部	月二十	▲上古より近世に至る日本皇國の史話で、全亞細亞は日本の舊版圖外六十四章
武田完二	大奥秘史	布四六	藍入判	506	二、五〇	日東書院	月五	▲豊臣、徳川時代の大奥秘録で、秀吉の巻、家康の巻、家齊の巻外七篇
富岡直方	日本礮奇史	並四六	藍判	309	一、五〇	啓松堂	月一十	▲江戸時代の礮奇物語で、駿府の城に現はれた怪奇な不老仙藥外百九十九篇
廣橋忠隆	海運夜話	上四六	藍判	232	一、三〇	日學本會	月十	▲前管船局長としての著者が二十餘年間の遺著を傾けたるもの、奇話珍談全巻に溢る
住田正一	海上夜話	布四六	藍入判	197	一、二〇	交通經濟部	月七	▲海上夜話、福澤先生と海運の譯語、明治時代の海事雜誌外九篇を収む

史談・史話

小林 博	北村 建信	菊山 當年男	澤月 宜茂	熊田 葦城	大坪 草二郎	北條 重直	牧野 精一	久保田 鐵造	篠田 鏡造	篠田 鏡造	山口 愛川	大日本アジア會編
大阪城悲劇の真相	越中島戰史	敵討伊賀越	生野義舉と其同志	復讐義舉傳	嵐の時代明治九年	水戸學と維新の風雲	五・一五テロ事件秘史	昭和暗殺秘史	明治末女	明治末女	見慣れた華族物語	例文日露戦争の思出
布面四六 裝入判	洋面菊 布入判	並四六 製判	布面菊 裝入判	布面四六 裝入判	布面四六 裝入判	洋面菊 布入判	上四六 製判	並四六 製判	上四六 製判	上四六 製判	布四六 裝判	並四六 製判
363	381	58	767	746	355	612	278	417	328	340	265	83
三〇〇	三六〇	四三	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
大同館	報國學會	伊賀キクヤ	春川會	四條書房	大同館	修文館	精華書房	芳山房	四條書房	四條書房	莊人社	大日本會本
月五	月一	月七	月二十	月六	月八	月九	月十	月十	月九	月十	月六	月四
▲大阪城に於ける豊臣氏末路の真相を述べたもので、秀頼の出生外十章。	▲戦役の概観と武田上杉二氏、戦争の起因、川中島の會戰外十三章附録三章。	▲伊賀越の敵討に就ての眞跡を述べたもの。	▲生野義舉の眞相を明かにせるもので、義舉の中心勢力、農民組織の運動外廿六章。	▲古今復讐の事蹟を述べたもので、大伴子蟲堀部安兵衛、上州の宇市外九十七篇。	▲明治九年に於ける熊本、筑前秋月、長州萩の變亂に就て述べたもの。	▲水戸學の淵源發展事業と其の幕末維新の志士に及ぼした感化に就て論述せる書。	▲血盟團發生に筆を起し愛郷熱頭の自首迄を述べたもの。一禁賣禁止。	▲濱口事件より五・一五事件迄の眞相を扱つたもの。一禁賣禁止。	▲油堀伊藤家の八人娘、江戸と東京の境目、近江のお兼の刺青女性外四十七篇。	▲御行儀のよい増山様、大道藝術女砂文字の死、槍物町の歌吉心中外四十七篇。	▲華族様の貫録、十五が生んだ珍談異聞、舊將軍家の人々其他八篇の華族月旦。	▲子爵金子堅太郎氏が大阪師團にてせられた講義の筆記。一〇〇の字。

西村 爲之助	有 高 巖	中山 久四郎	岡崎 文夫	峯 旗 良充	松本 信廣	一ウ エル ス著	小 林 秀 雄	小 林 秀 雄	高 市 慶 雄
東洋史六講	東洋史六講	東洋史研究	魏晉南北朝通史	滿洲民族變遷史	古代文化論	世界小文化史	希臘文化史	羅馬文化史	西洋史精講
洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	布面菊 裝入判	並菊 布判	洋面菊 布入判	洋面四六 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋四六 布判
397	468	534	719	160	216	606	594	496	615
二四〇	二八〇	二〇〇	三〇〇	一〇〇	一八〇	二〇〇	四三〇	三〇〇	二二〇
日本文學社	日本文學社	日本文學社	弘文堂	化滿洲會文	共立社	白揚社	白東社	白東社	三省堂
月六	月六	月六	月九	月一十	月十	月一十	月五	月八	月九
▲上古史より宋史までの講述で、漢民族勃興時代、南北民族對抗時代外五章。	▲元代史、明代史、清代史外一篇。	▲東洋史研究法(歴史研究の意義外二章)塞外西域興亡史、匈奴、月氏外廿三章。	▲内編に於て権力の移動する所を究め外編にて専ら人文の化成する述を記述す。	▲滿洲民族の根源地である吉林省を中心として、歴代民族の興亡變遷を説く。	▲極東古代の系統的的研究で、東部アジアに於ける文化の始原外三章。	▲現在我々の持つてゐる歴史上の智識を一般的に叙述せるもの。	▲ギリシヤ民族の發源より民主政治の没落に及ぶ論述で、希臘研究外六篇。	▲羅馬世界統治、民族發成時代、羅馬發成時代、羅馬世界統治、羅馬の共和時代外二篇。	▲文化の發展と史實の連絡とを総合的に考察せる西洋史で、上代史外四篇。

歴史・傳記(歴史参考書)

廣瀬 哲士	フランソワ全史	洋四六	布入判	335	二、五〇〇	厚生閣	月十	▲前著「佛蘭西二千年史」を増補し「フランソワ全史」と題名を改めたもの。
山中 謙	逸史	洋四六	布入判	305	一、八〇〇	三省堂	月六	▲ドイツの歴史に就て政治・経済文化あらゆる方面の事象に亘つて記述す。
田中 久	ゲルマニア	洋四六	布入判	164	一、五〇〇	刀江書院	月九	▲當時最もローマ帝國に脅威を與へたタキスウスのゲルマニア民族誌。
北見 總一	太平洋の歴史	洋四六	布入判	358	一、〇〇〇	モナス	月三	▲歴史的な過去となつた太平洋の物語で、太平洋開拓者、私掠隊外七章。
早川 義典	世界史	洋四六	製判	308	一、〇〇〇	白揚社	月七	▲原始共産社會の崩壊より階級社會の發生迄を収めたもので、古代アジア社會外二篇。
早川 義典	世界史	洋四六	製判	320	一、〇〇〇	白揚社	月一十	▲西ヨーロッパにおける封建主義、近東及び古代ロシアに於ける封建主義外三篇。
早川 義典	世界史	洋四六	製判	413	一、三〇〇	白揚社	月三	▲十八世紀におけるヨーロッパとアメリカ、フランス大革命外三篇にて譯述。
早川 義典	世界史	洋四六	製判	401	一、〇〇〇	白揚社	月二	▲合衆國の建國、北部と南部、奴隸制度廢止運動と労働運動外六篇。
山田 幸夫	初期ブルジョア革命史	洋四六	製判	332	一、五〇〇	白揚社	月九	▲第十六世紀のニイダerland革命と第十七世紀のイギリス革命の歴史に就て敘述。
西村 爲之助	日本史講座	洋四六	布判	330	一、〇〇〇	日本文學社	月二十	▲最近入學試験問題の傾向に適應せしめて編纂せるもので上古史近古史外四編。
三省堂編輯所編	新編 學生の日本歴史	洋三六	布判	284	六〇〇	三省堂	月九	▲文部省改正教授要目に基づいた日本歴史の學習書で、上古史、中古史、近古史其他。
中村 一良	國史	洋四六	布判	333	一、〇〇〇	廣文堂	月十	▲政治篇、文化篇の二部より成る受験準備書。

歴史・傳記(歴史参考書)

小山 文太郎	國史	洋四六	布判	430	一、八〇〇	培風館	月六	▲文部省新要目から今後の出版傾向を豫想して説ける高等專門學校入試國史參考書。
佐々木 貞之	参考日本歴史	洋四六	製判	562	一、〇〇〇	受験研究社	月五	▲現行中等學校日本歴史教科書(新制度)の重要な事項を悉く網羅せしもの。
山上 徳信	参考東洋歴史	洋四六	製判	397	一、二〇〇	受験研究社	月五	▲現行中等學校東洋歴史教科書(新制度)の重要な事項を悉く網羅せしもの。
山上 徳信	参考西洋歴史	洋四六	製判	528	一、二〇〇	受験研究社	月五	▲文部省の最近教授要目に基づいた中等學校教科書との連絡を保ち、記憶に便する様編纂。
鹿毛 喜久太郎	新制東洋史	洋四六	製判	130	四〇〇	弘道閣	月三	▲新教授要目に基づいた、上古、中世史、近古史の三十年戦役迄修む。
鹿毛 喜久太郎	新制西洋史	洋四六	製判	140	六〇〇	弘道閣	月四	▲新教授要目に基づいた近古史歐米諸國活動時代の佛蘭西の強盛より現代に及ぶ。
鹿毛 喜久太郎	新制西洋史	洋四六	製判	165	六〇〇	弘道閣	月四	▲文部省より高校検まで西洋史を系統的に説けるものである。
酒井 三郎	西洋歴史系統的的研究法	洋四六	製判	300	一、八〇〇	大同書店	月五	▲高専受験用、中等參考書として西洋史學習の途を明かにす。
今井 登志積	西洋歴史學の考へ方	洋四六	製判	570	一、五〇〇	研究社	月二	▲日本歴史の重要問題を収めて解説せる書で上古の氏族制度と其の沿革其他。
佐々木 三治郎	日本歴史の重要問題の研究	洋四六	布入判	38	一、〇〇〇	啓文社	月九	▲複雑多岐に亘る東洋史料を精選して敘述せるもので、上古史、中古史外三篇。
三省堂編輯所編	東洋歴史	洋三六	布判	329	一、五〇〇	三省堂	月四	▲大正十年度より昭和六年度迄の東洋史文檢豫備試験本試験問題を集録解説す。
山本 義夫	東洋史文檢問題解説	洋四六	布入判	315	一、二〇〇	日本文學社	月六	▲歴史の本質に基づいてそれら、概括や表を掲げて説述せる日本史參考書。
研究社編輯部編	日本史	洋四六	布入判	635	二、五〇〇	研究社	月十	

著者	書名	編者	頁数	寸法	発行	社名	発行	備考
菅原 憲	西洋史講義	西	112	11.0	八月	日本文學社	十一月	▲支那の諸王朝の順序を正確にしそれを標準として他の諸國の史實に就て述べたもの。▲現行中等教科書より特色ある材料を採り、秩序ある體系のもとに解説す。
研究社編輯部編	東洋史	東	468	11.0	十月	研究社	十月	▲東方五國と波斯、希臘とマケドニア、野蠻民族の移動時代、十字軍と其收録外六編。
研究社編輯部編	西洋史	西	575	11.0	十月	研究社	十月	
中村直勝	北島親房	北	422	11.0	二月	星野書店	二月	▲北島親房の思想と學識とを闡明せるもので神皇正統記、神道觀其他。
澤田 謙	時宗と日蓮	時	426	11.0	二月	地踏社	二月	▲立正安國論、時宗と日蓮、大蒙古國日本窮ふ、佐渡の日蓮外三章。
平泉 澄編	關齋先生と日本精神	關	228	11.0	十月	至文堂	十月	▲關齋先生と日本精神(平泉澄)崎門尊王論の發達(内田周平)外二篇。
徳富猪一郎	人間山陽と史家山陽	徳	220	11.0	三月	民友社	三月	▲頼山陽に關する講演、談話、隨筆、雜記等を收めたもので、人間山陽と史家山陽其他。
宮本 伸	佐久間象山	宮	705	11.0	二月	岩波書店	二月	▲當時開國和親の必要を高唱して一世を指導せる佐久間象山の傳記。
廣瀬 豊	續吉田松蔭の研究	廣	357	11.0	一月	武蔵野書院	一月	▲教育、哲學思想及其他、松蔭研究の諸問題研究資料の探訪等四篇より成る。
藤原 猶雪	親鸞聖人の女覺信尼公行實の研究	藤	160	11.0	三月	山喜房	三月	▲親鸞聖人の女覺信尼公の全生涯の行實を考察せる書で、誕生の時所外九篇。
有島成市	一貫齊國友藤兵衛傳	有	415	11.0	六月	武蔵野書院	六月	▲化政天保の天才國友藤兵衛の經歷業績を網羅せるもので、出生と系圖氣地の發明其他。
宮崎 安右衛門	食桃水	宮	234	11.0	七月	日月社	七月	▲純水和尚の行狀記で、生ひ立ち、隠れたる行以下廿二項(註)を記す。

著者	書名	編者	頁数	寸法	発行	社名	発行	備考
森 嶋 外	北條霞亭	北	392	11.0	七月	春陽堂	七月	▲北條霞亭傳。
徳富猪一郎	明治天皇の御盛徳	徳	92	11.0	十月	民友社	十月	▲明治史上より見たる明治天皇の御盛徳、明治天皇二十年聖忌外一篇。
徳富猪一郎編述	岩倉具視公	徳	294	11.0	六月	民友社	六月	▲幕末尊攘時代より明治中興時代に亘る岩倉公の略傳で、公と修養時代外八章。
妻木 忠太	史談木戸松菊公逸事	妻	538	11.0	二月	有朋堂	二月	▲維新前の事蹟、維新後の事蹟外一篇にて木戸孝允の逸事を詳録せるもの。
渡邊 幾治郎	文書より大隈重信侯	渡	502	11.0	九月	早稲田出版部	九月	▲諸家秘笈の文書に據つて大隈侯の重要事蹟を精細に考證せるもの。
瀧 能 聖	義の神乃木大將	瀧	31	11.0	九月	育社協會	九月	▲世のありさま、我れの悩み、義の人乃木大將の神乃木大將の四篇。
宇野木 忠伯	榮二 澁澤翁	宇	170	11.0	五月	千倉書房	五月	▲農家の一子として生れよく大業を成し遂げた澁澤翁の傳記で、翁と大隈侯外卅七章。
岡田 純夫編	澁澤翁は話せる	岡	351	11.0	十月	岡田家	十月	▲澁澤翁の「雨夜譚」を中心に其後の談話を織り込んでなせる書。
久木東海男	新聞先覺評論	久	413	11.0	九月	出立版命部	九月	▲明治以來の新聞先覺を評論せるもので、渡邊治、渡邊縁岡、末廣重恭外五十篇。
宮部 金吾	内村鑑三君小傳	宮	83	11.0	二月	獨立堂	二月	▲基督教界の第一人者たる内村鑑三君の傳記、「書翰に現はれたる内村鑑三君」附載。
薄田 斬雲編	頭山滿翁の眞面目	薄	334	11.0	六月	平凡社	六月	▲立雲翁の自身物語られたる閑話談で、他に語家の頭山觀及び「雙栞舎から常磐松」を収む。
徳富猪一郎述	床次君八面觀	徳	48	11.0	十二月	近代社	十二月	▲床次氏の眞面目を述べた徳富蘇峰氏の講演の筆記で、維新の前後其他。

鷗崎 鷺城 犬養 毅 傳	片山 景雄 編	鷺尾 義直 木堂 先生 寫真 傳	北田 悌子 父 濱 口 雄 幸	男爵 國 琢 磨 傳 記 刊 行 會 編	橋 輝 野 口 英 世 博 士 傳	上 田 光 曦 之 先 驅 者 西 久 保 少 佐	高 島 慶 長 改 訂 著 史 ア メ リ カ 彦 藏 自 叙 傳	永 見 七 郎 世 界 を 股 に 掛 け て 井 上 雅 二 氏 の 前 半 生	安 部 磯 雄 社 會 主 義 者 と なる ま で	報 知 新 聞 社 編 護 國 軍 神 古 賀 聯 隊 長	大 原 和 白 良 嶺 作 の 護 國 肉 彈 三 勇 士	小 笠 原 長 生 忠 烈 爆 彈 三 勇 士
洋函六 布入判 533	洋函六 布入判 721	和信四 六 讀判四 200	布函四 六 裝入判 311	布函四 六 裝入判 106	上四 六 裝判 200	布函六 裝入判 370	上函四 六 裝入判 515	布四 六 裝判 789	並四 六 裝判 246	上四 六 裝判 131	布函四 六 裝入判 189	並四 六 裝判 304
三六〇	特三、五〇 一、四〇	一、五〇〇 三、八〇〇	一、〇〇〇	特一、三〇 六、〇〇	一、五〇〇	二、三〇〇	三、七〇〇	一、八〇〇	八、五〇	六、〇〇	一、七〇〇	八、〇〇
誠 文 堂	日米評論社	木堂雜誌社	日比谷書房	朝日書房	栗田書店	樺太教育會	ぐろりあ	通本植民	改造社	四條書房	護國閣	日實業社
月二十	月八	月八	月一	月七	月八	月九	月十	月十一	月二	月三	月四	月四
▲犬養木堂翁の傳記で、横顔を描く、家系と生立ち、東京遊學、任官事情外卅八章。▲評論篇、逸話篇、文章篇、演説篇外三篇に分けて木堂に關する諸篇を輯録す。▲木堂犬養毅氏一代に涉る寫真百廿餘枚を掲げ明快なる解説を加へた豪華版傳記。▲故濱口雄幸氏の日常を記述したもので、組閣の夜以下十八項より成る。▲故國男の前半生を語る(金子堅太郎)日本産業界の先覺者(櫻内幸雄)外十二篇。▲世界的學者故野口英世博士全生涯の正確詳細な記録。▲樺太回収の先陣者西久保少佐の事蹟に就て述べたもので會戰記外十四章。▲ヒコ自叙傳(土方藤鳥譯)解題(高市慶雄)附録(ジヨゼフヒコ年表外三篇)解題(高市慶雄)▲井上雅二氏の人思想及その事業に就て述べたもので、故郷を出るまで外十三章。▲生立から社會主義者となる迄の安部氏の自叙傳で、明治維新、宗教的感化外十七章。▲錦西城外に於て軍旗の危急を救ふべく壯烈な戦死を遂げた古賀大佐の手記其他を収む。▲廟行鎮に於いて内彈鐵線細破壊を執行せる作江北川江下三勇士の事蹟を述ぶ。▲廟行鎮に於ける北下北川竹江の爆彈三勇士の事蹟を述ぶ。附録社説内五勇士。												

村 松 栢 風 爆 彈 三 十 六 勇 士	油 路 耕 之 助 上 海 陸 軍 隊 隊 長 の 忠 魂	白 柳 秀 湖 親 分 子 分 (政 黨 編)	白 柳 秀 湖 親 分 子 分 (英 雄 傳、俠 客 編、浪 人 編)	國 民 新 聞 政 治 部 編 非 常 時 日 本 に 躍 る 人々	荒 木 武 行 新 政 治 家 列 傳	齋 藤 貢 轉 換 日 本 の 人 物 風 景	中 川 竹 洞 才 媛 傳	米 川 正 夫 べ ー ト ル	野 上 彌 生 子 譯 ソ ー ニ ャ ・ コ ヴ ア レ フ ス カ ヤ	戸 塚 文 卿 改 善 村 の 聖 ヴ イ ア ン ネ ー 傳	ギ ル 伯 策 譯 レ ー ニ ン の 風 貌 と 追 憶	村 田 賢 策 譯
並四 六 裝判 251	布函四 六 裝入判 405	並函四 六 裝入判 1257	並函四 六 裝入判 207	洋函四 六 布入判 264	布函四 六 裝入判 309	洋函四 六 布入判 279	洋函四 六 布入判 264	布函四 六 裝入判 314	並四 六 裝判 311	上四 六 裝判 295	並四 六 裝判 136	並四 六 裝判 136
一、八〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	八、〇〇	一、五〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
改 造 社	杉本書店	千倉書房	千倉書房	日東書院	内外社	大東書房	青山書院	三省堂	岩波書店	武宮出版部	南北書院	南北書院
月五	月十	月九	月二十	月十一	月六	月五	月一	月六	月四	月一	月三	月三
▲上海事變に於ける卅六勇士の活躍を描けるもので、鐵線細の前後外十七章。▲上海事變に於ける我海軍陸隊隊士の勇猛なる奮闘振りを集めたる忠魂録。▲大久保利通篇、西郷從道篇、黒田清隆篇、松方正義篇、伊藤博文篇外三篇。▲英雄篇、俠客編、浪人編の三冊。一改訂普及版。一冊一冊。▲非常時日本を擔ふ代表的人々を紹介せるもので、傑り役の内田外相外卅九篇。▲現代の政治家一百名の列傳、他に「新内閣々僚の横顔」を収む。▲池田成彬論、濱口雄幸論、堀切善次郎論、宇垣一成論、久原房之助論外廿篇の人物月旦。▲古今才媛の傳記を輯めたるもの。												

モロトフ著 江川信太郎譯	レーニンの黨生活	並四六製判	151	四〇	南北書院	三月	▲黨人としてのレーニンの指導振りを述べた書で、共産黨の力其他、附レーニンの思出。
クループスカヤ著 本間七郎譯	レーニンの思ひ出	並四六製判	241	六〇	叢文閣	九月	▲第二巻は一九〇八年より一九一七年迄を収めたもので、反動時代其他。
クループスカヤ著 本間七郎譯	レーニンの思ひ出	並四六製判	198	六〇	叢文閣	十一月	▲大戦争時代二月××まで、附録四篇。
石井悦朗 工藤博士	科皇王アラデー傳	上四六製判	146	八〇	桂文閣	六月	▲偉大なる科皇王アラデーの傳記で、赤貧洗ふが如し、學界への初給出外三十八章。
エドワード・グレイ著 石丸藤太譯	グレイ一回顧録	洋四六布判	457	一七〇	日月社	九月	▲英國が大戦に勝つ近の真相を述べたもので、バルカン戦争外廿三章。
内山 誠	政 溥儀	上四六製判	291	一五〇	先進社	七月	▲新奇を極めた運命を辿つて滿洲國の主權者となつた宣統帝の半生を描けるもの。
神田 茂編	年代對照便覽並對照表	洋新四六布判	198	一八〇	古今書院	九月	▲和漢洋の年代對照表に陽陰曆對照表その他を附した、歴史的研究家の參考書。
石井高孝 編者 上原一純 編輯	西洋人名辭典	洋四六製判	1544	六三〇	岩波書店	十二月	▲古代より現代に至るあらゆる部門の人物を網羅し片假名の五十音を以て排列せる辭典。

八、地理・紀行

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行發	内容大意
遠藤金英	地理學概論	洋四六布判	248	二二五	教育研究會	二月	▲一般地理學に關し極めて平易に叙述せる書で、宇宙に於ける地球外十七章。
山崎直方	地理學叢話	上四六製判	262	一八〇	古今書院	六月	▲大磯驛近傍にある横穴塚の話、未開人の海圖、寒帯地方の征服外十四篇。
京都帝國大學文學部地理學教室編	地理學叢話	並四六製判	416	二二五	古今書院	十月	▲我が地理學觀(石橋五郎)徳川時代に於ける地誌の選述(岩根保重)外八篇、餘録。
河田喜代助抄譯	社會地理學	洋四六布判	387	二二〇	古今書院	六月	▲ハンチントン及びカイルソンの共著「社會地理學の環境的基礎」の抄譯。
飯塚浩二	社會地理學の動向	並四六製判	113	四〇	育郷土盟教	八月	▲歴史と人文地理學、ラビノウイツ「人口の社會學」モリエウ「社會集團論」。
遠藤金英	人文地理學	洋四六布判	242	二二〇	教育研究會	五月	▲地理學の意義、人文地理學の要素、自然と人類との關係、人類及び人種外十五章。
佐藤弘	人文地理學講話	洋四六布判	358	二二〇	高陽書院	五月	▲人文地理學の概念、地理學發達の経路、氣候とその制約性外二章にて論述。
フオーセット著 内 勇譯	地理學界論	洋四六布判	137	一八〇	古今書院	五月	▲フオーセットの「境界論」の譯で、境界の帶的性質、境界の機能外七章。

納富重雄	地勢と文化	洋四六 布入判	二、八〇〇	古今書院	月一十	▲自然と人生、文化の變遷と地學的條件、地勢と交通道の變遷外四章にて論述。
辻村太郎	新考地形學	洋四六 布入判	四、八〇〇	古今書院	月二十	▲地形の研究、乾燥地形外二章にて論述、カ ルスト地形、乾燥地形外二章にて論述、カ ルスト地形と地質との關係を闡明しつゝ、地形學讀 解の方形を述べたもので、地物圖式外五篇、 ▲讀圖に必要な基礎知識並に自然地理及び 人文地理に際する地形圖の讀方に就て論述。 ▲近世地理學單位比較表、地質學關係事項年表 政治人種地形鑛物及地質年代生物交通の各篇 ▲日本に於ける郷土地理學の發達、朝鮮に現 存せる日本地圖外六章にて論述。
鈴木木猶吉	地形圖の讀方と其利用	洋四六 布入判	一、八〇〇	古今書院	月六	
地理教育研究會編	地形圖の讀方	洋四六 布判	一、三〇〇	中興館	月六	
小岩井兼輝	高等地理學圖表	並四六 製判	二、五〇〇	振興館	月四	
藤田元春	日本地理學史	布四六 製入判	四、三〇〇	刀江書院	月二十	
西龜正夫	郷土地理の調べ方と實例	上四六 製入判	一、八〇〇	厚生閣	月一	▲郷土の生活調査研究の着手の箇所を指示せ るもので、郷土地理とは何ぞや外十二篇。 ▲名古屋豊橋岡崎一宮瀬戸の五都市を資料と せる動態の研究で、都市展延の速度外四章。 ▲一般的觀方及び部分的考察を綜合せる郷土 史郷土地理の研究書。 ▲各地に於ける郷土研究を懸賞にて募集し、 小川内田飯本三先生により審査入選せるもの
石川榮耀	都市動態の研究	並四六 製判	四、七〇〇	刀江書院	月六	
佐藤二郎	郷土の産業	洋四六 布入判	一、三〇〇	雄山閣	月一十	
山本二郎	郷土の産業	洋四六 布入判	一、三〇〇	中興館	月九	
地理教育研究會	地方研究郷土の地理	上四六 製入判	一、四〇〇	中興館	月九	
長澤規矩也編	江戸地誌解説稿	洋四六 布入判	三、八〇〇	長澤家	月二十	▲江戸時代に編纂された江戸地誌關係書に解 説を添へるもの。附圖八十二枚。

菅原守綱	藝州府中莊誌	洋四六 布入判	一、三〇〇	黙平堂	月五	▲神武大帝御東征御留所の所在所と呼ばれる 藝州府中の地誌で、交通外十三章。 ▲宮内省主とせる瀬戸内の地誌で、岩城島南 側の階層崖、小瀬部外八十三章。
綿貫勇彦	瀬戸内百園誌	上四六 製入判	一、八〇〇	刀江書院	月四	
小林房太郎	新大日本地理精義	洋四六 製入判	七、三〇〇	南光社	月四	▲下巻は北海道、樺太、臺灣及朝鮮の地方誌 を前半とし、人文地理を後半とせるもの。 ▲現在日本の經濟文化の諸現象を日本の地理 的特異性の點から述べた書。 ▲順序立て、述べた日本地理の讀本で、緒論 地方誌、總論の三篇より成る。 ▲凡て人口に關する時間的關聯を説明 せるもので、人口調査外三篇。
佐藤弘	日本地理講話	並四六 製判	一、三〇〇	古今書院	月九	
小田内通敏	日本地理讀本	洋四六 布入判	一、八〇〇	鐵塔書院	月六	
及川甚之丞	日本人口地理	布四六 製入判	三、四〇〇	厚生閣	月六	
田中秀作	新滿洲國地誌	洋四六 布入判	二、五〇〇	古今書院	月十	▲新滿洲國の地誌的研究で、滿洲發達の史的 考察、滿洲國の地理區外十九章。 ▲學術的根據に基いた滿洲を中心とせる支那 の地理書で、滿洲國、中國外一篇。
西龜正夫	滿洲國中心支那地理	布四六 製入判	一、四〇〇	厚生閣	月七	
小林房太郎	世界地名大辭典	洋四六 製入判	一、〇〇〇	南光社	月六	▲リッピンコット大辭典を骨子とせる世界地 名大辭典で上巻はア部よりコ部迄を收む。 ▲世界全體に亘つての經濟を主とせる地誌で アジア、ヨーロッパ、外五篇。
香川幹一	世界經濟地誌	布四六 製入判	三、三〇〇	有文書院	月二	

(7-4)

オハラ ミチヲ	中島 信美	新光社編輯部編	新光社編輯部編	研究社編輯部編	研究社編輯部編	研究社編輯部編	三省堂編輯部編	岡田 重雄	山形第二高等女學校長	山中 徳信	
世界經濟地理小誌	地理區に 綜合せる 世界の地 理	世界都市大觀	世界人種大觀	現代日本地 理	現代日本地 理	日本本 地	外國地 理	外國地 理	外國地 理	最新日 本地 理	
布四六 製刊	布四六 製刊	上四六 製刊	上四六 製刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	
49	315	416	370	466	489	559	450	552	478	559	
二〇〇	二一六〇	三三〇〇	三三〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一、六〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	
古今書院	古今書院	新光社	新光社	三友社	研究社	研究社	教育書館	文書堂	三省堂	中等教育 研究聯盟	
月九	月九	月二十	月二	月二	月十	月十	月十	月八	月四	月三	
▲世界列強が經濟的に如何に抗爭激化してゐるかを示した経済地理誌	▲さきに好評を博した山本氏の「日本地理」の姉妹篇として刊行されたもの	▲各種の要素を基礎に發達した各種世界の都市は寫眞で表現し佐藤弘氏の解説を添ふ	▲全世界の人種は鮮明な數百の寫眞で飾られ西村眞次氏の解説を添ふ	▲中等學校生徒用の地理参考書で、地方誌外二篇より成る	▲現今広く用ひらるゝ中等程度の教科書を基礎として説ける日本地理参考書	▲六大洲別に於いて大洋洲にはじめ南半球より北半球に及ぶ歐亞に於いて順序に配列解説する	▲全部地理的單元に區別し各地方外六篇	▲外國地理の要點、急所を悉く網羅して解説を施せる受験準備用書	▲下巻はヨーロッパ、世界地理總括問題及び解答の二篇より成る	▲中等學校地理書の自習用参考書で、オセアニア洲、三大洋と兩極地方外八篇	▲現行中等學校日本地理教科書(新制度)の重要なる事項を悉く網羅せしむる(新制度)の

地

圖

(7-5)

山 上 徳 信	鹿 毛 喜 久 太 郎	鹿 毛 喜 久 太 郎	鹿 毛 喜 久 太 郎	内 田 寛 一	小 川 琢 治 監 修	振 興 興 館	滿 洲 經 濟 調 査 會	小 林 又 七 編	小 林 又 七 編	九 段 書 房 編	精 國 社 編	精 國 社 編
最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理	最新日 本地 理
洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊	洋新四 六布刊
437	170	195	195	81	1	1	1	1	1	1	1	1
一、二〇〇	四〇〇	四〇〇	六〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	七〇〇	七〇〇	四〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
受驗研究社	弘道閣	弘道閣	弘道閣	興文社	新光社	振興社	滿鐵	兵用圖書	兵用圖書	九段書房	安室精圖社	安室精圖社
月三	月十	月十	月十	月七	月七	月七	月八	月十一	月十一	月十	月二十	月二十
▲現行中等學校外國地理教科書(新制度)の重要なる事項を悉く網羅せしむる(新制度)の	▲新教授要目に據り、地球、オセアニアより書き起し北アメリカ洲に及ぶ	▲新教授要目に據り、地球、オセアニアより書き起し北アメリカ洲に及ぶ	▲新教授要目に據り、地球、オセアニアより書き起し北アメリカ洲に及ぶ	▲地理事項を精確適宜に描出せる一般用日本地圖書(索引付)	▲世界の現勢を一目で知るを得る詳細な地圖	▲世界列強が經濟的に如何に抗爭激化してゐるかを示した経済地理誌	▲九色版彩式に地勢の高低を示し鐵山資源産業を表示す(一冊三十分)	▲交通は勿論新町名新番地を網羅し區畫町別をなす(一冊三十分)	▲大東京の新都で、附録新舊對照に大東京區別町名索引表を附す	▲本圖は東京市役所の資料による(附新舊町名地番對照表)入り	▲本圖は東京市役所の資料による(附新舊町名地番對照表)入り	▲本圖は東京市役所の資料による(附新舊町名地番對照表)入り

地理・紀行(市町村便覽・大東京案内・便覽)

四五六

精圖社編	大東京市分區便覽(25)	四六四頁	1枚	三〇	安室精圖社	月二十	▲本圖は東京市役所の資料による。附(新舊町名地番對照表)入り。
市町村便覽	全國市町村便覽	四六四頁	1枚	三〇	出安室精圖社	月二十	
大東京案内便覽	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲三府四十三縣北海道臺灣樺太關東州南洋全國學校名簿諸官廳警察署郵便局管轄區域。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲昭和七年十月一日現在の東京府公示による換地處分決定の新番地を採録せる大東京案内
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲神田、日本橋、京橋、下谷、淺草、本所、深川七區の詳細なる交通圖。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲龜町、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷八區を詳解せる交通圖。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲城東、向島、葛飾、江戸川四區の交通を詳解せる案内書。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲浦田、大森、荏原、品川、目黒、世田谷六區の交通を詳解せる案内書。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲澗野川、荒川、王子、足立四區の交通を詳解せる案内書。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲豊島、板橋兩區の交通を詳解せる案内書。
高橋重治	大東京案内便覽	四六四頁	1枚	三〇	藤谷崇文館	月二十	▲大東京の歴史沿革、新市域各區の併合以前の沿革及出入費集便集快集大東京の現況其他

地理・紀行(日本案内・紀行)

白石實三	大東京遊覽地誌	二六	二〇	日賣本業社	月二十	▲大東京名勝案内、大東京四季の行樂、大東京遊覽地誌の三部を收載。
一高史談會編	大東京史蹟案内	四六	二〇	育英書院	月二十	▲實地踏査をなして記録せる大東京市の史蹟案内書で、總説市内篇郊外篇に分つ。
至誠書院編	大東京都市寫眞帖	四六	二〇	至誠書院	月九	▲新舊町區名圖一葉、三色版二葉、二色版八頁、寫眞一二八頁の大東京の名所寫眞集。
警眼社編	大東京町名便覽	四六	二〇	警眼社	月十	▲大東京三十五區の舊町、大字、字名及び新區町名を掲げて對照に便ならしめた便覽。
精圖社編	大東京市新區町界町名地番詳覽	四六	二〇	精圖社	月十	▲東京市役所告示原簿を縮版してポケット型の小冊子に纏めた町界町名地番詳覽。
鶴見榮太郎	大東京新區町名便覽	四六	二〇	田口書店	月十	▲新舊町名を對照せる東京市新設區の町界町名番地を明示せる便覽。
東京市役所編	大東京新區町名地番表	四六	二〇	市政人社	月十	▲東京市市域擴張實施以前に大字及字名と新區町名とを併記せる便覽。
鐵道省編	日本名所集	三五	二〇	博文館	月四	▲上巻は滋賀縣及京都府の大部分を記載し交通線の關係上兵庫縣の一部を附記す。
鐵道省編	日本名所集	三五	二〇	博文館	月一	▲鐵道省線の驛を基點として全國的に著名な名所を紹介せるもので、北海道其他。
鐵道省編	日本名所集	三五	二〇	博文館	月七	▲鐵道線路別に全國に於ける主要な寺院を紹介せるもの。
星野辰男編	JAPAN A PICTORIAL INTERPRETATION	四六	二〇	朝日新聞社	月八	▲現代日本の風俗、自然等を寫眞によつて紹介した書、全部グラビヤ刷、説明英佛兩文。
旅行研究會編	全日本旅行辭典	四六	二〇	旅行研究會	月八	▲日本の名勝温泉其他諸事項を網羅す。

四五七

日本博物館協會編	水島芳靜	水島芳靜	水島芳靜	平賀文雄	小泉鐵	北尾錄之助	郷土を語る會編	高橋源一郎	田中純	小杉放庵	小林雨峯	徳富猪一郎
全國博物館案内	箱根遊覽と富士五湖廻り	伊豆半島の旅	八ヶ岳火山山群	蕃郷風物記	近代大坂	趣味の博多	秩父多摩山・總の海	美濃と飛騨の旅	琵琶湖をめぐる	四國巡禮	讀書人と山水	
布三六 裝入判	布三六 裝入判	布三六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判
272	391	102	117	320	332	436	301	396	170	136	268	410
一、八〇	一、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	六、〇〇	八、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇
刀江書院	日本遊覽	日本遊覽	日本遊覽	建設社	創元社	福岡協和會	武蔵野歴史	地理學會	景日協本會	景日協本會	中央佛敎社	民友社
月七	月一十	月七	月二	月一十	月五	月二十	月一十	月十	月六	月六	月七	月八
▲全國博物館及び動物園、水族館の主なるものを網羅せる案内書。	▲東京を中心に二泊の旅に適應しい地の案内で、伊豆半島と大島地方外八篇。	▲實地踏査をなせる箱根遊覽及び富士五湖めぐりへの案内書。	▲海に山に最も多く勝景地を抱擁せる伊豆半島の案内附録大島めぐり。	▲八ヶ岳火山群特有の構成とその見解を提供せる案内書で、八ヶ岳外五篇。	▲臺灣に於けるアミ族及びタイヤル族の紹介で、東部と蕃人山の蕃人、外十二篇。	▲近代大阪の生活の種々相を描ける書で、上空大阪、新淀川漫歩、道頓堀夜話外廿四篇。	▲大福岡見物と神社佛閣史蹟巡禮、傳説の福岡、博多花街情調と歌謡其他。	▲多摩川上流日原、小河内、丹波及び同川源地、秩父浦山、同名栗、房總海岸の調査記に入る、其他二十九章、放庵書十六篇。	▲大津にて思ふ、湖西を行く、湖上に浮ぶ、湖北其他三章の風景案内記。挿畫十五圖。	▲四國八十八ヶ所靈場巡りの記録で、上州西南端の寺外六十篇。	▲東西遊記、關西遊記、河蘇、長興山莊雜記、秋行關外九部より成る紀行文。	

滿蒙支那案内 紀行

誠文堂編	住友山岳會	北田正三	百溪祿郎太	黒田初子	菅沼達太郎	日本山岳會編	田部重治	今井徹郎	長谷川傳次郎	矢島祐利譯
登山とキャンブ地案内	近畿の山と谷	九州の山々	祖母岳	婦人の山とスキー	山岳服裝近代色	山日	山と溪谷	山は生きる	ヒマラヤの旅	アルプスの氷河
上四六 裝入判	洋三五 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判
118	356	230	119	167	185	438	572	402	369	223
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
誠文堂	朋文堂	朋文堂	朋文堂	大村書店	大村書店	日本山岳會	第一書房	木星社	中央公論社	岩波書店
月六	月六	月六	月四	月六	月六	月六	月六	月六	月八	月五
▲第一登山(小島鳥水)僕の登山史(早川種三)其他十數篇の感想・案内及び寫眞集。	▲近畿を中心とする山岳及び溪谷に就いてその概要を記述せるもの。	▲九州の山と谷の良き案内書である。北部九州の山々、中部九州の山々、南部九州の山々。	▲九州の名山祖母岳に就いて其の地勢、地質、動植物、傳説、登路、神社等書かれてある。	▲女性に向く登山やスキーの計畫を多數の實例を擧げて説明し服裝其他の注意を述べ、ンピングの服裝と用具に就いて詳述す。	▲八十餘圖の挿畫を以て登山、スキー、キャンプの日程表其他より成る。	▲日記欄、住所欄、登山の注意、應急手當及び登山衛生日程表其他より成る。	▲山岳、溪谷、森林等に關する感想隨筆論文等を收めたもので、山に入る心其他「普及版」。	▲中村儀助の覺書、山に入る、山想篇、山の物語、山小屋外二篇の山岳隨筆集。	▲中部と西部ヒマラヤ及びナンガ・バルパツト峻峰を含む大ヒマラヤの寫眞と研究。	▲愛蘭の物理學者チンダルの科學的紀行文で一八五六年の遠征より五九年の遠征迄。

東亞文化協會編	大津敏也	大藏公望	安治博道	河西惟一	新天地同人編	東亞協會編著	遠藤壽儼	遠藤壽儼	川島富丸	大連新天地社編	長井修吉	東京開成館編輯所
最新滿洲國案内	滿洲國旅行案内	滿洲國、の邦人農業移民	新天地最新滿蒙移住案内	滿洲國移住指針	滿洲國移民就職指針	蒙讀本	新滿蒙の手引	千里滿蒙の寶庫	寶庫滿蒙は招く	活潑の招く	大滿洲	滿洲國紀要
並四六製判	洋函半布入敷	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	布四六製判	並三六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	上四六製判	並四六製判
190	367	83	207	111	164	244	180	256	332	180	210	271
六〇	三〇〇	四〇	六〇	四〇	四〇	一〇〇	四〇	六〇	八〇	四〇	八〇	六〇
鐵道研究社	新光社	創建設社	南光社	内外社	創建設社	莊人社	兵林館	兵林館	帝國會文	創建設社	地踏社	東京開成館
四月	八月	六月	三月	四月	四月	四月	三月	四月	四月	四月	五月	二月
▲滿洲國に關する地理人文産業及鐵道沿線の案内記事等一切の事項の網羅す。	▲各鐵道線路別に各都市への順路、旅客設備交通機關其他を詳細に説明せる案内書。	▲滿洲に於ける農業の實狀を記述せる移住農民の參考書で農産物の種類外五篇。	▲滿蒙移住者にとつて必ず識つて置かねばならぬ事柄を收めたもので、沿革其他。	▲滿洲問題の百般に就て述べたもので、滿洲國とは？ 移住の手引、産業の實際の三篇。	▲滿洲、小商工業の發芽外十三篇、親しみ深い滿洲國、小商工業の發芽外十三篇。	▲新國家滿蒙に就ての手引書で、滿蒙とはどんな所か、企業と金融外十一篇。	▲體驗を基礎として滿蒙の真相現狀を説けるもので、地勢及地味外九篇。	▲無限の寶庫を有する滿蒙の案内記で、どんな處か、愉快なる國民外交外二十一章。	▲滿洲國の全容に就て説述せるもので、滿蒙は働く、過去の滿蒙、滿蒙の門外十一篇。	▲滿洲に就ての一般知識を親切に説いた書で親しみ深い滿洲國、小商工業の發芽外十三篇。	▲大滿洲國全般に就て述べたもので、地理社會概観、自然的富源、交通外十八篇。	▲滿洲國の沿革と政治組織及同國を地理的歴史的に詳述リットン報告書帝國意見書を附

東亞文化協會編	後藤朝太郎	鹿山登村	山本實彦	篠原義政	佐久間貞次郎	石田煤窗	日本堂編	吉行エイスケ	群司次郎正	有川貞雄	佐藤勇香
最新滿洲國案内	支那及滿洲旅行案内	行く満蒙の透視	滿洲の鮮	滿洲從横記	支那風俗春秋	支那風俗畫譜	新上海	新しき上海のブライウエート	ハルビン女	移住地としてのブラジル	好國邦人の發展地ブラジル
並四六製判	布四六製判	上四六製判	上四六製判	並四六製判	布四六製判	上四六倍判	上四六製判	上四六製判	布四六製判	並四六製判	並四六製判
190	1270	414	402	201	444	16	262	271	408	434	439
六〇	三〇	一〇〇	一〇〇	四〇	二〇〇	四〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
鐵道研究社	春陽堂	岡村書店	改造社	國政研究會	出版命部館	洪洋社	日本堂	先進社	雄文閣	文化書房	日實業社
四月	五月	五月	十月	十月	二月	六月	八月	三月	六月	十一月	七月
▲滿洲國に關する地理人文産業及鐵道沿線の案内記事等一切の事項の網羅す。	▲支那各省及南洋方面、滿洲國新天地等に於ける支那人の活躍する地方色を描ける案内書。	▲最近二ヶ月に亘る著者の滿蒙旅行記で、旅に出る日奉天へ銃を把る身外七十篇。	▲山本改造社長の滿蒙視察記で、大連の三日外四十五篇。	▲滿洲視察の旅日記で、東京驛出發、長春發大連に向ふ其他、改訂版。	▲多年支那に居られた佐久間氏が支那の諸相を述べた書で、江南霜蓋以下七十七項。	▲支那大國に於ける今尙歴史の傳統を物語る風習や生活を寫生せる繪巻物。	▲上海の横顔、上海の住地と沿革、上海の地理外十四篇、改訂版。	▲國際都市上海の歡樂と策謀を曝露せるもので、上海と戦争の轟感外二十篇。	▲爆彈線上のハルビン脱出記、長春の酒場女競馬場に拾つた女外十七篇。	▲ブラジルの事情に就ての具體的説明で、日本民族の移住性、ブラジルの農業外七章。	▲日本人の移民地として好適な新興國ブラジルの案内書で地誌、日常生活外十一章。

佐藤 勇 香	日本植民通信社	ブラジル移住者寶典	並六 製判	178	六	高陽書院	月六	▲ブラジルの國情及渡航法等に就て述べたもので、渡航の目的志望外一篇
日本植民通信社編	植民ガイドブック	並六 製判	83	三〇	通信社	月二十	▲伯國事情と移民發展の手引き書	
松岡 冬 樹	拓 人 闢 病 法	並六 製判	151	七	通信社	月一	▲南米ブラジルに對する渡航手續きの詳細	
永 田 稠	兩 米 三 巡	並六 製判	400	一、三〇	日本力行會	月四	▲海外に奮闘する邦人移民のからやすきアメリバ赤痢その他に就て	
久留島秀三郎	珈琲を啜りながら	並六 製判	316	一、三〇	鞍山製鐵所	月四	▲昭和六年五月出帆より在米同胞の將來の考察更に歸國に至る迄の永田氏の記録	

馬郡 健次郎	歐 羅 巴 案 内	洋四六 布入判	316	一、〇〇	内外社	月八	▲歐羅巴の案内書で、旅行準備、西比利亞經由歐洲行、歐洲大陸旅行三篇
馬郡 修次郎	版新米 國 案 内	洋四六 布入判	339	一、〇〇	高瀬書房	月八	▲米國旅行への順序方法其他に就て説ける案内書で、太平洋横斷航路外八篇
關 一 雄	アメリカ旅行案内	洋四六 布判	375	三、八〇	郁 文 堂	月七	▲初渡航者の爲に平易に述べたもので、アメリカ渡航案内、各地遊覽案内の二篇
河 間 隆	アメリカ案内	洋四六 布判	342	一、五〇	内外社	月三	▲事實上即せるアメリカの案内書で、ニューヨーク、ワシントン、ボストン其他
上原 敬二	日本の探險 ハワイ	上四六 製入判	310	三、〇〇	先進社	月五	▲日米の樞點としてのハワイを解明せるもので、ハワイ發見史、ハワイの人文外八章
中村 秋 季	北米國立公園遊記	洋四六 布入判	315	二、〇〇	新生堂	月五	▲北米大陸の風景、米國の國立公園、世界最初の國立公園、カナダの國立公園外五章

官界各種試験唯一の参考雑誌として、又官界榮達の羅針盤として、創刊以來既に十有三卷を重ねてゐる。官界生活を送らむとする士で、若し本誌を知らない者ありとすれば、それは不幸といふ文字から離れ難い人である。——と云ふ確信を以て自奨する。

文普・文高 受 験 界

誌 關 機

◇内容概目 委員講評、委員小傳、受験談叢、討論會記、各科研究、論文解答、英文答案、合格者受験實記、普通學講義、普文解題、受験文叢、法典質疑、受験夜話、試験漫談、受験顧問、試験案内、試験公告、試験問題
増大號には本社七大模擬試験（高等試験、行政科、司法科、五十二號科、豫備試験科、高等資格試験科、普通試験科、裁書試験科）發表

◇毎月一回・一日發行 増大號年四回發行
一月・四月・七月・十月
一送科 増大號五十錢 二送科

◇定價普通號三十五錢

▼受験参考書目▲

倫理學概論	送價 三〇〇
法律經濟用語新辭典	送價 一〇〇
模擬論文答案集	送價 九〇
高等各科試験問題集	送價 八五
高等口述問答集	送價 一〇〇
資格認定試験問題集	送價 六〇
普文試験問題集	送價 八〇
受験作文の研究	送價 六五
試験の呼吸	送價 六五
警察行政の理論と實際	送價 一〇〇
警察實務軌範	送價 九〇
誰にも文章記憶術の秘訣	送價 五五
高等大官試験問題對照集	送價 八五

東京東區町幸内 受 験 界 社 振替口座 東京 一五 四四 四六 番
東京東區町幸内 受 験 界 社 振替口座 東京 一三 〇一 〇三 番

九、政治・社會

(A) 政治・軍事

政治一般・時局評論

著者	書名	装形	訂體	枚頁	定價	送料	發行所	月行發	内 容 大 意
佐々弘雄	大家政治讀本	洋四六	布入判	460	一、三〇〇	一〇〇	中央公論社	三月	▲わが政局の實際の動きを秩序だつて叙述せる書で、政治經濟的現段階の概観外五篇。 ▲新聞記事中最も重要な政治外交記事の基礎となる各般の豫備知識を説けるもの。
小川節	新政治外交記事の基礎知識	洋四六	布入判	572	二、〇〇〇	一〇〇	栗田書店	十月	▲社會篇、憲政篇、自治篇、經濟篇、國際篇の五篇より成る公民讀本。一改訂普及版。
朝日新聞社編	朝日公民讀本	並四六	製判	364	一、〇〇〇	一〇〇	朝日新聞社	九月	▲我國政治の根本思想を明かにせるもので、土地人に、兵制、産業外五章。
平野馨	本邦政治の根本思想	並四六	製判	103	四〇〇	一〇〇	平野書房	四月	▲自由、人民、議會主義の改革、職能身分制代表、指導者の選擇外五章。
ケルゼン著 西島芳二譯	民主政治と獨裁政治	並四六	製判	181	八〇〇	一〇〇	岩波書店	六月	▲本書はデモクラシーと獨裁との關係を明快にせる文獻。
アドラー著 田知一譯	政治的民主主義と社會的民主主義	洋四六	布入判	230	一、六〇〇	一〇〇	政經書院	十一月	

政治・社會（政治一般・時局評論）

政治・社會（政治一般・時局評論）

フオック 小池四郎著	憲政を破壊する政黨政治	上四六 製判	247	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲没落しつつある議會政治を批判檢討せるもので、議會にまつはる迷信外八章。
大井一哲	憲政を破壊する政黨政治	上四六 製判	247	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲憲政の本旨と政黨政治、公の機關を濫用して政務を擾亂する政黨政治外八章。
小松東三郎	カレント・アリアーズの提議と既成政黨の没落過程	上四六 製判	119	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲社會不安と時局の變遷、政黨政治の缺陷に對する本質的檢討外一篇にて論述。
權藤成卿	君民共治論	布四六 製判	338	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲公同政理の起源、官治制の創設、君民共治の御體繼、公典遵由の政理其他にて論述。
長澤九一郎	生産權奉還論	布四六 製判	134	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲現今の持取制經濟を必然ならしめた明治維新の不徹底に就て説明せるもの。
安部磯雄	産業奉還論	布四六 製判	106	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲不景氣對策、徹底的産業統制、社會主義の主張外二章。附録産業奉還論の原理。
田崎仁義	王道天下之研究	洋四六 布入判	700	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲古代支那の所謂上代王道治國平天下の宏謀要術を最新の科學的研究法により闡明せる書
尾崎行雄	世界裁判の歧路に立つ日本	洋四六 製判	98	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲各國通じての未曾有の經濟難、第二の世界大戰回遊に焦る外五篇にて論述。
中野正剛	轉換日本の動向	洋四六 製判	151	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲内外關係の重壓、幣原外交と井上財政、若槻首相の辭意と協力内閣論外六篇。
小林浩齊	互助與國主義に基く眞の時局匡救策	洋四六 製判	63	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲齊藤内閣の使命と國民の責任、經濟國難の解決は思想問題が根本外四章。
親泊康永	窮乏日本の新興政策	洋四六 製判	308	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲窮乏日本の概観、人口問題解決の新方向、日本の最窮乏地沖繩外十三章。
森傳	現狀否定より更生日本へ	洋四六 製判	136	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲世界戦争の影響と社會情勢、改造運動の誘因と近代色外八章。
橋本徹馬	紫雲莊閑話	洋四六 製判	312	一、二〇	八〇	先進社	月五	▲人生を樂觀すべし、失業者諸君に告ぐ、フアツシズモに作ふ危険外九篇。

政治・社會（政治一般・時局評論）

野依秀市	我れ勝てり！	洋四六 製判	331	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲皇室中心日本の行くべき途、受難より受福へ外廿八章。附録十一篇。
野依秀市	非常時に直面して	洋四六 製判	305	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲日本と世界各國、大財閥の資本の大移動の結果は米の問題外九十七章。
野依秀市	非常時政治の認識	洋四六 製判	281	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲齊藤内閣の後に來るもの、皇室中心主義の國民生活及國民政治への反映外廿四篇。
大谷光瑞	現下に處して國民は如何にすべきか	洋四六 製判	120	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲現下の時局問題に就て論述せるもので、外交問題、經濟問題、滿洲問題の三篇。
新谷英治	國民生活線上之國策	洋四六 製判	192	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲我帝國の時代に順應すべき國策の大綱に就て論述せる書で、黃白人種の争闘外廿九章。
赤松克麿	新國民運動の基調	洋四六 製判	196	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲萬國の労働者團結せず、アジア・インディナショナルへ、議會政治批判外四章。
下村宏	日本民族の將來	洋四六 製判	271	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲封建社會觀、日本民族の將來、昭和維新大觀の三篇にて論述。
林國雄	日本民族の將來	洋四六 製判	21	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲戦争と吾々の態度、祖國日本の現狀と吾等の對議會開争、民族同胞に訴ふる檄。
富山直孝	孤立日本の危機	洋四六 布入判	464	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲内に政治經濟思想の混亂、外に國際聯盟を繞る國難、内外憂患の日本を解剖せるもの。
細井肇	日本の決意	洋四六 製判	350	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲亞細亞通の著者が滿・鮮・支の實狀を詳説し大亞細亞聯盟を高唱せる救國の文章。
横山喜久雄	日本の更新の生活	洋四六 製判	75	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲時代生活を靜觀し日本の眞意と使命を探索して生活更新の十五過程を集約提示せしもの
藤澤親雄	日本の思想的獨立へ	洋四六 製判	433	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲眞面目なる日中提携論外十五篇にて論述。
高木友三郎	時局パンフレット	洋四六 製判	640	一、二〇	八〇	先進社	月二	▲東亞モンロー主義への葛藤（高木友三郎）日本再建論（山道襄一）外三册。普及版！

山道襄一	日本再建論	並四六	製判	179	三〇	千倉書房	月八	▲自ら反省せざれば革命來らむ、日本再建論の綱要外三章にて論述。
上泉徳彌	大日本の建設	並四六	製判	211	六五	出版風部會	月一十	▲小日本より大日本へ、世界の動き方、國民主義の時代、大日本の建設外一章。
澤田牛磨	日本文化の再建	上四六	製判	226	一〇〇	日東書院	月一十	▲大化と明治と、繪の様な文明、徳川時代、モンゴル全盛、裸體畫外十八篇。
長野朗	自治日本の建設	洋四六	布入判	287	一〇〇	建設社	月一十	▲實際に即した新日本建設の設計書で、經濟建設、政治建設、文化建設外二章。
荒木貞夫	昭和日本の使命	並四六	製判	58	二〇	育社協會教	月三	▲昭和日本の使命に就て論述せる書で、無差別觀の誤謬、日本人たる自覺外八篇。
新聞之新聞社	荒木陸相時局談	並四六	製判	47	二五	精華書房	月八	▲國際聯盟調査員一行及外國通信員等に對して説いた時局談。
高須芳次郎	非常時の日本を如何にすべき乎	並四六	製判	318	一五〇	大阪屋號	月七	▲新日本建築の指導原理、國家改造の前に國體意識を把持せよ外十一章。
江平重雄	現代思想界の動向と新興日本主義	並四六	製判	112	四〇	三友堂	月五	▲現代思想界の展望、銳角的思想對立と理論の旋渦、共產主義理論の矛盾外十四章。
長野朗	日本自治史觀	並四六	製判	167	四〇	支那問題研究所	月九	▲日本歴史の節道を明かにせるもので、自然自治時代、自治の立制外五章。
大場喜嘉治	新日本主義	洋四六	布入判	302	一〇〇	二松堂	月二十	▲現時の混亂せる思想を統制する目的を以て論述せるもので、建國の精神外廿一章。
橋孝三郎	日本愛國革新主義	並四六	製判	102	四〇	建設社	月五	▲日本愛國革新の絕對性、日本行結の根本原因、日本救済の大道外一篇にて論述。
森清人	科學的日本主義とは何ぞや	並四六	製判	169	一〇〇	先進社	月三	▲大衆は歴史を創造す、科學的日本主義とは何ぞや、科學的日本主義問答外一章。
松田福松	昭和天業發展原理	並四六	製判	123	二五	原理日本社	月九	▲明治維新の文獻的現代史的再考で、明治維新の發展、昭和天業發展原理其他。

會根朝起	皇道の大筋を讀へす	並四六	製判	81	四〇	三省堂	月六	▲皇道の大筋を掲ぐ外六章。
箕浦春浪	再び起ち全大衆に呼びかく	並四六	製判	47	二五	大國國成聯盟總指合局出版部	月五	▲君民一體同祖の科學的論據に基き天皇中心主義を來じて細胞的に結成す外九篇。
佐藤鐵太郎	國難に叫ぶ	並四六	製判	406	一五〇	民友社	月一十	▲日本國民の踏むべき眞の大道、國難に對する吾人の叫び外十章にて論述。
鈴木亨	日本本危し	上四六	製判	340	一五〇	先進社	月五	▲新しき時代の轉換期に直面せる日本の根本的基道を闡明せるもので、道義の類廢外六章の分類的系統的に國家主義團體を解剖せるもので、國粹的國家主義團體外二部。
石川龍星	日本愛國運動總覽	並四六	製判	175	四〇	東京書房	月八	▲右翼團體の展望で、愛國團體の發生並に沿革外七章。附録四篇。
岡見齊	國家主義運動大觀	布四六	製判	231	一五〇	新光閣	月八	▲わが國體及び愛國心の關係に就ての詳述で日支米の文明差、日本精神の大義外一篇。
柳沼七郎	愛國の中心	洋四六	布入判	303	二二〇	先進社	月六	▲獨裁政治の概念、獨裁政治と民主政治、獨裁政治と帝國主義外二章にて論述。
今中次磨	現代獨裁政治學概論	並四六	製判	240	六〇	大畑書店	月四	▲獨裁政治の事實を取扱つたもので、現代の獨裁政治國家、立憲君主政治の獨裁政治其他。
今中次磨	現代獨裁政治史總説	並四六	製判	341	一三〇	大畑書店	月五	▲イタリヤに於けるファツシズム運動を取扱つたもので、革命者ファツシオ外四章。
今中次磨	ファツシズム運動論	並四六	製判	136	四〇	大畑書店	月四	▲民族的社會主義の概念、民族的社會主義の發生外二章。
今中次磨	民族的社會主義論	並四六	製判	320	一三〇	大畑書店	月七	▲試煉下の伊太利統制經濟の現實に就て論述せる書。ファツシズムの運動外三篇。
土方成美	ファツシズム	並四六	製判	259	一三〇	岩波書店	月七	

獨裁政治・ファツシズム・國家社會主義

政治・社會（獨裁政治・ファッシズム・國家社會主義）

坪内武四郎	向坂逸郎・河野主・田中勝太郎・赤松克麿・矢次一夫・堀村謙・佐々弘雄	ファッシズム研究	並四六製判	365	二、二〇	改造社	八月	▲ファッシズムの全貌に就ての論述で、ファッシズムの擡頭外三章。
磯貝實一	著	ファッシズム研究	並四六製判	212	九〇	耕進社	六月	▲ファッシズムの社會的基礎（向坂逸郎）ファッシズムと現代（佐々弘雄）外五篇。
エール	著	ファッシズム論	並四六製判	153	四〇	希望閣	一月	▲ファッシズムに關するマルクス主義者の最も優ぐれた諸論文を譯出せるもの。
伊達能城	著	ファッシズムの嵐	並四六製判	737	特、二、四〇 一、四〇〇	明治協同會書	六月	▲ファッシズムの獨裁の特質論（パシユカニ）ファッシズムの問題について（エルコリ）
雄子邑不鳴	著	ファッシズムの正體	並四六製判	71	四〇	勞農書房	八月	▲世界のファッシズム運動、革命運動を傳へた書で、苦悶する世界外四篇。附録世界地圖。
長谷川如是閑	著	日本ファッシズムの發展過程	並四六製判	410	一、六〇	大知書店	一月	▲ファッシズムとは何か世界資本主義は今どんな風に ▲日本に於けるファッシズムの發展、最高資本主義とファッシズム外一篇にて論述。一頁賣止
佐々弘雄	著	日本ファッシズムの發展過程	並四六製判	247	八〇	浅野書店	四月	▲ファッシズム論、議會政治の顛落外一九二一—三二年の政治を論じた十六篇。
室伏高信	著	日本ファッシズムを批判する	並四六製判	104	二、三〇	夜明け社	二月	▲世相をさぐる、ナチス運動とは何か、ファッシズムと日本ファッシズム外二章。
座間勝平	著	日本ファッシズム運動の展望	並四六製判	305	一、〇〇	日東書院	一月	▲日本ファッシズム運動の概観、日本ファッシズム運動の歴史外二章。
武井秀吉	著	日本道とファッシズム批判	並四六製判	291	一、〇〇	株式會社書	一月	▲ムツソリニの經歷と民族精神、ファッシズム反對論、人格論、日本道外四章にて論述。
岡田信川	著	日本の文化及教育	並四六製判	338	一、二〇	莊人社	五月	▲ファッシズムの概念、ファッシズム革命への伏線時代、ファッシズム批判外廿章。
ラビンスキー	著	社會ファッシズム論	並四六製判	273	三、三〇	改造社	三月	▲ラビンスキーの「資本主義の危機と社會ファッシズム」第二部の譯。

政治・社會（獨裁政治・ファッシズム・國家社會主義）

ラビンスキー	著	第三期と社會ファッシズム	並四六製判	401	一、二〇	其生閣	五月	▲資本主義第三期に關する問題について、現代の改良主義の根柢の二篇にて譯述。
室伏高信	著	ファッシズムかマルクスか	並四六製判	248	八〇	一元社	二月	▲ファッシズムかマルクスか、マルクス主義の第三期、唯物的社會主義の克服の三篇。
室伏高信	著	マルクスかファッシズムか	並四六製判	115	二、三〇	夜明け社	九月	▲マルクスかファッシズムか、帝國主義の問題國民的な大運動を起せ其他。一頁訂正及版。
室伏高信	著	ムツソリニとムツソリニ運動	並四六製判	201	六〇	平凡社	二月	▲グラフィック的傳記によつてムツソリニの半生涯と事業及ファッシズム伊太利の光景を示した書
津久井龍雄	著	日本の社會主義の提唱	並四六製判	134	四、五〇	先進社	一月	▲社會主義の前提としての日本主義、國家社會主義と滿蒙問題外六章。
加田哲二	著	日本國家社會主義批判	並四六製判	275	一、八〇	春秋社	十一月	▲日本におけるファッシズムの概観、國家社會主義と無産政黨の動向外三章。
林未夫	著	國家社會主義原理	並四六製判	323	一、四〇	章華社	五月	▲國家社會主義の理論的研究で、國家、國家社會主義と辯證法外二章。
林未夫	著	國家社會主義と統制經濟	並四六製判	60	二、三〇	日本國家學社	七月	▲國家主義を原理として、國家主義とは何ぞや外八章。
林未夫	著	國家社會主義の不合理性	並四六製判	29	二、〇〇	自衛社	四月	▲國家社會主義の不合理を説き歐米讀者の正判を記す。
菅英	著	親鸞の教行と國家社會主義	並四六製判	66	二、五〇	前衛閣	九月	▲親鸞の教行と國家社會主義に就て述べたもので、根本佛敎、親佛敎其他。
石川準十郎	著	マルクス社會主義より	並四六製判	90	二、三〇	前衛閣	三月	▲社會主義と國家の問題、正統マルキシストに於けるマルクス國家理論の崩壊外十三章。
山樹儀重	著	國家社會主義	並四六製判	83	四、〇〇	寶文館	十月	▲資本主義と私有財産制度、私有權觀念の曲解外九章。
ヒットラー	著	獨逸國粹社會黨首領ヒットラーの代表的自著「余の闘争」第二卷の全譯。	並四六製判	304	一、〇〇	内外社	二月	

(7-8)

政治・社會(天皇・國家・議會・選舉)

内ヒツト外	木下好太郎	室伏高信	ノイデイカス著 ヒツトラー主義	天皇	里見岸雄	植田清次著 國家論	大西邦敏著 一般國家學	水垣進共譯	議	菅原正志	宮本九平編	二松堂編輯所編	朝日新聞社編	
國民的	ラヒットと獨逸フアツズム運動	ヒツトラフとヒツトラフ運動	ヒツトラー主義	國家	天皇の科學的研究	國家論	第一卷	帝國議會解散史	議會	帝國議會解散史	憲法大臣閣議方針演說集	臨時議會議事録	第三回普通選舉選舉大觀	
世界觀	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	洋函菊	布函菊	上函菊	洋函菊	選舉	布函菊	並四六製判	並四六製判	並四六製判	
444	114	167	182	491	189	240	211	437	學	211	157	427	211	
一、二〇	四、三〇	六、〇〇	六、〇〇	三、八〇	二、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	二、三〇	黨	二、三〇	四、三〇	一、〇〇	一、〇〇	
内外社	内外社	平凡社	改造社	先進社	理想社	敬文堂	朝日新聞社	内外社	黨	國民同志會	育社	二松堂	朝日新聞社	
月八	月五	月一	月六	月七	月二	月四	月三	月四	選舉	月十	月一十	月九	月三	
▲アドルフ・ヒツトラーのフアツズム解説書で、ヒツトラーとヒツトラー主義其他。	▲ヒツトラーの經歷、ヒツトラーの國粹主義とドイツ民族の國粹意識の發揚外六章。	▲獨逸の國民社會主義運動の發展を寫眞を挿入して説けるもの。	▲ドイツに於けるヒツトラー主義に就て述べたもので、發狂したドイツ外廿章。	▲天皇の社會的本質と機能及び國家的機能を社會科學的立場から究明せるもの。	▲國家の本質、社會における國家の位置、國家と國際社會外一章。索引。	▲本書第一卷は第一章「國家學の任務」以下第六章「國家の本質」まで翻譯せるもの。	▲海軍擴張問題の衝突(第一解散)、現行條約履行の衝突(第二解散)外十章。	▲第廿七回帝國議會に於ける施政方針の演說其他收載。歴代國務大臣一覽表附載。	▲幾多の重要問題に就ての第六十三回非常時議會の論戰談話を再録せるもの。	▲第一回普通選舉から第二回普通選舉、第三回普通選舉決算、新代議士録外一篇。	▲政界の淨化方法に就て述べたもので、政界根本的淨化の大綱目外九章。	▲英國の政界の人々の私主人としての人間を描けるもので、マクドナルド外六篇。	▲嵐の前に立つ大政友會、資本家階級と滿洲非常時日本の政治的展望外十六篇。	▲若槻内閣成立より倒壊迄の真相を叙述す。金の再禁止に就て併載。

(7-9)

政治・社會(政界・政黨)

武藤山治	坂千秋	鈴木梅四郎	葛岡常治	佐々弘雄	佐藤正	濱田紫山	森井平三	斯波武	澤本與一	中外商業政治部編	田所輝明
如何に比例代表を實行するか	比例代表の概念とその技術	政界の根本的淨化	英國政界の人々	政局危機の動向	政局動亂の真相	民政黨の御家騒動	井上前蔵相の兇變を語る	犬養内閣は何をするか	政變の表裏を語る	政治家群像	無産黨十字街
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
37	659	170	42	293	86	52	100	61	92	275	458
二、三〇	二、三〇	四、三〇	三、三〇	一、〇〇	四、三〇	二、三〇	四、三〇	二、三〇	四、三〇	一、〇〇	一、二〇
國民同志會	良書普及會	育社	育社	千倉書房	先進社	改進社	六星館	成蹊堂	平凡社	千倉書房	先進社
月十	月五	月八	月三	月一十	月一	月一	月三	月二	月二	月二	月一
▲比例代表制に關する各級の事實の解説で、比例代表の社會的機能外八章。	▲比例代表即行論、比例代表實行方法、實例	▲政界の淨化方法に就て述べたもので、政界根本的淨化の大綱目外九章。	▲英國の政界の人々の私主人としての人間を描けるもので、マクドナルド外六篇。	▲嵐の前に立つ大政友會、資本家階級と滿洲非常時日本の政治的展望外十六篇。	▲若槻内閣成立より倒壊迄の真相を叙述す。金の再禁止に就て併載。	▲若槻内閣瓦解の根由、安達及其一派の野望民政黨の明日外二章。	▲政治家の頓眠、井上前蔵相の政治的色彩、兇變とその責任の所在外二篇。	▲政友、民政の二大政黨の當面の問題に就て述べたもので、民政黨内閣の崩壊其他。	▲濱口前首相の遺難より起つた政局變轉の表裏を叙述せるもの。	▲雲煙標渉たる久原房之助君、宗教的な本來の面目濱口雄幸君外五十八篇。	▲無産黨生活過程のあらゆる部分を描けるもので、斬人曲、斬馬曲外一篇。

岸井壽郎	遠藤友四郎	立作太郎	國際聯盟事務局東京支局編	山川端夫	石丸藤太	國際聯盟協會編	青木三郎	外務省假譯	神田正雄	外務省譯	鈴木文四郎編	浮田和民	岸井壽郎	松原一雄	志賀哲郎	社會調查部	小國雄	上野節男	白柳秀湖	稻原勝治	板垣守正	平野健正	青田均		
國際聯盟脫退論	聯盟脫退緊急論	國際聯盟規約論	國際聯盟日支問題議事録	日支時局と國際聯盟	平和か 國際聯盟はどうか出る	國際聯盟協會報告書	國際聯盟調查委員會報告書	國際聯盟調查委員會報告書	リットン報告書全文解剖	リットン報告書	リットン報告書全文	滿洲國獨立と國際聯盟	聯盟を脱退すべし	滿洲と不戰條約・國際聯盟	大統領選舉と米國の外交	列國は日本をどう見る	列國は日本を何と見る	米國人は日本をどう見るか	日本外交の血路	清算期にある日本の外交	滿洲事變外交史	對支問題總決算	近代世界外交問題解説		
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判		
205	216	500	323	168	272	138	300	552	310	554	267	371	205	238	45	350	52	39	115	407	250	465	220	369	
四言	六〇	四〇〇	一〇〇	六〇	六〇	六〇	二〇〇	一〇〇	八〇	三〇〇	六〇	一〇〇	四〇	一〇〇	二〇	八〇	二〇	四〇	一〇〇	八〇	八〇	八〇	二〇	一〇〇	
淺野書店	錦旗會本部	盟國協會	國際聯盟會	盟國協會	日新社	盟國協會	日本評論社	盟國協會	海外社	盟國協會	朝日新聞社	早稲田大學	共立社	淺野書店	式會社	育社	育社	育社	先進社	千倉書房	大乘社支部	金港堂	内外社	タイムス	
月一十	月二十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月九	月五	月二	月二十	月六	月五	月二	月四	月二十	月五	月二	月一	月六
▲「聯盟を脱退すべし」の大衆版で、對聯盟方針確立の要、脱退と委任統治外廿二章。	▲聯盟脱退緊急論十八ヶ條その他拾壹箇の外に荒木陸相の談演要旨等五箇の附録を收む	▲規全文は勿論聯盟脱退論、附録「英佛和文聯盟規約」C式委任統治條項「索引」	▲國際聯盟理事會並びに總會に於ける日支紛争の議事經過の詳録。	▲「聯盟」の組織、事業等に就て述べたもので、國際聯盟外三章。附滿洲國承認問題に就て。	▲國際聯盟理事會並びに總會に於ける日支紛争の議事經過の詳録。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲リットン報告書を巡る刻下の諸問題に關して之を解説し將來の豫言を試みた書。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲滿洲國獨立と國際聯盟(浮田和民) 特殊權益の擧げ(信天浮平) 外六篇。	▲去る十月二日一般に公表された國際聯盟支那調査委員會報告書の全文及解説。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	

岸井壽郎	遠藤友四郎	立作太郎	國際聯盟事務局東京支局編	山川端夫	石丸藤太	國際聯盟協會編	青木三郎	外務省假譯	神田正雄	外務省譯	鈴木文四郎編	浮田和民	岸井壽郎	松原一雄	志賀哲郎	社會調查部	小國雄	上野節男	白柳秀湖	稻原勝治	板垣守正	平野健正	青田均		
國際聯盟脫退論	聯盟脫退緊急論	國際聯盟規約論	國際聯盟日支問題議事録	日支時局と國際聯盟	平和か 國際聯盟はどうか出る	國際聯盟協會報告書	國際聯盟調查委員會報告書	國際聯盟調查委員會報告書	リットン報告書全文解剖	リットン報告書	リットン報告書全文	滿洲國獨立と國際聯盟	聯盟を脱退すべし	滿洲と不戰條約・國際聯盟	大統領選舉と米國の外交	列國は日本をどう見る	列國は日本を何と見る	米國人は日本をどう見るか	日本外交の血路	清算期にある日本の外交	滿洲事變外交史	對支問題總決算	近代世界外交問題解説		
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	
205	216	500	323	168	272	138	300	552	310	554	267	371	205	238	45	350	52	39	115	407	250	465	220	369	
四言	六〇	四〇〇	一〇〇	六〇	六〇	六〇	二〇〇	一〇〇	八〇	三〇〇	六〇	一〇〇	四〇	一〇〇	二〇	八〇	二〇	四〇	一〇〇	八〇	八〇	八〇	二〇	一〇〇	
淺野書店	錦旗會本部	盟國協會	國際聯盟會	盟國協會	日新社	盟國協會	日本評論社	盟國協會	海外社	盟國協會	朝日新聞社	早稲田大學	共立社	淺野書店	式會社	育社	育社	育社	先進社	千倉書房	大乘社支部	金港堂	内外社	タイムス	
月一十	月二十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月九	月五	月二	月二十	月六	月五	月二	月四	月二十	月五	月二	月一	月六
▲「聯盟を脱退すべし」の大衆版で、對聯盟方針確立の要、脱退と委任統治外廿二章。	▲聯盟脱退緊急論十八ヶ條その他拾壹箇の外に荒木陸相の談演要旨等五箇の附録を收む	▲規全文は勿論聯盟脱退論、附録「英佛和文聯盟規約」C式委任統治條項「索引」	▲國際聯盟理事會並びに總會に於ける日支紛争の議事經過の詳録。	▲「聯盟」の組織、事業等に就て述べたもので、國際聯盟外三章。附滿洲國承認問題に就て。	▲國際聯盟理事會並びに總會に於ける日支紛争の議事經過の詳録。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲リットン報告書を巡る刻下の諸問題に關して之を解説し將來の豫言を試みた書。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲滿洲國獨立と國際聯盟(浮田和民) 特殊權益の擧げ(信天浮平) 外六篇。	▲去る十月二日一般に公表された國際聯盟支那調査委員會報告書の全文及解説。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	▲「英語原文」並に外務省譯の「邦語」緒論より第十卷まで劃期的に一大文字の連鎖である。	▲リットン報告書全文に亘つての解剖批判書で、報告書第一章に對する批判外九章。	▲英文及び邦文假譯の日支紛争に關する國際聯盟調查委員會報告書。	▲リットンの日支紛争調査委員會報告書の國際聯盟事務局公定譯。	▲國際聯盟支那調査委員會報告書に對する我國政府の意見書。	

極東問題・滿洲國事情

日高瓊々彦	極東の史觀と經倫	上四六	製入判	421	二、〇〇〇	先進社	月一	▲滿洲蒙古及シベリヤ等に對する對策を論述せる書で、英吉利の外地政略外十九章。
佐藤慶治郎	極東變局と日本の將來	布四六	製入判	264	一、〇〇〇	神武會本部	月一十	▲滿洲獨立の必至、滿洲獨立と國際情勢、滿洲事變以來の米國の動向外六章。
佐藤清勝	支那事變と東亞の將來	洋四六	布判	387	一、〇〇〇	春秋社	月六	▲事變と支那の排日外交、滿洲事變の經過、國際聯盟に於ける論戰外六章。
白石重	孤立日本の進軍	上四六	製入判	255	一、〇〇〇	先進社	月一	▲極東の平和を攪亂するもの、日本に残された唯一の滿蒙、孤立日本の進軍外十七章。
旭範彦	日本の大陸建國	並四六	製判	115	四、五〇〇	平凡社	月二	▲日本の大陸建國(旭範彦)日本の祖國回復(黒川文淵)外二篇。
中平亮	東洋研究叢書 第一輯	並新四六	製判	8	二、〇〇〇	東洋研究會	月三	▲東洋に醒めよ、東洋經濟の本質、胡椒、歐羅巴、東洋の三篇にて論述。
中平亮	東洋研究叢書 第二輯	並新四六	製判	8	二、〇〇〇	東洋研究會	月三	▲地球の九割は白人の世界、轉換期の東洋、大英帝國の晩鐘、亞細亞民族起つ四章。
高木友三郎	東亞モノロー主義への驀進	並四六	製判	141	二、〇〇〇	千倉書房	月三	▲世界恐慌と東亞モノローの成熟、經濟斷交恐れるに足らず外四章にて論述。
許興三	滿蒙と日本帝國主義	並四六	製判	454	一、五〇〇	白揚社	月二	▲東三省に於ける日本の殖民政策、滿蒙に於ける日本の經濟勢力外八章。
上田恭輔	滿蒙の善後策を日華兩國國民に語る	並四六	製入判	244	一、〇〇〇	大阪屋號	月一	▲滿蒙に於ける日本の權益の由来より説き其の現状及善後策に就て論述せる書。
森本一雄	滿蒙の認識	並四六	製判	306	八、〇〇〇	出立版命部館	月一	▲實際的に滿蒙の重大性及我が權益を説けるもので、滿蒙を視る外六篇。
高木翔之助	滿蒙獨立建國論	並四六	製判	89	八、〇〇〇	交國協民會外	月一	▲對滿洲獨立建國に對する日本國民輿論の具體的目標を示せるもの。

星野豊七	滿洲事變と新滿洲國	洋四六	布入判	207	一、〇〇〇	南光社	月四	▲滿蒙とは、我國と滿蒙、支那式の外交、日本に對する挑戰、滿蒙事變、國際聯盟の活躍等
佐藤清勝	滿洲事變と新國家	洋四六	布判	207	一、〇〇〇	春秋社	月二	▲日露戰爭後の支那と其外交、滿蒙に於ける我權益の躍進外七章にて論述。
信夫淳平	滿蒙特殊權益論	布四六	製入判	541	三、〇〇〇	日本評論社	月四	▲特殊權益の本質、兩眼に映ずる滿蒙特殊權益の擁護外一章にて論述。
伏臥居士	滿蒙の展望	並四六	製判	64	二、〇〇〇	滿洲評論社	月四	▲更生滿蒙の展望、渦巻く滿洲事變の二篇及滿洲に於ける日本青年の活動(小山貞知)
小山貞知編	滿蒙の批判論集	並四六	製判	46	二、〇〇〇	滿洲評論社	月四	▲建國過程の吟味(橋樑)滿洲國成立と日本人(松井中佐)外三篇。附録。
石塚忠	蒙古を新らしく觀る	並四六	製判	143	六、五〇〇	三省堂	月五	▲滿洲國の建設に依り新しく色附けられた蒙古の實體を系統的に記述せる書。
滿鐵社員會編	新滿洲への里標	並四六	製判	266	八、〇〇〇	先進社	月五	▲滿洲から見たる滿洲の檢討で、所謂滿洲問題、特殊權益を語る外二章。
大西齊	新滿洲國	並四六	製判	48	二、五〇〇	育社協會教	月五	▲滿洲國の建設、新國家を荷ふ人々、滿洲國の財政と金融外三章。
新天地編輯部	新興滿洲國の進路	並四六	製判	254	一、〇〇〇	創建社	月十	▲滿洲國の財政國際關係貨幣金融制度關稅政策産業政策日滿經濟の關係等十八篇。
趙欣伯	新國家大滿洲	並四六	製判	219	一、〇〇〇	東京書房	月六	▲名實共に光輝ある獨立國家として生成せる滿洲國に就て述べたもの。
佐々木一雄	將來之滿洲國	並四六	製判	243	六、〇〇〇	兵林館	月六	▲滿洲國百般の事態を闡明しその將來に就て述べたもので、大滿洲國の將來外十八篇。
小室敬二郎	民族問題より觀たる滿洲國の將來	並四六	製判	42	二、〇〇〇	自衛社	月八	▲滿蒙民族と支那人と異なる所以を述べ支那人の特性を詳記し之が對策を記したるもの。
内田榮明	明けゆく滿洲へ!!	洋四六	布入判	256	一、〇〇〇	新日本書房	月六	▲新國家滿洲國の組織、政策、資源開發等に就て論述せる書。

三浦逸郎	白髮隆孫	近藤義晴	片山義勝	藤曲政吉	新光社編輯部編	滿鐵調査課	末木儀太郎	今村俊三	吉本浩三	津崎尙武	筑紫熊七		
滿蒙新國家事情	黎明の北滿	新國家の寶庫北滿	滿洲	滿洲建國と五省の富源	滿洲國の解剖	東北四省行政機構	滿洲日報論	滿鐵總裁論	熙洽論	張學良の横顔	どうなるか滿洲國	滿蒙經營の抱負を語る	
並四六 製判 238	並四六 製判 176	並四六 製判 44	並四六 製判 65	並四六 製判 602	並四六 製判 250	並四六 製判 136	並四六 製判 64	並四六 製判 64	並四六 製判 64	並四六 製判 434	並四六 製判 73	並四六 製判 163	
一、三〇	一、三〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	
大同館	鮮滿協會	通露信社	四條書房	滿洲通信社	新光社	滿鐵	日支問題會	日支問題會	日支問題會	赤燧閣	日本植民社	興文社	
月三	月八	月三	月五	月八	月五	月二	月一十	月一十	月一十	月三	月九	月九	
▲東洋の新國家滿洲に就て述べたもので、滿洲事變、新國家と日本人の仕事外二篇、滿洲	▲北滿に就ての研究書で、地理、歴史、交通	▲北滿の資源、工業、文化事業外二章	▲奉天省の卷外一章にて説述	▲滿洲のうまい方面、滿洲のまづい方面、支那人をお安く見るなどの三要點を論述	▲北滿洲の地理及び一般經濟的状況價值等を常識的に記述せる書	▲滿洲の成立は既定の事實、本書は此新天地の一切を解剖開明し莫大な寫眞をも添へる	▲危機を孕む事變前の滿洲、滿洲國成立す、奉天省の卷外一章にて説述	▲滿洲のうまい方面、滿洲のまづい方面、支那人をお安く見るなどの三要點を論述	▲北滿洲の地理及び一般經濟的状況價值等を常識的に記述せる書	▲滿洲の成立は既定の事實、本書は此新天地の一切を解剖開明し莫大な寫眞をも添へる	▲滿洲の諸種相を物語つたもので、學良の横顔、皇軍勇戰譚其他	▲滿洲の諸種相を物語つたもので、學良の横顔、皇軍勇戰譚其他	▲滿蒙根本對策を如何にすべきか、國際聯盟に據して帝國の態度を表明す外三篇

政治・社會(極東問題・滿洲國事情)

三島泰雄	朝日新聞社編	中日文化協會編	東亞同文部編	改造社編	中村馨	東亞學藝協會編	日本新論協會編	朝日新聞社編	高木南峰	米野豊實	實業之日本社編
眼のあたりに見た滿洲事變	滿洲・上海事變全記	滿蒙年鑑	新滿洲國要覽	滿蒙事情總覽	滿洲問題と婦人の覺悟	日本の教育と滿蒙	我が日本の教育と滿蒙	滿洲國の真相を語る	滿洲建國とその後に來たるもの	新滿洲國讀本	新滿洲國讀本
並四六 製判 143	並四六 製判 418	並四六 製判 536	並四六 製判 621	並四六 製判 702	並四六 製判 42	並四六 製判 266	並四六 製判 266	並四六 製判 45	並四六 製判 170	並四六 製判 342	並四六 製判 378
一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
時事新報社	朝日新聞社	中日協文會	斯文書院	改造社	育社協會	厚生會	厚生會	朝日新聞社	滿洲改造社	東京支那社	日實業社
月二	月四	月一	月九	月七	月一	月一十	月二	月一十	月七	月六	月五
▲滿洲事變の大筋を記述したもので、事變の	▲滿洲・上海事變の全面を描けるもので、滿洲事變、上海事變、兩事變と外交外二篇	▲滿蒙概観、地理、政治、經濟、交通、社會教育宗教外二篇、附滿洲事變グラフ其他	▲滿蒙各般の事項に亘り平易に解説を施せるもので、滿蒙の概観、滿洲と日本其他	▲滿蒙事情に通曉せる學者實際家の筆になる總覽で、人文(上田恭輔)外十篇	▲滿洲問題と婦人の覺悟、外十篇	▲日本の教育と滿蒙、外十五篇	▲我が日本の教育と滿蒙、外十五篇	▲滿洲國の真相を語る、外十五篇	▲滿洲建國とその後に來たるもの、外十五篇	▲新滿洲國の全般に亘り解説せるもので、滿洲國概観滿蒙の我が權益外十六篇	▲新滿洲國の全般に亘り解説せるもので、滿洲國概観滿蒙の我が權益外十六篇

政治・社會(滿洲事變・上海事變)

新光社編輯部編	滿洲事變の經過	並四六倍判	224	二、三〇	新光社	月二	▲事變の原因とその經過は種々な方面から公正な見解を以つて綴られたもの。執筆十一氏。▲上海事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
新光社編輯部編	上海事變の經過	並四六倍判	250	二、五〇	新光社	月四	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
滿鐵編輯部編	滿洲事變寫眞帖	上四六倍判	44	一、〇〇	滿鐵	月五	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
大日本雄辯會編輯部編	新滿洲國寫眞大觀	洋四六倍判	241	二、三〇	講談社	月四	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
鐵道技術社編	死の裝甲列車	並四六倍判	122	二、五〇	鐵道技術社	月二	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
岩崎榮	戦ひのあと	並四六倍判	100	四、三〇	東京日日新聞社	月五	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
三島章道	滿洲に正しき日本を觀る	上四六倍判	251	一、〇〇	東學社	月五	▲滿洲事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
村松梢風	上海事變を語る	並四六倍判	245	一、〇〇	平凡社	月三	▲上海事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
中山勤之助	上海事變の裏表	並四六倍判	128	六、三〇	三友堂	月三	▲上海事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。
前芝確三	日本と支那	上四六倍判	284	一、五〇	一元社	月九	▲上海事變の眞の意義は本書によつて始めて闡明せられるであらう。編者十三氏の執筆。

支那事情

▲主として民國第一革命以來二十箇年間の政治外交財政經濟の實務と其推移の實情を記述した。一九三〇年より三一年迄の支那政治經濟事情の推移を記述するもの。

▲列國と支那、ウビエツト同盟の發揚、支那の列國と支那の抗争外三章。

▲支那の將來に對する正しい見方を述べたもので、支那の將來、支那の眞相其他。

▲支那に於ける排日の實情を記述せる書で、打倒日本運動史、宣傳は革命精神其他。

▲支那の國民は何處から出て来たか、支那に一番いゝのは放任政治外七章。

▲民族性、支那思想界の檢討、天命觀及び其他、支那社會階級の心理外四章。

▲支那國情の根本を分り易く説けるもので、支那の掠奪、支那人の平和心其他。

▲中華民族大觀(大西齋)黨治と絶えざる分裂(松井等)外廿二篇。

▲經濟上の觀點より支那の没落に就て述べたもので、支那とヨーロッパ外七章。

▲反日運動の意義排日貨運動概況排日對策我損害反日手段の種々相反日運動將來と對策の均分、宗法と封建政權の保證外數篇。

▲家庭に於ける妻妾、職業婦人、上海女學生の一斷面、摩登小姐、日まぐるしい流行等。

▲新滿洲國成立後の新人物を網羅し現代支那の各部面に亘る人物の號、閱歷を記述。

宮藤賢之介	現代支那經濟發展運動研究	洋四六倍判	686	三、〇〇	平凡社	月二	▲國民革命と社會發展の關係、前國家國民政府の在りし勞働組合の成立まで、十餘年國民政府の列國と支那、ウビエツト同盟の發揚、支那の列國と支那の抗争外三章。
秋月民一	支那は何處へ?	並四六倍判	309	一、〇〇	同人社	月一	▲支那の將來に對する正しい見方を述べたもので、支那の將來、支那の眞相其他。
大谷光瑞	支那の將來	並四六倍判	269	一、〇〇	大乗社支店	月四	▲支那に於ける排日の實情を記述せる書で、打倒日本運動史、宣傳は革命精神其他。
秋山豊三郎	支那の對日血戰	並四六倍判	248	一、五〇	秋山家	月三	▲支那の國民は何處から出て来たか、支那に一番いゝのは放任政治外七章。
大谷光瑞	支那の國民性	並四六倍判	126	六、三〇	東京支店	月二	▲民族性、支那思想界の檢討、天命觀及び其他、支那社會階級の心理外四章。
原惣兵衛	支那心理の解剖	並四六倍判	125	四、三〇	東京書房	月十	▲支那國情の根本を分り易く説けるもので、支那の掠奪、支那人の平和心其他。
多賀宗之	赤裸の支那	並四六倍判	405	一、〇〇	新光社	月五	▲中華民族大觀(大西齋)黨治と絶えざる分裂(松井等)外廿二篇。
世界現狀大觀編輯部編	支那及滿蒙	並四六倍判	473	二、五〇	新潮社	月二	▲經濟上の觀點より支那の没落に就て述べたもので、支那とヨーロッパ外七章。
中平亮	支那はどうなる	並四六倍判	149	四、三〇	東洋研究會	月六	▲反日運動の意義排日貨運動概況排日對策我損害反日手段の種々相反日運動將來と對策の均分、宗法と封建政權の保證外數篇。
波多野乾一	支那の排日運動	並四六倍判	43	二、三〇	東亞研究會	月八	▲家庭に於ける妻妾、職業婦人、上海女學生の一斷面、摩登小姐、日まぐるしい流行等。
早稻田大學教授	支那の社會組織と家族制度	並四六倍判	49	二、三〇	東亞研究會	月一十	▲新滿洲國成立後の新人物を網羅し現代支那の各部面に亘る人物の號、閱歷を記述。
澤村幸夫	支那現代婦人生活	並四六倍判	73	二、五〇	東亞研究會	月十	
外務省編	現代支那	並四六倍判	600	四、三〇	東亞同文會	月二十	

露西亞事情

政治・社會(露西亞事情・植民・移民)

ブレールスフオール著 辰巳 經世譯 ソヴエートロシアの政治機構	ソヴエート同盟 レノン著 サヴェエト同盟	ソヴエート法並國家の 大竹 博吉譯 ソヴエート法並國家の 哲學的基礎	赤露今日の展望 犯罪科學編輯部編 赤露今日の展望	赤い機密室 ラポルト著 赤い機密室	東京よりロシアを 近藤 義晴 東京よりロシアを 觀る	私の見たソヴエート・ロシア 田中 九祐厚 私の見たソヴエート・ロシア	東洋とソヴエート聯邦 滿鐵調査課編 東洋とソヴエート聯邦	サウエート現勢資料 露西亞通信社編 サウエート現勢資料	日露貿易通信社編 日露貿易通信社編
並四六 製判 263	並四六 製判 185	並四六 製判 225	並四六 製判 335	並四六 製判 591	並四六 製判 212	並四六 製判 75	並四六 製判 106	並四六 製判 1054	並四六 製判 751
一〇〇 六〇 共生開	六〇 六〇 叢文開	一五〇 八〇 希望開	一四〇 八〇 武俠社	一七〇 八〇 先進社	七〇 六〇 通露信西社	三〇 三〇 通日露貿易社	二〇〇 一〇〇 每日新聞社	三〇〇 三〇〇 通露信西社	三〇〇 三〇〇 日露貿易社
月四	月二十	月九	月十	月二	月六	月八	月二	月四	月六
▲一政治組織としてソヴエートロシアの活動 状態の報告で、ソヴエート組織外九章。 ▲サヴェエト同盟に於ける社會主義建設の世 界史的意義社會主義、工業の發展外二章。 ▲サヴェエトロシアの檢察總長クレイレンコ の司法及國家に關する演説を翻譯せるもの。 ▲「犯罪科學」増刊の改訂版で、五ヶ年計畫(岡 村寧次)其他廿一篇。 ▲秘密警察の國ロシア、スパイとテロル外十 項にてロシアの赤色スパイに就て記述す。 ▲ソヴエートロシアの眞實に即した公正な紹 介批評で、社會主義建設の成績外十章。 ▲ソヴエート國家の概念。ソヴエートロシア は何處へ行く。 ▲本書は、エム・ゲ・ガルコウイチ著「東 洋とソヴエート聯邦」を翻譯せるもの。 ▲サヴェエト・ロシアの現勢及びその影響を 最も公正適確に紹介す。 ▲日露關係の部、ソヴエート聯邦の部の二部 にて、外交關係、滿洲關係其他を收録。									

植民・移民

▲前資本主義時代に於けるコロロツバ植民の
諸相、帝國主義列強と植民地外七章。

軍縮・國防・戰爭

政治・社會(軍縮・國防・戰爭)

東郷 實 植民問題を語る	古田 純三 移住と宗教	滿鐵農務課編 滿洲の農業移民	三枝 茂智 國際軍備縮少問題	安富 正造 近世軍縮史觀	松下 芳男 軍縮問題と列強の爭覇戰	伊藤 正徳 日米海軍と軍縮	松下 芳男 社會教育パレット(は)	大村 有隣 解る軍縮と國防	志岐 守治 國防への理解	秦 眞次 帝國の國防	遠藤 友四郎 皇國軍人に懇ふ
並四六 製判 197	並四六 製判 38	並四六 製判 1059	並四六 製判 270	並四六 製判 256	並四六 製判 303	並四六 製判 102	並四六 製判 50	並四六 製判 102	並四六 製判 65	並四六 製判 187	並四六 製判 248
三〇 三〇 玉川學園	一三〇 六〇 日本力行會	四〇 四〇 滿鐵	二〇〇 二〇〇 新光社	二二〇 二二〇 帝國國際會聯	一〇〇 一〇〇 帝國國防會	一〇〇 一〇〇 高瀬書房	二二〇 二二〇 育社協會教	四〇 四〇 兵林館	二〇 二〇 白衛社	一〇〇 一〇〇 先進社	六〇 六〇 錦旗會本部
月八	月八	月四	月八	月一	月一	月九	月一	月六	月四	月三	月二十
▲植民と移民、植民の始まりは農業植民、 洲と日本外十九章。 ▲移民運動の理想、移住地に於ける家庭問題 の特異性外十九章。 ▲一、緒言、二、移民是非論、移民可能論、 三、移民計畫案、四、結論。	▲海軍平和會議以前に於ける軍縮運動、軍備 縮少論の基礎外十八章にて論述。 ▲軍縮史論及び背後の政治外交を論じ軍備縮 争及軍縮協定決裂の場合の禍害を明かにす。 ▲ベルサイユ會議に何を議したか、國際聯盟 は如何なる軍縮事業をしたか外八章。 ▲英米軍縮提案の根拠に對する検討で、軍縮 檢討案、補助研究篇の二篇。 ▲軍縮準備委員會、軍縮條約案の大要、軍縮 會議と日本外六章。 ▲緒言、軍備縮少會議の由來、軍縮條約案に 就て、軍縮に對する列強の態度外三章。 ▲對外及内政上より國防問題を論究したるも のもので、陸軍の使命、國家總動員外十章。 ▲國家社會主義の排撃、軍人政治不干輿論の 駁撃、其他全廿八篇の批評及論策より成る。										

香月 秀雄	平田 晋作	平田 晋作	海軍研究社編	松下 芳男	水島 莊介	稲穂 葉一	宇山 熊太郎	松下 芳男	伊達 龍城	山田 俊一郎	永田 鐵山	荒畑 寒村
兵隊と銃とる子銃とる子	陸軍讀本	海軍讀本	わが海軍	遭難軍艦の話	日本の防空はどうする	東京の防空	空中襲撃に對する國民の準備	新兵器早わかり	危し我に勝算ありや	軍事科學概論	新軍事講本	戦争論
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
269	363	355	208	34	236	100	220	120	788	247	151	252
六〇	一〇〇	一〇〇	五〇〇	二〇〇	八〇	四〇	六〇	四〇	一〇〇	一〇〇	六〇	一〇〇
兵用圖書株式會社	日本評論社	日本評論社	海軍研究社	社會協會	帝國國防協會出版部	帝國國防協會	水明書院	帝國國防協會出版部	明治圖書	南北書院	青年教育會	淺野書店
月一十	月一	月一	月一十	月三	月七	月五	月三	月三	月十	月二	月三	月一十
▲農家經營の反面には軍事的節約と統制が必要であり、居常農耕裡に培養せられ、ありとの論	▲大日本帝國軍隊論、極東を守る帝國陸軍、陸軍各兵科の現狀外六篇。	▲海軍軍事知識の一般に就て述べたもので、大日本帝國海軍論、現代の軍艦外六篇。	▲我が海軍全般に亘つての紹介で、世界に輝たる國產海軍、軍艦生活の一日外卅篇。	▲軍艦の遭難のうち主として沈没したるものを記述せるもので、敵傍の行衛不明外十六篇	▲防空なければ國防なし、防空施設及其方法	▲東京の防空に就て、東京防護團の編成に就て、各都市防空法外一篇にて論述。	▲防空一般の要領防空監視燈火管制消防防毒避難と救護警備と交通整理等十二章に分つ。	▲陸軍の新兵器、海軍の新兵器、空軍の新兵器の三篇にて紹介す。	▲輝く我が皇軍、我に勝算ありや外五篇にて我國防を説述。別冊附録亦録を發く。	▲將來の戦争に於ける兵器、空中戦、戦争の産樂的準備外五篇。一發禁止。	▲軍事教練の目的精神に就て述べたもので、何の爲めの教練か外十九篇。	▲帝國主義戦争の本質と對立外七篇。一發禁止。

荒木 武正	クラウゼヴィッツ著	馬込 健之助	土井 三郎	室伏 高信	東福 清次郎	小澤 覺輔	新光社編輯部編	西 薙 胤次	西 薙 胤次	清 澤 洸	尾崎 哈主	有 終 會編	中 村 秋
戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論	戦争論
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
124	630	175	109	88	231	257	276	386	374	562	384	290	
四〇	三〇	四〇	二〇	四〇	二〇	二〇	二〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
鐵塔書院	南北書院	勞農書房	夜明け社	先進社	新光社	新光社	新光社	精文館	精文館	千倉書房	千倉書房	創造社	新生堂
月二	月三	月二十	月十	月二	月四	月四	月一十	月三	月十	月七	月一十	月一十	月一十
▲クラウゼヴィッツの「戦争論」を解説したもので、十二章より成る。	▲下巻は攻撃と防禦、誘撃外五十八章から成る防禦、攻撃作戦論編。	▲一、戦争の本質 二、戦争の理論 三、戦略論。	▲時局を前にして、戦争は起るか、日米戦はるか、リットン報告書外五編。	▲結論、理由(何故列國恐るゝに足らざるか外二章) 處置等三篇にて説述。	▲米國民に空中軍備の切要なるを説いた書の譯で、日本は太平洋に優越せり以下十四章。	▲日米關係の逼迫、日米戦の豫想、總ては本篇に求められる。寫眞豊富、十一氏の熱筆。	▲日米對立の眞相、日米對立の根本義、日本對立の歸趨外一章にて論述。	▲滿蒙上海事件を契機として最後の重大問題を惹起せんとする日米の危機を論述。	▲米國が東洋問題に就て日本と對戦する意志なき事を各方面より説明せるもの。	▲米國海軍戰略の構成を述べたもので、史例と評論、海岸要塞と海軍戰略外十三篇。	▲史論、戦備論、作戦論を三大別して米國海軍の眞相を説述。	▲太平洋方面に於ける米國の戦備に就て述べた書で、危機を孕む太平洋の風雲外八篇。	

池崎忠孝	赤露の見たる太平洋戦争覇戦	洋菊	布判	448	三三〇	先進社	二月二	▲前者「米國怖るゝに足らず」「日本潜水艦」 「六割海軍戦ひ得るか」を改訂増補せる合冊
チエレンチエフ著	赤露の見たる太平洋戦争覇戦	洋菊	布判	172	七〇	改造社	二月二十	▲東洋問題の權威チエレンチエフの太平洋問題に關する分析論述で、日本の對立外九章
中島武	日本太平洋大海戦	洋菊	布判	401	二二〇	日東書院	七月七	▲十五項「上海陸戦隊美談附載」別冊附録軍事教育社編「齋藤實・犬養毅」
野崎圭介	日米戦布哇と比律賓	洋菊	布判	152	八〇	二松堂	七月二十	▲布哇及び比律賓の地勢氣候産物沿革等に就ての研究で、ハワイ事情其他
池崎忠孝	宿命の日米戦争	洋菊	布判	117	六〇	先進社	七月	▲滿洲事變勃發後に於ける日米關係の將來を描出せる書で、アメリカの弱點外十四章
松尾轟明	聯盟の危機と日米戦争	洋菊	布判	493	一八〇	忠誠堂	七月二十	▲日米の危機、日米抗争の史實、日米戦争の不可避性、日本とアメリカの軍備外十七章
エリオット著	米國武官日・米英大戦争	洋菊	布判	454	一九〇	文新社	七月九	▲米國軍少佐エリオット氏の「日米未來戦」の譯述で、最初の一撃外十九章
廣瀬彦太郎	日米戦争の勝敗	洋菊	布判	155	四〇	一元社	七月一十	▲滿洲問題に對する米國の主張、日米開戦の可能性、日米戦争の勝敗外九章
水野廣徳	打開か興亡の此一戦	洋菊	布判	400	一五〇	東海書院	七月一十	▲國難的時局に就て述べたもので、日米果して戦ふか以下卅三篇
宮山直孝	日本の危機と孤立日本の危機	洋菊	布判	437	二二〇	刊行會書	七月九	▲日本の現状を解剖して世界との關係狀を説いた書で、孤立日本外九篇二十章
後藤誠夫	眼前に迫る英米赤露の襲來	洋菊	布判	570	一六〇	大京社	七月八	▲滿洲上海事變の眞因經過を探り太平洋を舞臺とせる世界の第二大戦の本論迄を解剖す
石丸太	昭和十年日本對世界戦争	洋菊	布判	318	一八〇	日月社	七月六	▲事實に立脚せる日本對世界戦争の實際論で日本對世界戦争の切迫外十二章
小羊	覺悟せよ！次の大戦	洋菊	布判	480	二二〇	宗華社	七月五	▲滿洲上海事變の眞因を究めその後に來る危機に就て論述せるもの

菊地門也編	支那人の見たる皇軍の出動	洋菊	布判	83	二二	精華書房	七月	▲支那新聞より蒐録して編めるもので、天眼通の記者、中國民族三英雄其他
鈴木氏亨	火線を越して	洋菊	布判	343	一〇〇	先進社	七月六	▲滿洲上海事變の軍事美談集で、三十三血染の弔魂旗、あゝ肉弾三勇士外八篇
伊地知進	火線に散る魂	洋菊	布判	212	八〇	欽英閣	七月一十	▲上海事變に出動した若き士官の實戰記録で、猛炎狂ふ吳淞、上陸第一歩外十五章
浦路耕之助	上海陸戦隊上海戦闘記	洋菊	布判	409	一八〇	杉本書店	七月一十	▲上海事變に於ける海軍陸戦隊の武勳を述べたもので、一月二十九日の戦闘外十五章
春日靖軒	正義人上海戦闘史	洋菊	布判	666	一四〇	研文書院	七月八	▲國際都市上海の概念以下十四篇
有馬成甫	海軍陸戦隊上海戦闘記	洋菊	布判	609	一四〇	海軍研究社	七月九	▲上海事變の發端、光輝ある海軍部隊の戦績第一遺外艦隊と其の特別部隊外七章
柴田善治郎	上海事變と我海軍	洋菊	布判	49	二二	育社協會教	七月六	▲上海事變の發端、經過並に國際聯盟との關係、帝國海軍の奮戦等を述べた書
高橋邦夫	帝國海軍と上海事變	洋菊	布判	134	四三	日東評論社	七月四	▲上海事變の發端、經過並に國際聯盟との關係、帝國海軍の奮戦等を述べた書
佐々木一雄	裏から脅威するソヴェートロシヤ	洋菊	布判	330	一〇〇	新日本書房	七月五	▲ロシアの軍備並に戦時政策について述べた書で、潜行ロシアの現状外廿二篇
川田治二	背面のこの赤露	洋菊	布判	652	一四〇	軍事教育社	七月十	▲赤露の眞相に就て述べたもので、赤露の誕生外十四篇、附冊國際聯盟を暴露する！
中山四郎	迫り行く日露再戦	洋菊	布判	265	六五	新光社	七月十	▲永劫に避け難き日露戦争、赤軍の現有兵力と日本軍兵力、外廿八章
加藤藤明	日と米露何れが勝つか？	洋菊	布判	558	一四〇	練東出版社	七月一十	▲謎の米支赤露の正體を暴露せるもので、日本は第四國難に直面す外八篇
福永恭助	日と米露何れが勝つか？	洋菊	布判	401	一〇〇	一元社	七月一十	▲第二次世界大戦外戦物語十三篇

關東軍參謀部編	滿洲事變實誌	洋四六 布入判 409	一、八〇 二、二〇	日東書院	月二十	▲關東軍參謀部の編纂に成る「滿洲事變關係雜錄」一「滿洲事變美談」外六冊の合本。雜錄「滿洲事變美談」外六冊の合本。▲滿洲の戦雲を証しめぐつた著者の從軍記録で、死を決して第一線へ外七十八篇。▲日支事變に於ける女性美談集で、天晴れ中尉の妻其他。
永田美那子	男裝從軍記	上四六 製入判 435	一、二〇 二、二〇	日本評論社	月七	
倉田重人	美談統後の女性	洋四六 布入判 686	一、八〇 二、二〇	軍事教育社	月七	

(B) 社

會

社會學一般

東京帝國大學附設 松本潤一郎編	社會學	洋四六 布入判 250	一、〇〇 二、五〇	淺野書店	月三	▲我國社會の學一般的發達の跡を叙述せるもので、日本社會學の沿革と展望外五章。
古田清壽 人編	社會學	並四六 製入判 188	一、〇〇 二、〇〇	森山書店	月七	▲家族の集團的特質(戸田貞三)自殺に關する社會學說(田邊壽利)外十二篇。
古田清壽 人編	社會學	並四六 製入判 179	一、〇〇 二、〇〇	森山書店	月十	▲現代階級に關して(松本潤一郎)累犯者の夫婦關係(加藤虎太)外七篇。
新明正道	社會學序	布四六 製入判 332	一、四〇 二、八〇	大畑書店	月一十	▲社會學に於ける基本的諸問題を考察せる入門書で、社會學の構造外三章。
堀眞琴	社會學の根本問題	並四六 製入判 154	一、六〇 二、六〇	内外社	月八	▲社會學の領域、社會的水準と個人的水準外二章。附録ジムメルの生涯と其社會學說。
吉田秀人	社會學の根本問題	布四六 製入判 207	一、六〇 二、六〇	大村書店	月十	▲社會學の領域、社會的水準と個人的水準。社交外一章にて譯述。一書及版。
社會學研究會編	社會學の根本問題	布四六 製入判 387	一、六〇 二、六〇	同文館	月六	▲文化社會學(戸坂潤)文化哲學(岩崎勉)文化社會學と歴史性(樺俣雄)外七篇(岩崎勉)。

社會史・農村社會史

社會學研究會編	知識社會學の諸相	布四六 製入判 301	一、五〇 二、五〇	同文館	月一	▲自然科學とイデオロギイ(戸坂潤)イデオロギイの認識社會學(佐藤慶二)外五篇。
新明正道	知識社會學の諸相	布四六 製入判 512	一、五〇 二、五〇	寶文館	月九	▲知識社會學の歴史性、實踐主義的知識社會學、現象學的社會學外一章。
小松堅太郎	知識社會學批判	布四六 製入判 212	一、六〇 二、六〇	大畑書店	月十	▲知識社會學の方法論的批判、社會科學的認識の非階級的性外四篇の論文集。
室伏高信	中間階級の社會學	布四六 製入判 303	一、〇〇 二、〇〇	日本評論社	月六	▲中間階級の組織及びイデオロギイに就ての論述で、中間階級は轉落するか外十三篇。
小松堅太郎	社會構造の理論	洋四六 布入判 501	一、二〇 二、二〇	日本評論社	月三	▲社會構造に就ての理論的研究で、社會の純型的考察、社會の構造的考察外二章。
井伊玄太郎	社會分業論	並四六 製入判 296	一、二〇 二、二〇	出版部	月六	▲前篇は分業に因する連帶又は有機的連帶外六章より成る「分業の機能」を譯述。
井伊玄太郎	社會分業論	並四六 製入判 210	一、四〇 二、四〇	出版部	月九	▲原因と條件(分業の進歩と幸福の増加外四章)異常形態、結論。
田邊壽利	デュルケム社會的分業論	並四六 製入判 181	一、〇〇 二、〇〇	森山書店	月九	▲デュルケムの犯罪社會學を知るための有力なる文献たる分業論の譯。
ブルジョア	社會連帶責任主義	並四六 製入判 106	一、四〇 二、四〇	日本評論社	月六	▲ジツト連帶責任主義、ブルジョア連帶責任の觀念とその社會的結果外一章。
大上吉次郎	社會學	上四六 製入判 171	一、〇〇 二、〇〇	淺野書店	月二十	▲金の魅惑、財産進化論、經濟救濟學、貧の科學と富の科學、紙と信用外七章にて論述。
山本三吾	古代社會	洋四六 布入判 886	一、八〇 二、八〇	共生閣	月十	▲發明及び發達を通じての知の發達、政府觀念の發達の二編にて譯述。
アルベール・トマ	勞働史講話	並四六 製入判 542	一、五〇 二、五〇	協同會	月二十	▲豚河ユイメ、ソクラテスの教訓、シナドレの陰謀、老ローマ人外卅四章。

パウル・バルト著 山田一郎譯	經濟的史觀	並四六 製判	274	八	日本評論社	月六	▲經濟的史觀の一般的諸原因、歴史をば分業の發展として見る外六章。
マラバル著 木下半治譯	近世クイデーター史論	並四六 製判	303	一〇〇	改造社	月七	▲失敗せるクイ・データの歴史、カッパの叛亂、失敗せる獨裁外六章。一訂正版。
小野武夫	維新農村社會史論	洋函菊 布入判	485	三〇〇	刀江書院	月二	▲明治維新の政治的急變と農村經濟の漸變、維新當時の思想と智識外六篇。
細川龜市	農奴社會史考	洋函菊 布入判	314	二〇〇	白東社	月六	▲近世農奴史の諸研究、農奴解放の過程、農奴解放と農業革命外四篇にて論述。
社會思想・社會評論・文明批評							
内田繁隆	現代思想の綜合觀	洋函四六 布入判	250	一〇〇	社會書房	月二	▲現代思想と近代的社會觀、資本制社會の發展、現代思想の動向外四章。
井藤半彌	社會思想と近代生活	並四六 製判	225	一〇〇	同文館	月二	▲英米理想主義社會改造論の二三の型、社會映畫の表現性と動因性外十九章。
下出準吉	明治社會思想研究	洋函菊 布入判	410	三〇〇	淺野書店	月八	▲故下出氏の社會學及明治文化の研究を輯録せる書で、代議政體の研究外廿二篇。
堀川三思郎	自然人の見たる人造新人	上四六 製判	258	一〇〇	東山堂	月三	▲現代思想の二大潮流、日本の現代的諸相に加へる自然人の批評外六篇。
士田香村	思想・人物・時代	上四六 製判	437	二〇〇	千倉書房	月二十	▲現代の思想と人物の時代の特色に就て述べたもので、對話篇、時代篇、思想篇外二篇。
大谷光瑞	無題錄	洋函四六 布入判	370	三〇〇	東京支社	月一十	▲因果篇、一切皆空篇、人生諸相篇、青年思想篇、外交篇、勞資篇外十六篇の感想集。
菅原龜五郎	理想郷建設の五型	洋函四六 布入判	357	二〇〇	南光社	月五	▲理想郷建設の五型式、將來の理想郷建設方案外一章にて論述。
堀川文會編	資本主義の一般的危機	並四六 製判	292	六	木犀社	月二十	▲材料をドイツにとり危機に立てる資本主義の面貌を描ける五篇の論文を収む。

木村毅	社會科學概論	布函四六 裝入判	202	一〇〇	文化書房	月八	▲社會科學の意義、觀念論と唯物論、唯物論證法、唯物史觀。
大森義太郎	史的唯物論	洋函菊 布入判	275	二〇〇	共立社	月七	▲史的唯物論を体系的に述べたもので、辯證法的唯物論、史的唯物論の二章。
木村賢吉	史的唯物論	並四六 製判	650	一〇〇	共生閣	月四	▲唯物論と觀念論(ウリリフ)史的唯物論の對象(スバコイマイ)外九章論述。
小島一	史的唯物論	並四六 製判	156	六〇	木犀社	月五	▲史的唯物論に關するレーニンの著作を譯出せる書で、史的唯物論の擁護のために其他。
全聯共産黨 中央委員會編 入江武一譯	史的唯物論大系	並四六 製判	189	四〇	白揚社	月三	▲觀念論と唯物論、唯物論證法の根本法則、辯證法的唯物論と史的唯物論の三篇。
ブレハーフ著 内唯彦譯	史的唯物論	並四六 製判	357	六〇	鐵塔書院	月五	▲十八世紀のフランス唯物論、王政復古時代のフランスの歴史家外四章にて論述。
福澤桃介	西洋文明の没落	並四六 製判	92	二〇	ダイヤモンド社	月二	▲西洋文明の没落と東洋文明の勃興に就て論述せるもので、歐羅巴文明は優秀なりや其他。
室伏高信	第二文明の没落	布函四六 製判	444	一〇〇	一元社	月四	▲機械文明を中心としての論述で、アメリカ主義とマルクス主義外十二章。
赤神良讀	文明に於ける野蠻	上四六 製判	297	一〇〇	三也書社	月十	▲現代文明の假面を曝露せる論集で、文明に於ける野蠻、戀愛の社會性外二十一篇。
カンバネラ著 鳥谷俊三譯	太陽の都	洋函四六 布入判	107	七〇	玉川學園出版部	月六	▲カンバネラの「太陽の都」獨逸語からの重譯で、カンバネラの生活及思想外一篇。
エトリコ・マラテスタ	サンヂカリズム論	並四六 製判	32	二五	溪文社	月十	▲マラテスタがアムステルダムで「X×X主義者大會」で行つた講演の概要を収む。
堀口五郎	修正下のデモクラシー	並四六 製判	88	二〇〇	雄文閣	月二十	▲街頭の超人エルズ(日高只一)修正下のデモクラシー(堀口五郎譯)外一篇。

政治・社会（社会主義・マルクス主義）

カウツキ	佐多忠隆	廣島定吉	加藤正	加藤二	同盟研究	小島京一	廣井武定	廣井武定	直井武定	日本プロレタリア	作家同	猪又文雄
唯史観	唯史観	唯史観	唯史観	唯史観	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法	唯物辯證法
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
644	590	276	238	142	660	439	288	280	383	177	952	177
三六〇	一〇〇	四〇〇	六〇〇	六〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
日本評論社	白揚社	岩波書店	白揚社	木星社	改造社	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社
月一	月一	月六	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一
▲カウツキの「唯物史観」の第一巻第三書人間社会の譯出で、種族、技術外二篇。	▲社会科に於ける原因と目的以下八章一改	▲下巻は科学としての辯證法の一般的性質、運動の基本形態、電気外八章の譯述。	▲唯物辯證法、マルクス、レーニンの理論上の二つの戦線における闘争の二部。	▲マルクス主義、レーニン主義の諸理論を唯物辯證法を具體的に適用しつつ、説明を施す。	▲マルクス主義と哲学、観念論と唯物論、ヘーゲルからマルクスへ外八章。	▲哲学の黨派性、唯物論と観念論、本質と現象形式と内容外四章にて譯述。	▲「ヘーゲルをめぐる黨派的闘争」に寄せて（エム・エフ）外九篇の論文集。	▲現実の擁護（ベスバロフ）唯物辯證法に立脚する藝術の爲に（フアヂエ）其他	▲マルクス及びエンゲルスの文章の中から史的唯物論に關する主要なるものを蒐集したもの。	▲古代より一九二八年コミンテルン第六回大會までの史實を記述す。	▲社会主義の發展、史的唯物論に就て外一篇にて譯述。	▲問題の範圍、プロレタリア的社會主義の源泉、プロレタリア主義外一篇。

政治・社会（社会主義・マルクス主義）

川恩	田邊忠	内館忠	竹村	マルク	岡崎	長谷部	永田	片野	アト	橋本	十時	上野	ヨハネ
社會主義の發展	プロレタリア的社會主義	社會運動史	フランスに於ける階級闘争	ブルジョア主義の歴史	反デューリング	反デューリング	反デューリング	反デューリング	マルクス主義政治の教程	マルクス主義の解説及批判	マルクス主義と共産主義	マルクス主義と共産主義	マルクス主義と共産主義
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
143	325	485	183	231	260	182	133	371	348	146	180	117	117
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
共産	日本評論社	出版部	共生	共生	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店
月二	月九	月三	月二	月二	月二	月二	月二	月二	月二	月二	月二	月二	月二
▲社会主義の發展、史的唯物論に就て外一篇にて譯述。	▲問題の範圍、プロレタリア的社會主義の源泉、プロレタリア主義外一篇。	▲社会主義の起源と意味、マルクスとマルクシズム、一般運動外八章。	▲一八四八年から一八五〇年までのフランスに於ける階級闘争に就て述ぶ。	▲ルイ・ボナパルトのブルジョア主義外八章。	▲反デューリング論の下巻で、第二篇經濟學第三篇社會主義を收む。	▲哲學論争の一般的意義、哲學に於ける二つの戦線上的闘争の任務外三章及び附録。	▲社会主義文獻に於ける「反デューリング論」の地位、デューリングの著作外五章。	▲精神科學の概念的豫備的規定、認識批判に對するマルクスの關係外十七章。	▲資本主義經濟と社會主義經濟の基礎、經濟畫計の二篇十一章。	▲マルクス主義の内容に就ての批判で、マルクス主義の譯見其他。	▲國家に對する知識階級の役割の文化なるもの、暴露のマルクシストの強迫觀念外數編	▲共産主義者の倫理、共産主義と宗教、共産主義者の人文主義等に亘りての實狀報告。	▲共産主義と共産主義

政治・社會(社會主義・マルクス主義)

竹ノハノフ著	外村史郎著	高山洋吉著	武田三九郎著	田島三九郎著	武田三九郎著	高山洋吉著	直井武夫著	鈴木安藏編	松村ニ登著	西森ニ岩著	北輝夫著	スタリオン著	スタリオン著	白井リオン著	西スタリオン著									
我々の對立	わが批判者の批判	改良主義に抗して	イスクラ時代	イスクラ時代	イスクラ時代	一九一七年革命	共産主義「左翼」小兒病	國家に「ついていて	帝國主義論	帝國主義論	レニンの主義とは何ぞや	レニンの主義の諸問題	レニンの主義の諸問題	レニンの主義の諸問題	レニンの主義の諸問題									
布菊半裝載	並四六裝判	並四六裝判	並新菊裝判	並新菊裝判	並新菊裝判	並新菊裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判									
190	469	121	458	564	368	140	76	132	196	108	258	329	258	108	196									
四三〇	一〇〇〇	四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇									
改造社	叢文閣	南北書院	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社	希望閣	希望閣	橋書店	共生閣	共生閣	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社									
九月	十月	六月	六月	六月	六月	九月	一月	一月	三月	六月	四月	九月	九月	六月	六月									
▲プレハノフの「社會主義と政治闘争」のロシア語からの全譯。	▲反ハルンシュタイン論、反シエムット論、反スツルウエ論の駁論三篇。一普及版一	▲一九二九年のサヴエイト同盟労働組合第八回大會に於けるロゾフスキの報告其他	▲上巻は「イスクラ」の創刊へ、農業問題とマルクス批評家外一篇譯述。	▲下巻は「イスクラ」及び「ザリヤ」の論文其他、何を爲すべきか?の譯述。	▲一九一七年四月末より六月初めに至る期間に於けるレニンの論文を網羅す。	▲吾々は如何なる意味においてロシア革命の國際的意義を語る事が出来るか外九章。	▲極めて難解にして複雑な國家の問題の平易なレニンの講演を収めたもの。	▲資本主義の特殊な段階としての帝國主義外二章の原文を収め譯註を附せるもの。	▲生産の集中と獨占、資本主義の特殊の段階の帝國主義、帝國主義の批判外七章。	▲レニンの主義の定理、一國に於ける社會主義の勝利の問題外五章。一普及版一	▲ツヴェイト同盟共産黨内における右翼的危険について外四篇を収録。	▲階級としての富農層の清野政策に関する問題のために社會的論議者レニンの「革命的諸證者」としてのレニンの外一章。	▲レニンの主義に收められたクワゼヴィツツの戦争論からの書き抜きノートの邦譯。	▲一八九四年から一九一九年に至る間レニンのその近親者に宛てた手紙を収録す。	▲主として彼の母アレクサンドロフナ及び妹イリニチナに宛てた手紙を収録す。	▲カール及びカウツキー宛のルクセンブルグの書簡を譯出せるもの。	▲宗教とプロレタリアイト、地上に於ける生命の發生、奇蹟と自然法則外四節。一改訂版一	▲宗教の反動的根拠、教會の方向、教會と青年、教會の活動方法外三章。一普及版一	▲單純商品生産より資本主義商品生産へ、獨占資本主義と帝國主義外十一章。	▲價值理論、剩餘價值と資本蓄積、資本の集積と集中及び金融資本の形成外七章。	▲第一期第二期の概観、第三期へ!、第三期と國際社會民主主義外五章にて論述。	▲社會フアシズムに關する其本質の追究、マルクス主義的そのその解明である。	▲失業者の間に於ける活動、經營細胞及び成員の流動に就て第二章。附録二章	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一

政治・社會(社會主義・マルクス主義)

佐多リオン著	馬込健之助譯	本間七郎譯	旗曉子譯	カウツキー子譯	松井圭子譯	ルカチエフスキ著	無神論者同盟譯	日本無同盟譯	前川泰平編	山本三吾譯	科學研究所編	科學研究所編	ラビンスキ著	産業労働調査所編	關西支所編	全集刊行會譯
レニンの唯物論證法	レニンの近親者への手紙	レニンの近親者に與へた手紙	レニンの近親者への手紙	レニンの近親者への手紙	「無神論」教程	教會の反動的役割	無産者政治教程	上級無産者教程	第三期とは何か	第三期と社會フアシズム	ピアトニツキー論文集	プロトコール全集	プロトコール全集	プロトコール全集	プロトコール全集	プロトコール全集
布菊半裝載	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判
165	73	393	257	248	240	101	293	252	211	401	550	293	293	550	293	293
四三〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
改造社	南北書院	南北書院	希望閣	岩波書店	白揚社	共生閣	不二書店	叢文閣	共生閣	共生閣	勞農書房	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社	白揚社
五月	三月	二月	二月	六月	四月	四月	二月	二月	六月	九月	六月	五月	五月	六月	六月	五月
▲戰時的唯物論者レニンの「革命的諸證者」としてのレニンの外一章。	▲レニンの主義に收められたクワゼヴィツツの戦争論からの書き抜きノートの邦譯。	▲一八九四年から一九一九年に至る間レニンのその近親者に宛てた手紙を収録す。	▲主として彼の母アレクサンドロフナ及び妹イリニチナに宛てた手紙を収録す。	▲カール及びカウツキー宛のルクセンブルグの書簡を譯出せるもの。	▲宗教とプロレタリアイト、地上に於ける生命の發生、奇蹟と自然法則外四節。一改訂版一	▲宗教の反動的根拠、教會の方向、教會と青年、教會の活動方法外三章。一普及版一	▲單純商品生産より資本主義商品生産へ、獨占資本主義と帝國主義外十一章。	▲價值理論、剩餘價值と資本蓄積、資本の集積と集中及び金融資本の形成外七章。	▲第一期第二期の概観、第三期へ!、第三期と國際社會民主主義外五章にて論述。	▲社會フアシズムに關する其本質の追究、マルクス主義的そのその解明である。	▲失業者の間に於ける活動、經營細胞及び成員の流動に就て第二章。附録二章	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一	▲第三冊は第五回大會議事録で、執行委員會の活動及び世界狀勢に關する討論。一改訂版一

研究会 理想	ハンズ・コロン著 アジア民族運動	文化研究会編 民族文化の発展	小島京一譯編 民族問題 教程	北島武平譯 国際労働者運動史	産業労働調査所譯 国際労働運動史	産業労働調査所譯 国際労働運動史	産業労働調査所譯 国際労働運動史	プロレタリア マルクス主義労働者教程	山田俊一郎著 青年労働者	吉山道三著 同盟軍としての農民	山瀬香吉 詳解ロシア革命誌	野々宮三夫 世界プロレタリア年表	産業労働調査所譯 政治、経済、労働者運動地圖
近世評論社	同人社	木星社	耕進社	中外書房	希望閣	希望閣	希望閣	叢文閣	南北書院	共生閣	希望閣	希望閣	希望閣
月六	月三	月四	月六	月一	月三	月三	月三	月一	月五	月五	月一	月一	月二十
▲ロマニアの同志に、第一インターナショナルの分裂に就いて外一篇。	▲西南アジアに於ける民族運動の研究で、回教に於ける改革とルネッサンス外十一章。	▲サウエイトに於ける民族文化建設の問題を集中的に収録せるもの。	▲民族のレーニン主義的概念、プロレタリア国際主義外八章にて譯述。	▲ドイツ及びオーストリアに於ける一八四八年の革命外二章。	▲フランス革命(フランス資本主義の發達と舊制度外二節)。	▲第二分冊はイギリスに於ける産業革命とチヤイチズムを収む。	▲第三分冊はフランス及びドイツに於ける一八四八年の革命を収む。	▲利潤率の傾向的低下の法則、商業資本及び商業利得其他。	▲サウエイトのための闘争、青年労働の社会主義的再組織への第一歩外九章。	▲資本主義内の小ブルジョア層と小農民層、村落に於ける二つの矛盾外八章。	▲ロシア革命年表、ロシア内亂年表、ロシア革命小史其他。附反革命に關する一資料其他。	▲選挙カンパニア・第四國會の行動開始、社会民主黨のフラクシア・第四國會の分裂外一章。	▲現在の列強、帝國主義の目標、民族問題と經濟問題其他地圖多數收載。一普及版。

岡本瓊二 思想問題講話	深作安文 思想問題	荻田萬一郎 思想問題と宗教問題	滋賀多喜雄 国民文化の特色	吉田中義能 日本文化の特色	大川合正徳 現代的社會意識の批判	赤坂清七 現代と思想運動	土田杏村 農村問題の社會學的基礎	佐藤隆徳 農村郷土の社會學的研究
第一協會出版	大雄閣	育社協會教	青年教育會	青年教育會	青年教育會	玉川學園	第一書房	厚生閣
月二	月三	月九	月九	月九	月二十	月一十	月一	月四
▲思想問題講話(我等の國家外廿講) 思想問題解説批判(社會問題外廿講)。	▲暗殺都市東京實に不愉快の極である思想混池の秋この問題を解決するは本書より他ない。	▲現代の社會情勢、宗教的情操の本質、宗教的情操の涵養法の三章。	▲學生思想問題の性質、學生思想問題の觀點學生思想問題の原因外一章にて檢討す。	▲國民思想の確立(吉田熊次) 日本文化の特色(田中義能)の二篇を収む。	▲一面的社會觀を排す(川合貞一) 現代社會意識の批判(大島正徳)の二篇。	▲今日の世界及日本の時代相と思想問題の關係其他に就て論述した書。	▲都會と農村との根本關係、農村争議と將來の農村學校外八章。一改訂版。	▲農村生活問題の社會學的研究で、科學としての農村社會學外十五章。

権藤成輝	藤村自救論	布四六	243	一三	文藝春秋社	月七	▲農村の自治を説き自救を論じたもので、民人、社説、例制外六講。
橋孝三郎	農業本質論	布四六	235	一三	建設社	月七	▲前論、農業本質論、マルクス主義批判、後論の四章にて論述せるもの。
木村靖二	農村恐慌論	並四六	342	六三	白揚社	月九	▲農業恐慌、近代社会の分析、農民搾取の發展、農業の没落外四篇にて論述。
木村靖二	農村再建論	並四六	178	六三	白揚社	月九	▲農業救済論(農業恐慌の深化外三章)農業再建論(農業高度化の概念外五章)農業
室伏高信	農民は起ちあがる	並四六	304	八三	平凡社	月八	▲農業恐慌の根本問題を取りあげ社会経済及政治と文化との全關聯に於て論述す。
木村靖二	現代農民運動の展望	並四六	432	〇五	白揚社	月三	▲農民組合運動の發展、植民地に於ける農民運動の二篇五章にて論述。
石川博兄	日本農村問題と大陸建國	上四六	160	四三	信濃毎日新聞社	月四	▲日本生命線と國防調査、日本農村の苦悶とその原因、日本農業と土地問題、滿洲植民論。
山田道兄	現下の農村問題に就いて	並四六	18	二〇	明文堂	月二十	▲はしがき、政黨の無力、自給自足經濟下の農村、貨幣經濟下の農村、他四項。
小野道雄・藤井米藏	日本農業恐慌研究	洋四六	398	二五	改造社	月九	▲農村窮乏史を貫く二重性(小野道雄)日本農村の階級構成(藤井米藏)外三篇。
協調會農村課編	農村指導調査に際して	並四六	45	二五	協調會	月二十	▲現下我農村社会の達着せる苦惱を叙述せる書で、小作組合の發達狀況外十八篇。
鈴木榮太郎	農村社会調査法	並四六	77	四〇	刀江書院	月二	▲調査地域の豫備的決定、部落の現在人文地圖、生業的分化外十八段。
協調會農村課編	農村社会運動の動向	並四六	218	六〇	協調會	月一十	▲埼玉縣井泉村の實地調査を開始した協調會農村課の農村計畫講演會の筆記。
協調會農村課編	農村實地調査の仕方	並四六	30	二五	協調會	月七	▲埼玉縣井泉村の實地調査を中心として述べた書で、調査の目的、調査の項目外四章。

協調會農村課編	産業組合及農會の教育的活動	並四六	91	二〇	協調會	月四	▲産業組合中央會及支會の教育的活動、系統農會の教育的活動、大日本農會の教育的活動。
協調會農村課編	北海道東北地方の凶作概要	並四六	72	二五	協調會	月六	▲第一章概観、第二章北海道の凶作概要、第三章青森縣の凶作概要。
東浦庄治	農村時事問題	並四六	51	二五	育社協會教	月八	▲農村困難の實相、國家經濟機構の三分説、非常時として即時通貨増發論外三篇。
原鐵五郎	農村救済問題に就て	並四六	100	二〇	東京旭印刷株式會社出版部	月八	▲僅三錢の收入それで子供が徹夜外四十三篇の農村生活報告書。
大坂毎日新聞	生にもがく農村	並四六	174	四三	一元社	月八	▲農村應急對策座談會の速記で、全農産物統制に國家自らが當れ外二十九章。
東京日日新聞	如何にして農村を救ふべきか	並四六	120	四三	創造社	月七	▲農村非常對策の基調、農村負債の解決策、外十一章にて論述。
横尾惣三郎	農村非常對策	並四六	87	四三	千倉書房	月六	▲飢餓に瀕する農村、農村窮乏の眞因、農村救済策の批判外二章。
親泊康永	飢餓線上の農村	並四六	111	四三	新興社	月七	▲農村問題の眞相を紹介し其對策に就て論述せるもので、漁村の窮乏外九章。
總川虎三	漁村問題と其對策	並四六	167	四三	出版部	月八	▲農村經濟窮乏の眞相に就ての考察で、私經濟上よりする窮乏と對策外二章。
大谷政敬	農村經濟の窮乏と對策	並四六	100	四三	出版部	月八	▲農業問題の理論、農業關係の進化と農業に於ける全産過程の進化外一編。
レヴエンシユタム著	マルクス主義農業問題總論	洋四六	380	二〇	南北書院	月七	▲農業問題の理論、農業關係の進化と農業に於ける全産過程の進化外一編。
大山岩ニ雄編譯	農業問題とマルクス主義	並四六	610	〇五	改造社	月一十	▲レイニンの農業問題に關する勞作論文等を收めたもの。
大山岩ニ雄編譯	農業問題	並四六	892	一八	改造社	月二十	▲第二卷は「農民生活に於ける新しい經濟的運動」其他を中心にエゴロフの序論を収録

政治・社会(労働問題・労働組合)

研究 所編 労働問題 第一編	モスコ 本三 研究 所編 労働問題 第一編	山本 好 幸 著 世界農業の現勢と農業恐慌	三好 幸 著 農業恐慌の全面的展望	研究 所編 農業恐慌の全面的展望	日本 農業 研究 所編 農業恐慌の全面的展望
並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
192	260	212	242	318	542
五〇	一〇〇	六〇	六〇	一〇〇	一三〇
耕進社	耕進社	木星社	叢文閣	叢文閣	改造社
月九	月六	月一十	月六	月二十	月九
▲時代論家としてのロードベルトウス(ロフスキ)の四篇の論文を譯載。 ▲東印度の農業状態に關する王立委員の報告(マチャール)外五篇譯出。 ▲サグエート同盟並びに資本主義諸國に於ける農業の現勢外一篇。 ▲農業恐慌理論の爲に(ゴルディエフ)農業恐慌の本質に就て(ボンダレンコ)其他。 ▲世界農業恐慌と農民階級のための闘争「ドウプロフス」外五篇。 ▲恐慌下の農村、日本農業恐慌の本質外三部。附録滿洲の農業と移民。					

政治・社会(失業問題・職業問題)

研究 所編 労働問題 第一編	モスコ 本三 研究 所編 労働問題 第一編	山本 好 幸 著 世界農業の現勢と農業恐慌	三好 幸 著 農業恐慌の全面的展望	研究 所編 農業恐慌の全面的展望	日本 農業 研究 所編 農業恐慌の全面的展望
並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
192	260	212	242	318	542
五〇	一〇〇	六〇	六〇	一〇〇	一三〇
耕進社	耕進社	木星社	叢文閣	叢文閣	改造社
月九	月六	月一十	月六	月二十	月九
▲時代論家としてのロードベルトウス(ロフスキ)の四篇の論文を譯載。 ▲東印度の農業状態に關する王立委員の報告(マチャール)外五篇譯出。 ▲サグエート同盟並びに資本主義諸國に於ける農業の現勢外一篇。 ▲農業恐慌理論の爲に(ゴルディエフ)農業恐慌の本質に就て(ボンダレンコ)其他。 ▲世界農業恐慌と農民階級のための闘争「ドウプロフス」外五篇。 ▲恐慌下の農村、日本農業恐慌の本質外三部。附録滿洲の農業と移民。					

飯野明	木村松代	文化研究會編輯	河崎ナツ	神近市子	遊佐敏彦	中田俊造	北岡壽逸	東京市役所編	中央職業研究會編	杉原勇	佐久間榮吉
結婚術	結婚社会学	サヴェエト文化主義	職業婦人を志す人のために	ソヴェエト婦人の生活	職業婦人の問題の趨勢	歐米婦人の社会生活	婦人労働者問題	婦人職業戦線の展望	現代職業讀本	愛児の適職を選ぶには	自由人の警鐘
並四六 布入判 358	並四六 布入判 332	並四六 製判 136	並四六 製判 242	並四六 製判 186	並四六 製判 43	並四六 製判 50	並四六 製判 37	並四六 製判 481	並四六 製判 435	並四六 布入判 277	並四六 製判 155
一、二 八〇〇	一、二 二〇〇	一、二 六〇〇	一、二 八〇〇	一、二 四〇〇	一、二 二〇〇	一、二 二〇〇	一、二 二〇〇	一、二 一、八〇〇	一、二 六〇〇	一、二 一、〇〇〇	一、二 四〇〇
東洋堂	改造社	木星社	現人社	南北書院	育社会教	育社会教	育社会教	白鳳社	寶盛堂	春陽堂	ムスタイ
月十	月三	月四	月三	月二十	月二十	月八	月七	月一	月三	月五	月五
<p>▲我國婦人労働者の分布、我國婦人労働者の重要性外五章。 ▲生活を樂しむ、婦人の社会的地位、衛生及食糧問題と婦人外八章。 ▲婦人運動より一步先へ、一般婦人職業の減退理由、自覚した婦人とは誰か外十四章。 ▲職業婦人の発生とその趨勢、職業婦人の状態、職業婦人の問題外六章。 ▲ソヴェエトに於ける婦人と生活との實際的問題を述べた書で、舊生活外十一章。 ▲解放されたサヴェエト婦人のあらゆる分野に於ける活動の全貌を示せる書。 ▲結婚生活の形態、米國家族制度の歴史、避妊結婚の動機、産兒制限問題外五章。 ▲戀愛及び結婚、社會制度の變遷と結婚、理想の男女性と進むべき男女性外十二章。理想の男女性と進むべき男女性外十二章。</p>											

立花高四郎	若月紫蘭	山川均	土田杏村	石井悦朗	社会立法協會編	高山彬	増富平藏	田中フロイド	赤井米吉	井上寛
これ以上は禁止	年中行事の話	世相を語る	現代世相論	科學國策論	當面の社会政策	性慾五千萬年史	婦人の性的罪過	機械時代の戀愛	女性文化讀本	早婚と自由産兒
並四六 製判 244	並四六 製判 35	上四六 製判 320	洋四六 布判 355	洋四六 布入判 104	洋四六 布入判 453	上四六 製判 370	布四六 製判 453	上四六 製判 266	上四六 製判 336	並四六 製判 100
一、二 八〇〇	二〇〇	一、二 一〇〇〇	一、二 一〇〇〇	一、二 八〇〇	一、二 二、四〇〇	一、二 二、〇〇〇	一、二 二、〇〇〇	一、二 一、〇〇〇	一、二 一、〇〇〇	一、二 四〇〇
先進社	育社会教	千倉書房	千倉書房	桂文閣	法社会立	先進社	廣文社	先進社	厚生閣	落合書店
月五	月二十	月二十	月六	月一	月一	月二	月二	月一	月二十	月九
<p>▲混亂した最近世相の實體に就て述べたもので、現今世相の特性外九章。 ▲何を語り入れたか？外十七章。 ▲年中行事は生きた生活史、年中行事と社会教育者の心得、關東の行事外二章。 ▲十數年の長きに亘つて警視廳の名檢關係長として定評ありし著者の禁止物に就ての手記</p>										

政治・社會（社會諸相・社會探訪）

綜合チャリナリブ ム講座編輯部編	植原路郎編	高田義一郎	淺野研眞	寶來正芳	海老名靖	野添教義	楠瀨正澄	鈴木猛	恒岡恒	田中九祐厚	安藤盛	高橋間黒龍風
新聞特種秘話	昭和六 大事件怪事件誌	兇器亂舞の文化 ——明治大正昭和探訪史——	社會を診斷する ——性と犯罪と社會諸相——	現代裏面素破抜記	性的犯罪考	女性と犯罪	記者の眼 捜査職線秘録	共產黨跳躍の全貌	科學と體験を 基礎とせる探偵術	對露漁業交渉をスパイする	海賊王の懐に入る	海賊物話
並四六 製判	布四六 製判	上四六 製判	上四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	布四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	布四六 製判	上四六 製判
281	380	3・8	334	320	451	348	243	292	221	244	327	542
一、 六〇	一、 三〇	一、 二〇	一、 〇〇	六、 八〇	一、 二〇	一、 三〇	六、 七〇	八、 〇〇	特 一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 八〇
内外社	日實業社	先進社	日東書院	良榮堂	六文館	武俠社	新光閣	奎文社	松華堂	日露貿易社	先進社	安文堂
月二	月四	月五	月六	月十	月二十	月二	月九	月一十	月二十	月八	月五	月七
▲新聞の特種物語で、滿洲事變の特ダネ、第六感捕物帳外九篇。	▲明治正昭和初期に起つた社會事件を五十音順に蒐録せるもの。	▲明治大正昭和の三時代を通じての暗殺事件を詳述せる書。——續實録止——	▲性と犯罪と社會福利の問題に就て述べた諸論作を収めたもので、性の社會問題外二編。	▲あらゆる犯罪に對する被害豫防の秘術書。	▲貞操の擁護と破壊とに關する事實に就て論述せるもので、姦淫罪と性的犯罪其他。	▲女性と犯罪との關係を主として性的方面から觀察せるもので、女性犯罪の心理外十一篇。	▲努力で捕んだ特種と努力で捕へた犯人、氣轉を利かせて捕へた犯人外五篇。	▲赤色ギャングと共產黨、法廷に起つた佐野學一味、共產黨大檢舉秘録外三篇。	▲科學と體験を織り込んだ事實を基礎として述べた探偵書で、殺人事件捜査外三篇。	▲對露漁業協約と日露漁業條約外四篇。	▲世界未知の海上ギャングの生活を探つたもので、排日の支那へ外十七篇。	▲馬賊の起源、馬賊の元締遊見彦氏、馬賊の山寨生活、長春の馬賊外廿九篇。

政治・社會（政治社會年鑑・名簿）

内閣統計局編	東京政治研究所	大原社會問題研究所編	協調會調査課編	全國銀行會社	中村舜二編	北海出版社
日本帝國統計年鑑	日本政治經濟年鑑	日本勞働年鑑	海外勞働年鑑	就職年鑑	大東京年鑑	昭和七年北海道年鑑
洋四六 布判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
459	337	972	822	226	551	472
三、 〇〇	二、 三〇	四、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	二、 〇〇	一、 八〇
計東京會統	岩波書店	同人社	協調會	高瀬書房	大東京社	北海出版社
月二十	月五	月二十	月四	月十	月一十	月四
▲各官公署の統計報告に基いて編纂せるもので、土地及氣象、農林及水産外十二篇。	▲最近二ヶ年の政治經濟の主要事項を擧げて現實日本の眞相を叙述す。	▲昭和六年に於ける日本勞働者の各方面に亘る状態と運動及び施設對策等を記録す。	▲一九三一年に於ける海外各國勞働運動上殊に顯著なる事件を摘録せるもの。	▲就職の實戰術を解説したもので、就職成功法、就職運動の五方法、面接の秘訣外三篇。	▲大東京公議會、人口土地建物、交通運輸教育文化、郵便外十八篇より成る。	▲北海道の梗概、地理、氣候、土地、戸口、政治、財政、和稅、警察及司法其他。

石橋博美編 朝日新聞社編 昭和七年版	朝日新聞社編 朝日新聞社編 昭和八年版	大阪毎日新聞社編 大阪毎日新聞社編 昭和八年版	時事新報社編 時事新報社編 昭和八年版	國民新聞社編 國民新聞社編 昭和八年版	新聞研究所編 日本新聞 昭和七年版	圖書研究會編 綜合出版 昭和七年版	東京堂編 出版 昭和七年版	東京書籍商組合編 出版 昭和七年版	年史刊行會 昭和六年史	社會思想社編 改訂社會科學大辭典 昭和六年	室伏高信編 現代文明サイクロペディア 昭和六年									
並四六 製判 487	並四六 製判 422	並四六 製判 377	並四六 製判 243	並四六 製判 133	並四六 製判 461	並四六 製判 536	並四六 製判 232	並四六 製判 1326	並四六 製判 1400	並四六 製判 780	並四六 製判 850	並四六 製判 1000	並四六 製判 1108	並四六 製判 349	並四六 製判 516	並四六 製判 762	並四六 製判 560	並四六 製判 799	並四六 製判 554	
二、五〇 一、四〇	二、七〇 一、四〇	二、三〇 一、四〇	二、八〇 一、二〇	二、八〇 一、四〇	二、八〇 一、四〇	三、〇〇 一、三〇	一、五〇 八〇	三、五〇 三、〇〇	三、五〇 三、〇〇	三、〇〇 二、四〇	三、〇〇 二、四〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇
刀江書院	岩波書店	大畑書店	共生閣	大畑書店	大畑書店	岩波書店	章華社	改造社	改造社	年史刊行會	東京書籍商組合事務所	東京堂	大阪屋號	新聞研究所	國民新聞社	時事新報社	大阪毎日	朝日新聞社	東京時報社	
月一	月三	月二十	月八	月九	月六	月二	月六	月四	月四	月二	月六	月五	月一	月一	月十	月十	月十	月十	月四	
▲直接國民立法の一形無(鶴岡信成)賠償問題の史的考察(三宅鹿之助)外五篇。	▲親族法上の事項に適用する法律(山口弘一)信義誠實の原則(常盤敏太)外二篇。	▲史的唯物論の基本的立場から法並に法學に對する批判を論じた緒論文を収録。	▲法の一般理論の諸課題、イデオロギーと法と國家、法と道徳外三篇。	▲ケルゼンの學問的な全立場を簡單明瞭に陳述した書で、自然法の理念と實定法外三篇。	▲ケルゼンの純粹法學の根本思想、適用、成果等の紹介書。	▲法の概念と國家の概念、法の概念と民族の概念、世界經濟の法的規整外二章にて論述。	▲ケルゼンの純粹法學の根本思想、適用、成果等の紹介書。	▲社會運動社會思想社會問題及び之に關聯ある社會科學諸般に及ぶ大辭典。一改訂版。一、改訂版。二、改訂版。三、改訂版。四、改訂版。五、改訂版。六、改訂版。七、改訂版。八、改訂版。九、改訂版。十、改訂版。十一、改訂版。十二、改訂版。十三、改訂版。十四、改訂版。十五、改訂版。十六、改訂版。十七、改訂版。十八、改訂版。十九、改訂版。二十、改訂版。二十一、改訂版。二十二、改訂版。二十三、改訂版。二十四、改訂版。二十五、改訂版。二十六、改訂版。二十七、改訂版。二十八、改訂版。二十九、改訂版。三十、改訂版。三十一、改訂版。三十二、改訂版。三十三、改訂版。三十四、改訂版。三十五、改訂版。三十六、改訂版。三十七、改訂版。三十八、改訂版。三十九、改訂版。四十、改訂版。四十一、改訂版。四十二、改訂版。四十三、改訂版。四十四、改訂版。四十五、改訂版。四十六、改訂版。四十七、改訂版。四十八、改訂版。四十九、改訂版。五十、改訂版。五十一、改訂版。五十二、改訂版。五十三、改訂版。五十四、改訂版。五十五、改訂版。五十六、改訂版。五十七、改訂版。五十八、改訂版。五十九、改訂版。六十、改訂版。六十一、改訂版。六十二、改訂版。六十三、改訂版。六十四、改訂版。六十五、改訂版。六十六、改訂版。六十七、改訂版。六十八、改訂版。六十九、改訂版。七十、改訂版。七十一、改訂版。七十二、改訂版。七十三、改訂版。七十四、改訂版。七十五、改訂版。七十六、改訂版。七十七、改訂版。七十八、改訂版。七十九、改訂版。八十、改訂版。八十一、改訂版。八十二、改訂版。八十三、改訂版。八十四、改訂版。八十五、改訂版。八十六、改訂版。八十七、改訂版。八十八、改訂版。八十九、改訂版。九十、改訂版。九十一、改訂版。九十二、改訂版。九十三、改訂版。九十四、改訂版。九十五、改訂版。九十六、改訂版。九十七、改訂版。九十八、改訂版。九十九、改訂版。一百、改訂版。	▲現代文明人として知つて置くべき程度の百餘の知識を網羅せる辭典。	▲最近出版界の展望、三所から見た出版界、圖書分類目録、編録圖書統計表外十二篇。	▲出版界一年史、出版諸統計、昭和六年度出版圖書總目録、雜誌總目録外四部。	▲新刊書總年報、著者別新刊目録、書店別名著目録、内外新聞雜誌總覽外三部。	▲國防線への總動員、代表各社經濟事情、府縣別及社別實況其他。	▲世界重要事年記以下四十二項。	▲憲法其他。	▲宮廷其他。別冊附錄現代人名錄、最新經濟語辭典。	▲昭和六・七年略史其他。	▲一大寶庫樟太の實狀を紹介せるもので、土地人口、樟太史、財政、林業外卅四篇。		

10. 法律

法理・法律一般

著者	書名	裝形 訂體	數頁	定價 送料	發行所	月行	內容大意
ホイケ著 森吉義旭譯	法律哲學概論	洋四六 布入判	232	一、五〇 八〇	章華社	月六	▲總論―基礎概念、各論―法律の各部門(國家法・刑法・國際法)の二卷にて論述。
東帝國大學教授 田中耕太郎	世界法の理論	洋四六 布入判	536	三、〇〇 一、三〇	岩波書店	月二	▲法の概念と國家の概念、法の概念と民族の概念、世界經濟の法的規整外二章にて論述。
大澤章・清宮四郎 横田喜三郎	ケルゼンの純粹法學	洋四六 布入判	461	二、八〇 一、四〇	大畑書店	月六	▲ケルゼンの純粹法學の根本思想、適用、成果等の紹介書。
ケルゼン著 黒田覺譯	自然法學と法實證主義	並四六 製判	133	二、八〇 一、四〇	大畑書店	月九	▲ケルゼンの學問的な全立場を簡單明瞭に陳述した書で、自然法の理念と實定法外三篇。
バシユカーニス著 佐藤榮譯	マルクス主義と法理學	洋四六 布入判	243	二、八〇 一、二〇	共生閣	月八	▲法の一般理論の諸課題、イデオロギーと法と國家、法と道徳外三篇。
平野義太郎編	史的唯物論と法律	並四六 製判	377	二、三〇 一、四〇	大畑書店	月二十	▲史的唯物論の基本的立場から法並に法學に對する批判を論じた緒論文を収録。
東京商科學會編	法學研究	並四六 製判	422	二、七〇 一、四〇	岩波書店	月三	▲親族法上の事項に適用する法律(山口弘一)信義誠實の原則(常盤敏太)外二篇。
京城帝國大學編	法政論叢	並四六 製判	487	二、五〇 一、四〇	刀江書院	月一	▲直接國民立法の一形無(鶴岡信成)賠償問題の史的考察(三宅鹿之助)外五篇。

法律(法理・法律一般)

京城帝國大學 法文學會編	春木一郎編	栗生武夫	瀧川政次郎	飯田忠純	森吉義旭	牧野菊之助	穂積重遠	竹田直平	ケグロウスキ 山之内一郎編	板倉眞五	中野登美雄	大平久
法學	儒帝法學重要語彙譯	中世私法史	法律史	法律史(法史研究) 法制史(その限界)	自然法の社會化	回顧	判例百話	犯罪徵表	ソヴェエト法論	滿洲土地法論	法律網	法律相
並菊	洋三六	並菊	洋四六	並菊	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
製判	布入判	製判	布入判	製判	布入判	布入判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
519	120	150	330	37	128	228	371	134	418	147	281	424
三、三〇	一、五〇	一、三〇	一、九〇	二、三〇	六〇	一、三〇	二、〇〇	四〇	三、五〇	一、五〇	一、〇〇	二、〇〇
刀江書院	刀江書院	弘文堂	巖松堂	高原書店	四條書房	巖松堂	日本評論社	大畑書店	希望閣	大阪屋號	雄文館	日本評論社
月一十	月一十	月二	月一十	月九	月九	月七	月三	月九	月二十	月五	月九	月二十
▲經濟六典について(花村美樹)會社の親子關係(花井廉)外四篇を輯録	▲羅馬法研究者の爲に儒帝法學重要語彙中の重要語を譯し其語の法文の所在を示した字引	▲序説、一、權利能力、二、行爲能力、三、法人	▲法制史雜誌集で、大岡の本編さばき、天晴れなる鎌倉武士の敗訴外六十八篇	▲法制史の方法に就て論述せるもので、「法律史」と「法制史」外七章	▲自然法の史的発展を述べその本質を決定せるもので、自然法の支配力	▲司法生活四十年の回顧、國民の司法參與と保護事業、裁判の使命外九篇	▲民事、刑事、大審院、下級裁判所其他の判例を引用し興味本位にて述べた書	▲犯罪徵表説の意義、犯罪徵表説の發展史的概観、犯罪徵表説の批判の三篇	▲第四卷はソヴェエト法中の刑法、監獄法、裁判法の三篇及参考書目を収む	▲滿洲に於ける現社會文化の生成、滿洲土地法、主體外六章にて論述	▲公法編は法の本質、國家の本質、帝國憲法の特質と史的淵源の三編	▲民法商法民事訴訟法刑法刑事訴訟法諸法の六部に分ち日常的法律問題解決二百題を収む

法律(憲法・選舉法)

星嘉	武藤新次郎	黒澤松次郎	奈良正路	同人社編纂部編	福井才一郎	法律評論社	清博士	高塚謙一	小林零次	内務省警保局編	
法律の相談	憲法法律早わかり	時局匡救法律早わかり	女性法律學	無産者法律必携	全國區區裁判所管内戸籍事務協議會決議要録	法律年鑑	憲法講義	英國憲法論	選舉運動取締規範	訂選舉法質疑及判決例	
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	
布入判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	
1112	721	159	248	214	600	276	539	211	156	362	
二、八〇	二、六〇	四、〇〇	一、三〇	一、〇〇	九、〇〇	三、六〇	四、五〇	一、六〇	六、〇〇	四、〇〇	
一新社	巖松堂	牛山堂	龍文舎	淺野書店	同人社	明倫館	松華堂	廣文堂	良書普及會	良書普及會	
月四	月九	月二十	月十	月二	月二	月四	月八	月二十	月二	月二	
▲手形、貸金、貸家、貸地、相續順位、戸籍其他法律百般書式を叙述	▲第一編民法、第二編商法、第三編刑法、第四編訴訟法、第五編民法、第六編刑法、第七編民法	▲常識として知つて置かねばならぬ日常の法律に就て述べた書で、能力とは外四十章	▲第六十三議會を通過した各時局匡救法律を平易に解説せる書	▲現行法律中の女性に關した法條を蒐録せる書で、刑法における女性の解放其他	▲刑罰法規、刑事裁判法規、選舉法規、労働法規外三篇	▲大正十三年乃至昭和七年司法省發表戸籍協議會決議要旨裁判所管轄別決議索引を掲ぐ	▲最近一個年間の學說判例決議訓令回答の要旨及法律に關する諸統計新法令等を網羅	▲緒論(二章)本論(七章)より成る憲法の講義書	▲近代英國憲法研究の序説で、序論、緒論、本論(議會の主權)其他より成る	▲選舉期日の公布より當選者決定までの選舉手續概説、選舉犯罪の取締外一章	▲法の適用時期、選舉運動の意義、文書圖畫に關する内務省令第一條其他

國際法・國債法

山田三良	國國際私法	並菊	製判	285	一八〇〇	有斐閣	月九	▲第二分冊は外國人の地位、法律の抵觸の二篇に就て論述。
立原三太郎	改國國際條約集	並菊	製判	512	二八〇〇	外交時報社	月七	▲特に國際法に關係ある諸條約及國內法令に就き撰集せるもの。
外交時報社編	國平和關係條約集	洋菊	布入判	361	二〇〇〇	外交時報社	月八	▲國際聯盟條約中の仲裁裁判、安全及保障の範圍に於ける條約を收録して説明を施す。
鈴木修	一九三二年世界法廷の十年	並菊	製判	179	八〇〇	式丸會善社株	月九	▲國際司法裁判所の組織、權限を叙し、既往十ヶ年の業績を述ぶ。
信原正志	上海戰と國際法	布菊	製判	527	一四〇〇	式丸會善社株	月九	▲帝國海軍の國際法顧問として艦隊の權限に參與せる信夫博士の事變の法律的報告。
菅原正志	日本國債法論	洋菊	布入判	506	三三〇〇	奎文社	月一十	▲國債法總論、國債法各論、國債法規總覽の三篇廿七章にて論述。
勝本正晃	民法研究	春菊	革入判	573	三〇〇〇	巖松堂	月九	▲佛蘭西民法に於ける使用者の責任、不完全履行序論、身元保證に就いて外四篇。
後藤清	民法講義	並菊	製判	250	(2) 1) 一〇〇〇 予一四〇〇	弘文堂	月九	▲本書は學生筆記の勞を省かん爲に著者が恩師先輩の研究の跡を辿りつゝ、著はしたるもの。
近藤英吉	民法	春菊	革入判	620	四八〇〇	巖松堂	月二十	▲法律構成上の觀點から現行民法を解釋せるもので、人、法人、物、法律行為其他。
沼義雄	綜合日本民法論	布菊	製判	613	四三〇〇	巖松堂	月六	▲民法法規、法律效果の二篇。
末弘殿太郎	民法	布菊	製判	267	一八〇〇	日本評論社	月三	▲民法に關する論文集で、法律解釋に於ける理論と政策、轉質について外七篇。

カビタ	佛蘭西民法の變遷	洋菊	布入判	100	一〇〇〇	梓書房	月二	▲アラン・カビタン教授の「最近五十年間の佛蘭西民法の變遷」を譯述せるもの。
杉山直治	日本物權法論	洋菊	布入判	338	二五〇〇	清水書店	月四	▲物權法に關する一般知識を説けるもので、物權の性質、占有權外七章。
小池隆一	民法總論	洋菊	布入判	364	二二〇〇	岩波書店	月一十	▲物權法に關しての究明で、物權法總論、所有權、地上權、永小作權、地役權外二章。
我妻榮	契約總論	洋菊	布入判	261	一八〇〇	弘文堂	月九	▲契約の意味、契約の分類、契約の成立、契約の解釋、契約の効力外一章にて論述。
末川博	英米契約法原理	洋菊	布入判	564	四八〇〇	有斐閣	月二十	▲英米契約法の一般原理に就て論述せる書で契約一般、契約の成立、契約の効力其他。
谷口知平	支那に於ける契約類集	洋菊	製判	116	六〇〇	滿洲協會	月六	▲不動産編(五章)親族相續編(二章)商事編及新編(三章)。
憲眞	相續法の研究	並菊	製判	330	二五〇〇	弘文堂	月八	▲今日尙幾多の疑義を残す相續法を立法論明に解釋論的に討究したるものである。
近藤英吉	相續法の研究	洋菊	布入判	330	二五〇〇	弘文堂	月八	▲第一編條條的説明第二編疑問解説、追録、司法省訓令通牒回答書式關係法令。
竹内恒吉	抵當證券法研究	洋菊	布入判	514	三〇〇〇	銀行問題研究会	月六	▲第五十九議會に於て新に制定せられた抵當證券法の解釋で、抵當證券の性質外十三章。
高村壽恵	新抵當證券法釋義	洋菊	布入判	320	二八〇〇	森山書店	月四	▲抵當證券法緒言該法制度とその創設理由、該法の内容及將來邦紙稅法緒言概外一篇。
全國無盡集會所	印紙稅法抵當證券法講義	並菊	製判	97	四七〇	全國無盡集會所	月一	▲複雑なる獨逸の抵當制度を簡明に叙述せるもので、一般土地登記法概説外二篇。
宮崎一雄	獨逸抵當制度論	洋菊	布入判	485	三三〇〇	清水書店	月六	▲抵當權の本質と價值權、投資抵當權の起源、抵當證券法の發達外二章にて論述。
石田文次郎	投資抵當權の研究	洋菊	布入判	324	二八〇〇	有斐閣	月十	▲現行帝國民法の基礎たる全國民事の古慣例を悉く網羅せるもの。
司法省編	日本民事慣例類集	洋菊	布入判	390	三三〇〇	白東社	月五	

司 法 省 編	日 本 商 事 慣 例 類 集	青函編	1130	一、三〇〇	白 東 社	月 四	▲我國明治以前より一般に行はれ居たる商業習慣を一切網羅せるもの。
鳥 賀 陽 然 良	商 法 總 論	並函編	130	一、〇〇〇	弘 文 堂	月 一 十	▲簡にして要を得んとする目標の下に力めたるもので特に初學者に裨益する。
竹 田 省	商 法 總 則	函背編	280	二、〇〇〇	弘 文 堂	月 二	▲現代の實生活に即し独自の立場に於て現行法の明快なる説述を試む斯法の系統的解説書就て論述せるもので、商法史概観其他。
田 中 耕 太 郎	商 法 總 則 概 論	布函編	389	二、八〇〇	有 斐 閣	月 九	▲日本商法條文の英譯せるもの山田三良博士他十大學者の手に成る。
法 典 英 譯 委 員 會 編	英 譯 日 本 商 法	上函四六	400	五、〇〇〇	國 際 協 會 聯	月 六	▲手形法統一國際會議の沿革と其成功及び我國改正手形法の内容を紹介せるもの。
越 智 昌 三	手 形 法 的 改 正	並編	213	一、八〇〇	局 東 京 支 局	月 六	▲司法省の遂條解説に係る手形法説明書と、帝國議會特別委員會に於ける説明とを編纂。
司 法 省 編	正 改 手 形 法 解 説	並四六	186	特 一、〇〇〇	中 央 社	月 六	▲為替手形、約束手形の二編十二章にて改正手形法註解を試みた書。
大 學 院 院 長 兼 法 政 大 學 法 學 部 長 兼 法 政 大 學 法 學 部 長 兼 法 政 大 學 法 學 部 長	正 改 手 形 法 註 解	洋函編	279	二、三、〇〇〇	巖 松 堂	月 八	▲昭和五年六月壽府に於て成立した為替手形及約束手形に關する統一法の説明書。
荒 川 五 郎	正 改 手 形 法 正 解	並四六	274	一、〇〇〇	清 水 書 店	月 七	▲第一編爲替手形、第二編約束手形、附則手形法改正の由來、議會に於ける政府委員説明。
司 法 省 民 事 局 編	手 形 法 案 說 明 書	並編	230	一、〇〇〇	松 華 堂	月 六	▲第一民法第二商法第三手形法第四民事訴訟法第五算法第六印稅法第七諸法令。
竹 内 恒 吉	新 手 形 法	並編	464	二、〇〇〇	研 究 會 題	月 七	▲銀行實務上の參考資料たる法律問題を収録して解説せるもので、株主及株式關係其他。
多 田 欽 三	銀 行 法 律 質 疑 解 說 集	洋函四六	339	一、八〇〇	研 究 會 題	月 七	
銀 行 研 究 社 編 述	銀 行 家 の 法 律 顧 問	並編	237	一、三〇〇	文 雅 堂	月 一 十	

訴訟法・調停法・判例

鳥 賀 陽 然 良	海 商 法	並函編	280	二、〇〇〇	弘 文 堂	月 八	▲廣汎な海商法を能く限り簡潔に初學者にも容易ならしめた書で、一、船舶、二、船員、三、海商法の法律上の地位外六章より成る緒論及び本論海上企業の主體の組織を收む。
小 町 谷 操 三	海 商 法 要 義	並編	369	二、五〇〇	岩 波 書 店	月 一 十	▲海上保險契約法中理論の最も複雑な海上危險の部分を一統的に論述す。
加 藤 山 作	海 上 危 險 論	布函編	444	三、八〇〇	巖 松 堂	月 一 十	▲統一船荷證券法に就て論述せるもので、適用範圍、運送人の義務外五章。
小 町 谷 操 三	統 一 船 荷 證 券 法 論	洋函編	422	三、〇〇〇	岩 波 書 店	月 四	▲企業主體としての會社、社債の借換、英國に於ける會社の改造外廿四章。
栗 栖 赴 夫	見 法 律 上 の 會 社 の 整 理	洋函編	207	二、〇〇〇	春 秋 社	月 一	
鳥 田 武 夫	刑 法 概 論	並編	201	一、八〇〇	有 斐 閣	月 八	▲刑法の實踐的作用外十章。
小 野 清 一 郎	刑 法 講 義	並編	307	二、〇〇〇	有 斐 閣	月 一	▲現行刑法を體系的に取扱つたもので、刑罰法規と其の適用範圍外二篇。
宮 本 英 備	刑 法 大 綱	洋函編	290	二、〇〇〇	弘 文 堂	月 九	▲本書は定評ある「刑法學粹」を骨子とし之に著者その後の研究を整理編綴したるもの。
奈 良 正 路	刑 法 の 基 本 問 題	洋函編	514	四、〇〇〇	淺 野 書 店	月 一	▲刑法學はいかなる對象を求めらるか、刑法の進化と重點の轉移外四章にて論述。
瀧 川 幸 辰	刑 法 讀 本	布函編	196	一、三〇〇	大 畑 書 店	月 六	▲刑法典と刑法典、刑法學說、刑罰、犯罪、犯罪の成立を阻却する原因外三章にて論述。
栗 田 喜 代 二	刑 法 知 識	並四六	196	一、三〇〇	大 同 館	月 二 十	▲刑法總論に於ける全體を簡明に叙述せる書で、刑法緒論、刑罰の基礎知識外四章。

法律(訴訟法・調停法・判例)

伊達 俊一	政府説明纂輯	吉田 久	長島 毅	小原 直	池田寅二郎	福井才一郎	鈴木啓宏	普文學會編	野間 繁	松岡 義正	雄本 朗造	片山 通夫
金銭債務調停法解説	金銭債務調停法精解	金銭債務臨時調停法の實際知識	金銭債務臨時調停法解説	金銭債務臨時調停法義解	仲裁と調停	行現執行法令輯覽	の通俗化と訴訟の實際知識	刑事訴訟法要覽	脚註訴訟記録	新民事訴訟法註釋	民事訴訟法論文集	判例を中心とする民事訴訟法の諸問題
洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋三六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判
100	153	120	254	145	263	684	734	330	321	697	1450	492
三、七〇〇	一、七〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
清英社	中央社	出版ノ社内	清水書店	巖松堂	岩波書店	明倫館	普及法會	清水書店	章華社	清水書店	内外出版印	大同書院
月九	月九	月九	月九	月十	月一	月三	月四	月二	月五	月四	月四	月九
▲金銭債務調停法の解説。	▲非常時局に救済手段の一として新に制定公布せられたる金銭債務調停法の解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。	▲附則の四編にて解説。

法律(税法・警察・行政・雑法)

松倉恒次郎編	改訂市町村財務總覽	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編	加藤 恒次郎編
現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽	現行營業收益税・營業税・附加税便覽
洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判
1319	500	221	197	670	84	5500	1468	453	750	120	100	100	100
二、八〇〇	一、八〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	二、五〇〇	一、一〇〇	一、七〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
良書普及會	務大協會財	森山書店	森山書店	事日學會海	水大産會本	判日産會本	法律新聞社	有斐閣	明倫館	集會所	集會所	集會所	集會所
月一十	月七	月一	月二十	月二十	月六	月三	月八	月八	月二十	月十	月十	月十	月十
▲法令及例規、東京府市例規の二編。	▲地租法に關し、土地の異動、各種の免租等より見て必要と思はるる事項の概要を解説す。	▲地租法の主要なる部分と地租法の公布其他。	▲地租法の主要なる部分と地租法の公布其他。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。	▲昭和五年大審院判決の要旨を採録す。海難に關する唯一の公文書。

法律(警察・行政・雑法)

清水重夫	清水重夫	渡水重夫	田村豊	栗原隆平	渡邊宗太郎	渡邊宗太郎	帝國法律研究会編	小副川猛編著	柴田義彦編	尾山萬次郎	洪洋社編輯部編	高野瀬宗吉
警務	警務	警務	警察史研究	特高警察要綱	行政法講義	行政法講義	改正地方制度諸法規	行政立案指針	府縣市町村法規總覽	思想取締關係法令學例總覽	建築法規條文便覽	警務令
大系	大系	大系	法律系	特高警察要綱	行政法講義	行政法講義	改正地方制度諸法規	行政立案指針	府縣市町村法規總覽	思想取締關係法令學例總覽	建築法規條文便覽	警務令
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋三六	洋四六	洋四六	上油	洋四六	洋四六	洋四六	洋三五	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	製判	製判	製判	製判	布入判	布入判	製判	製判
371	377	279	306	210	210	660	156	689	351	147	174	174
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
警務研究会	警務研究会	良書普及會	克明堂	弘文堂	弘文堂	泰文館	新報社	巖松堂	巖松堂	莊人社	洪洋社	森山書店
月二	月二	月二	月五	月二	月二	月一	月一	月十	月十	月十	月十	月七
▲法の通論の意義、法の進化、法の適用、法の効力、権利の分類外八章。	▲犯罪と社會との關係、犯罪の主觀的要件、内亂に關する罪外五十四章。	▲警察制度の沿革及び警察法を中心として見たる社會の變遷並に警察法の推移を叙説す。	▲特高警察上の諸問題に就て述べたもので、特高警察の沿革、出版物の取締外十一章。	▲緒論、行政機關、行政知識、公物及營造物行政行為、行政監督、行政救済。	▲行政負擔法、保安行政法、化育行政法、財務行政法。	▲府縣制、市、町、村制、所得稅法、營業稅、工場法、農會法、選舉關係法其他數百。	▲内閣官報に現れた最近の事實を取材として討究せる一般法令立案上の參考書。	▲地方行政の現行法規の全般を収録せるもので、府縣制、都市計畫法其他。	▲治安維持法以下各種の思想取締關係法令を網羅す。	▲神社及び寺院に關する一切の法規を系統的に輯録せるもの。	▲市街地建築物法令を蒐録して索引を施せるもの。	▲七月一日から實施された改正汽船取締規則及原動機取締規則に解説を施せる書。

法律(警察・行政・雑法)

飯山包亮	津曲藏之丞	石野辰雄	協波・ビツク著	矢野兼三	平田慶吉	醫藥法規調査會編	綠川光雄	雜波榮松	杉江吉治	大日本水産會編	港優美	布施辰治	
銃砲火藥類取締法要義	労働法原理	カピタン労働法提要	労働	工場と地域制	損害賠償責任論	現日本衛生・醫藥法規全書	資本逃避防止法の解釋と運用	海事法	海上衝突豫防法	海陸通關受驗用海事法規問答	特許行政訴訟學說判決總覽	電燈・ガス法	
銃砲火藥類取締法要義	労働法原理	カピタン労働法提要	労働	工場と地域制	損害賠償責任論	現日本衛生・醫藥法規全書	資本逃避防止法の解釋と運用	海事法	海上衝突豫防法	海陸通關受驗用海事法規問答	特許行政訴訟學說判決總覽	電燈・ガス法	
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	
製判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	
236	503	863	960	187	284	415	166	222	263	150	861	160	
一〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	六〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
警限社	改造社	梓書房	協調會	森山書店	日本評論社	二松堂	大同書院	海洋社	海洋社	大産日會本	文精社	淺野書店	
月七	月九	月五	月九	月六	月九	月一	月八	月七	月九	月一	月二	月二	
▲銃砲火藥類取締法の一般解説、火藥類の安全檢定及不良品の措置外十二章。	▲労働階級と労働法の生成、労働法の史的發展、労働法の意義外六章にて論述。	▲カピタン及キヌウシユとの共著にかゝる労働法提要の全譯で、労働組織其他。	▲序論第一編労働行政―労働省産業諮問機關結核―結核と職業組合等。	▲市街地建築物法令の規定する地域制に就ての解説、工場と都市外八章。	▲損害賠償に就て考察した書で、損害の意義同特徴、同賠償責任、同法律的考察外二章。	▲醫藥關係の法規を細大洩らさず集録せるもので、醫藥關係法令外廿二章。	▲資本逃避防止法令の解釋、法令集、各國の爲替管理外一篇。	▲公立商船學校教科書として發行されたもの。	▲公立商船學校教科書として發行したるもの。	▲海上衝突豫防法の講義にして實例を掲ぐ。	▲船員法、海員懲戒法、船舶職員法、船舶検査法、船舶職員検査規程、船舶札規則及雜。	▲本書は特許實用新案意匠商標に關する過去數年間の學說と判決を輯録したるものなり。	▲電燈爭議戦術、法廷闘争とその手續、電燈爭議の組織に就て外三章。

博士 阿部賢一編 四六上製一千百頁 定價二圓五十錢 送料二十四錢

新經濟記事の基礎知識

別冊附録 金に關する各國法制度集 附呈

經濟は社會の根柢であり、其現象の活潑なる動きを反映する新聞の經濟面を完全に理解し判断し得ることは個人の生活の向上に於て必要なるは固より、一切の社會人に負はれたる義務でなければならぬ。本書は都下大新聞記者の精銳廿數氏が豊富なる經驗と知識とを傾倒して成れる共同著作であり、其内容は基礎的に通曉されべき、本書を座右にして平明、堂々たる此の活文字は悉く利用されて得ざる所なく、興味と利益は多大であらう。

法學博士 米田 實序 四六上製六百餘頁 定價二圓 送料十八錢
朝日新聞顧問 小川 節著 ★重要事項圖表彙集

新政治外交記事の基礎知識

別冊附録 經濟便覽 附呈

新聞は現代人の生活に缺くべからざる一部分であり、殊に其の政治外交記事に就いて正確な知識を有することは現代人に於て最も大切なる資格である。今日の政治外交は多事多端、其動向は複雑微妙を極む。著者は斯界の表裏を知悉せる人、其蘊蓄を披瀝したる此書は、現代の政治外交の歴史と組織とを簡潔平易に解剖説明して然も盡さるる所なき一巻のエンサイクロペディアを成し、本書に據れば如何なる新聞記事も其相互の關係に於て理解されしき公民讀本である。

一、經濟・商業

(7-1)

著者	書名	形態	頁數	定價	送料	發行所	月行發	內容大意
京都帝國大學教授 九州帝國大學教授 博士 田保馬	經濟學新講 第五卷 變動的理論	布入判	534	三三〇	二〇	岩波書店	六月	▲變動的理論の性質、前進變動的理論外五章にて變動的理論に就き論述。
中ノ大教授 博士 八木澤善次	經濟學序 第二冊	布入判	473	三〇〇	二〇	巖松堂	十月	▲第二冊は價值及び價格、幣及び金融、所得の三章にて論述。
大丸秀雄	チャップン經濟學原論	布入判	256	一、四〇〇	二〇	寶文館	九月	▲効用と需要、代位の法則と生活標準、分業の資本家的生産、市場と競争外十八章。
同志社大學教授 古原美貞	經濟學原論	布入判	450	一、四〇〇	二〇	内外出版印	四月	▲本書の特異とせる處は、其の制度派的、統計派的均衡派的思想體系。
中央大學教授 松浦要	理論經濟學講義 第一冊	布入判	160	一、八〇〇	二〇	巖松堂	九月	▲研究對象としての普遍的經濟概念、流通及び生産の問題其他にて論述。
高橋龜吉	經濟學の基礎知識 第一冊	布入判	533	一、五〇〇	二〇	千倉書房	八月	▲前者「實用經濟學」を増補改訂せる普及版で、生産の仕組外二編。
北澤新次郎	經濟組織論	布入判	465	三三〇	二〇	東京泰文社	五月	▲現代經濟組織の主要部分たる機械生産質銀制度並びに金融資本の理論的及實證的檢討。
東京商科大学 國立學會編	經濟學研究 第一卷	布入判	457	一、八〇〇	二〇	岩波書店	五月	▲古典經濟學に於ける市場理論の諸相(山口茂) 大黒常是考(幸田成友) 外八篇。

經濟・商業(經濟學・經濟史・經濟一般)

五二二

商學博士 田中 貢著	◇日本工業政策	¥ 3.00
商學博士 田中 貢著	◇鐵鋼及機械工業	¥ 3.50
商學博士 田中 貢著	◇蘭生糸の將來	¥ 2.50
明大教授 赤神良讓著	◇社會學入門	¥ 2.00
野田兵一著	◇新經濟面の讀み方	¥ 1.50
橋輝著 文部省推薦	◇野口英世博士傳	¥ 1.50
醫學博士 服部彌二郎著	◇榮養と食餌療法	¥ 3.50
醫學博士 正木不知丘著	◇家庭の醫學と治療法	¥ 2.00
國際聯盟事務局財政部並經濟部編纂	◇金に關する各國法制度集	¥ .50
各國貨幣法定平價換算表		¥ .06

東京市神保町二區 栗田書店

電話 〇二二二 田神話電
電話 二二二二 栗田書店
電話 二二二二 栗田書店
電話 二二二二 栗田書店

五二二

經濟研究會編 大阪商科大学經濟研究年報 第二號	大野信三 經濟科學綱要	長守善 經濟的財價の基礎理論 <small>（並文庫）</small>	鬼頭仁三郎 ケインズ貨幣論 <small>（並文庫）</small>	高後虎雄 新貨幣學入門	井口孝 人の貨幣價値	戸野原史朗 更生資本主義	正木千冬 戰爭經濟學	高橋清三郎 戰爭經濟學	高橋誠一郎 重商主義經濟學說研究	竹内謙二 重商政策發達史	古屋美貞 米國經濟學の史的發展	ブルイ・シユルツ 世界獨逸經濟學史
並編	上編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編
關判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
343	700	23	165	514	364	181	232	189	1082	388	750	220
一、三〇	三、八〇	四、〇〇	一、〇〇	四、〇〇	二、八〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
大同書院	教文堂	岩波書店	同文館	日本評論社	先進社	淺野書店	一元社	内外社	改造社	日本評論社	内外出版印	政經書院
月一十	月六	月二十	月七	月一	月四	月六	月一十	月八	月一十	月六	月六	月九
▲「我が國現在の免稅に就いて」小山田小七外七氏の研究論文をあつめたもの。	▲經濟史經濟原論經濟政策學財政學經濟學の五分科に於ける大小の問題悉くを論述せり。	▲バウエルクの「主観的價値の理論」及「客観的交換價値の理論」の二論文の全譯。	▲ケインズの貨幣論の譯述で、第一分冊は貨幣の純粹理論を收む。	▲貨幣の重要問題を理論並に實際に亘つて説述せる書で、貨幣とは何であるか外十八章。	▲金の換算した人間の價値、サラリーマンの經濟的價値外七篇。統計表及グラフ。	▲カエーバーの反マルクス主義的文獻の代表的な更生資本主義の譯で、官營事業外九章。	▲資本主義と戰爭、武器の私的生産の矛盾、わが軍事工業の成立其他、一書禁止。	▲戰爭の經濟的、海費者の定費外十四章。任意公債の方法、消費者の定費外十四章。	▲近世經濟思想の黎明期たる所謂重商主義時代の諸學說を敘述せる書。	▲字論、重商主義確立時代の佛蘭西、佛蘭西軍政策の成立過程、同確立結論。	▲ロツシヤアの獨逸經濟學史にも比すべき、米國經濟學史。	▲經濟學史就中獨逸のそれを簡潔に手際よくまとめたのが本書である。

松尾晋次郎 資本主義手經濟道德論	岡本利吉 經濟學確證	作田莊一 現代國民經濟の趨勢	高田保馬 經濟學の近況と世界の經濟動向	本谷悦治 近代資本主義發達史論 <small>（並文庫）</small>	坂本悦治 近代資本主義發達史論 <small>（並文庫）</small>	堀井實 フアツシズムの經濟理論と實際	大淵彰三 經濟史概説	堀經夫 經濟學史要論 <small>（並文庫）</small>	五島茂 支那古代經濟思想及制度 <small>（大阪商科大学研究會）</small>	野村兼太郎 世界經濟發展史論	野村兼太郎 レシエ英國經濟史及學說	
並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	
270	339	98	56	505	376	186	408	210	640	632	816	
二、五〇	一、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	六、五〇	四、〇〇	七、〇〇	一、五〇	一、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	
北文館	純眞社	青年教育會	青年教育會	改造社	改造社	東京書房	大倉廣文堂	弘文堂	内外出版印	岩波書店	同文館	
月五	月四	月四	月四	月六	月四	月二十	月六	月九	月四	月四	月二	
▲社會主義と資本主義とに對して經濟と道德との關係を論述せる書で、定義外十五章。	▲現在の行詰つた社會改革の方法を示せるもので、人類生活の基礎考察外四章。	▲個體觀と全體觀との對立、階級觀と全體觀との對立自然觀と意志觀外四章。	▲最近の世界的不況の原因及び其打開に就て論述せるもので、經濟學の近況外一篇。	▲下巻は金融業機械及び産業上の不景氣機械と労働の本質外四章を收む。	▲ホブソンの近代資本主義發達史論の譯で、近代資本主義の起源外八章。	▲フアツシズムの經濟理論と之れが實際を伊太利獨逸を中心に調査研究したるもの。	▲世界各地より求めたる資料を著者獨特の見解によりて農業經濟商業經濟に分類詳述す。	▲フアツシズムの經濟理論と之れが實際を伊太利獨逸を中心に調査研究したるもの。	▲古代支那の社會經濟政治の發展を示し其制度に就いて詳叙せる支那經濟史。	▲本分冊に於ては英國の重農主義者スミスの評註者及承繼者差益地代説創唱者につき論述す。	▲世界各地より求めたる資料を著者獨特の見解によりて農業經濟商業經濟に分類詳述す。	▲フアツシズムの經濟理論と之れが實際を伊太利獨逸を中心に調査研究したるもの。

高橋 渡	費 乏 の 科 學	洋四六 製判	353	一、三〇	日東書院	月二	▲貧乏に苦しむ人の各々の場合に就て説明せるもので、サラリーマンの没落外三篇。
小汀 利得	漫 談 經 濟 學	洋四六 布判	349	一、五〇	千倉書房	月二	▲再禁止を繞る泥試合、非合戦の内幕、街頭經濟諸相、婦人經濟學外七篇。
普文學會編	經 濟 學 要 覽	並三五 製判	294	八〇	清水書店	月二	▲總論（三章）生産（二章）交易（四章）所得消費三章。
普文學會編	經 濟 學 模 範 解 答	並三五 製判	318	六〇	清水書店	月二	▲經濟學一般論以下十章、試験問題及び解答を收む。
野田 兵一	新聞經濟面の讀み方	洋四六 布入判	426	一、二〇	栗田書店	月五	▲新聞經濟上の諸問題を平易に解説せるもので、新聞經濟面の概観外八章。1改訂版。
阿部 賢一編	新聞經濟記事の基礎知識	洋四六 布入判	1024	一、四〇	栗田書店	月二十	▲金融産業その他種ゆる經濟問題の最新解説書で、金融篇、景氣篇、取引所篇外八篇。
マルクス主義經濟學							
西廣 井 直吉	マルクス主義經濟學 第一卷	並四六 製判	422	一、二〇	叢文閣	月九	▲商品と貨幣、剩餘價値の生産勞賃、資本の蓄積過程と資本主義的蓄積の一般法則。
河野 重弘	經濟學の根本の問題	洋四六 布入判	475	二、五〇	共生閣	月七	▲マルクス主義經濟學の根本的諸問題に對する論争を收めた書。
獨逸 K・P 編	マルクス主義經濟學入門	並四六 製判	300	八〇	共生閣	月十	▲その帝國主義段階に於けるマルクス主義經濟學を平易に黨員教科書用として編じたもの。
河上 肇	資本論 入門	布四六 裝入判	966	三、三〇	改造社	月二十	▲「資本の生産過程」の研究で、商品および貨幣、貨幣の資本への轉形外五篇。1改訂版。
佐多 忠隆	新資本論 解説	並四六 製判	397	一、〇〇	改造社	月十	▲商品貨幣資本、剩餘價値、勞賃と資本主義收入資本の流通過程外一篇にて譯述。
草ヶ江 二郎	資本蓄積論 入門	並四六 製判	214	六〇	共生閣	月二	▲ローザルクセンブルクの資本蓄積論の翻譯で、再生産の問題外四篇。

笠 信太郎	資本の蓄積と崩壊の理論	洋四六 製判	814	五、三〇	改造社	月二	▲従来の論述に於ける資本主義の没落、崩壊法則、修正作用をなす反對傾向。
ウリヤノフ 著	マルクス地代論について	並四六 製判	122	四、五〇	共生閣	月二十	▲マルクスの絶対地代論を主要論文として、地代論に關する文獻總覽を附したるもの。
同盟研究會	生産力論	並四六 製判	177	六、〇〇	白揚社	月六	▲生産力と生産關係に就ての譯述、第一部のための研究資料附載。
オストロヴスキ 著	「マルクス主義經濟學」教程	並四六 製判	492	一、三〇	白揚社	月六	▲價値論、剩餘價値の生産、資本の再生産と蓄積、利潤及び生産價格論外四篇。
プロレタリア	マルクス主義勞働者教程	並四六 製判	78	二、三〇	叢文閣	月十	▲教案は地代、農業に於ける資本主義の發達外三章よりなる「剩餘價値の分配」。
プロレタリア	マルクス主義勞働者教程	並四六 製判	79	二、三〇	叢文閣	月十	▲教案はブルジョア恐慌論、マルクスの恐慌理論外二章より成る「經濟恐慌」。
リヤシチエン 著	農業經濟學	洋四六 布入判	661	二、八〇	南北書院	月三	▲農業經濟學の對象と方法、農業經濟學に於ける地代の問題外六章。
直井 武夫	農業經濟學	洋四六 布入判	661	二、八〇	南北書院	月三	▲前資本主義的經營形態並びに資本主義への過渡的經營形態外八章。
ドワイツキー 編	ニール經濟學教程	布四六 裝入判	534	一、八〇	共生閣	月九	▲徹底的にマルクス經濟學の急所を衝き、その誤謬を明示せる批判書。
高田 保馬	マルキシズムの經濟學的批判	並四六 製判	130	四、五〇	青年教育普及會	月四	
日本經濟史・資料							
松好 貞夫	日本兩替金融史論	洋四六 布入判	473	四、三〇	文藝春秋社	月十	▲商業資本と兩替商金融、兩替商金融の發達金銀價の對立と經濟生活外七章。
三井 高維	兩替年代記	洋四六 布入判	548	一、〇〇	岩波書店	月二十	▲今を距る八十餘年前に江戸に於ける兩替仲間共有の古記録を抜萃集成せる實録の校註。

大藏省編	德川理財會要	卷六	1223	二〇〇〇	白東社	五月六日	▲德川二百六十五年間財政に關涉する政令法規を蒐集して沿革の概要を編述せるもの。
草間直方	三貨圖彙	卷六	1246	二〇〇〇	白東社	五月五日	▲我國金銀錢三貨の鑄造及運賃に關する古今の沿革を詳細に記述せるもの。
高橋龜吉	德川封建經濟要研究	洋四六	480	二〇〇〇	先進社	四月四日	▲德川封建制度の經濟機構、幕末に於ける封建制度崩壊の經濟的研究外四篇にて論述。
小野武夫	郷土經濟史研究提要	洋四六	255	二〇〇〇	淺野書店	四月十日	▲日本認識と郷土學、郷土經濟學研究通則、郷土經濟史研究方法外五章にて論述。
田中靜夫	原始保險之史的研究	洋四六	576	二〇〇〇	交通經濟社	六月六日	▲德川時代以前以後の二篇に分ち上代中世三倉の制度備荒貯穀に關する學者の論說外九章
森喜一	日本資本主義發達序論	洋四六	302	二〇〇〇	白揚社	七月七日	▲封建的生產—支配體制の崩壊過程、資本主義成立の諸過程外一章にて論述。
西野喜與作	半世紀財界側面誌	洋四六	452	二〇〇〇	出洋經濟部	二月二日	▲明治中期の卷、紙幣整理後の狀勢、日清戰爭前後外二篇にて論述。
世界經濟事情							
猪谷善一	世界經濟學要論	洋四六	346	二〇〇〇	森山書店	五月五日	▲世界經濟下の時事問題に關する綜合的解説で、世界經濟論、世界商業論外三章。
奧野平	世界經濟知識	洋四六	102	二〇〇〇	銀行問題會	一月一日	▲英國の金本位制停止、金輸再禁止すれば我が財界はどうなる外八章。
青木孝義	世界經濟入門	洋四六	218	二〇〇〇	邦光堂	二月二十日	▲世界經濟の意義、世界經濟の發展過程、國際間に於ける人口移動外五章にて論述。
生島廣治郎	世界經濟の基礎概念	洋四六	423	二〇〇〇	寶文館	二月二十日	▲世界經濟の理論的及び實際的研究で、世界經濟の概念に關する學說の分類外十六章。
伊地知軍司	世界金融外交概論	洋四六	210	二〇〇〇	淺野書店	八月八日	▲世界金融外交の展開、佛蘭西の金融政策に關する論述。

木村八郎	世界金融恐慌の真相	洋四六	205	二〇〇〇	千倉書房	一月一日	▲金融外交外十七章にて世界金融恐慌に就て論述した書。
金子一助	世界恐慌と英國の對策	洋四六	136	二〇〇〇	森山書店	六月六日	▲大英帝國の動向、世界恐慌と英國の對策の二篇及び附録二三の事實及統計を收む。
佐倉重夫	世界經濟不況ノ現状及對策	洋四六	363	二〇〇〇	三菱經濟研究所	八月八日	▲各國に於ける不況の現状及對策外二篇十章附録五篇。
小島昌太郎	國民經濟組織の缺陷と世界恐慌	洋四六	300	二〇〇〇	雄風館	六月六日	▲世界經濟の發展と世界大戰に至るまでの恐慌史、世界經濟恐慌の原因外三篇。
加田哲二	國民主義と國際主義	洋四六	316	二〇〇〇	同文館	六月六日	▲自由資本主義における國際主義と國民主義外七章。
國際聯盟事務局	世界經濟不況の過程並に様相	洋四六	552	二〇〇〇	國際聯盟事務局	二月二日	▲現下の不況に至る戦後の經濟的發展の鳥瞰今日の景氣循環の様相外六章。
國際聯盟事務局	金本位制の職能	洋四六	309	二〇〇〇	國際聯盟事務局	九月九日	▲機構上の變化、職能上の變化、世界の金供給に適當なりや外五章にて論述。
國際聯盟事務局	國際金委員會最終報告書	洋四六	244	二〇〇〇	國際聯盟事務局	十月十日	▲第四十六回財政委員會に於て審議された報告書の譯で、戦後の金本位制外一部。
慶應義塾大學	恐慌と世界經濟	洋四六	499	二〇〇〇	丸善社	七月七日	▲統計圖表に據る實證を基礎に世界經濟の全貌を解剖せるもので、世界恐慌前史外八篇。
平尾彌五郎	世界恐慌と賠償債問題	洋四六	409	二〇〇〇	大畑書店	十月十日	▲ヴェルサイユからドーズ案への途、世界恐慌と賠償債新整理問題の展開外七章。
岡野鑑記	賠償及戰債問題	洋四六	627	二〇〇〇	森山書店	八月八日	▲事實的認識に立脚せる賠償及戰債問題の研究で、賠償問題の發生外十一章。
田中忠夫	支那經濟論	洋四六	612	二〇〇〇	中央公論社	十二月二十日	▲支那經濟の性質(潘東周)支那經濟問題研究(嚴靈峰)外八篇の譯述。
片山繁雄	佛蘭西の經濟破綻を再建したか	洋四六	171	二〇〇〇	世界實業社	七月七日	▲歐洲戰亂時に於ける佛蘭西の大統領ポアンカレの經濟政策を詳述せる書。

グアールガ著	世界經濟年報	並四六	製判	196	叢文閣	月十	▲一九三二年第二四半期に於ける經濟及び經濟政策を報じたもの、ドイツ政變其他、對する資本の總攻勢外四篇。
世界經濟恐慌	社會・經濟・勞働月報	並四六	製判	189	木星社	月七	▲世界經濟恐慌と勞働者階級の狀態、賃金に對する資本の總攻勢外四篇。
世界經濟恐慌	世界經濟恐慌月報	並四六	製判	120	木星社	月六	▲世界金融恐慌の渦巻(ラビンスキー)米國金本位制の危機(ターニン)外六篇。
世界經濟恐慌	世界經濟恐慌月報	並四六	製判	127	木星社	月七	▲暗然たる世界恐慌の展望、國際聯盟と現下の恐慌問題外八篇。
世界經濟恐慌	世界經濟恐慌月報	並四六	製判	136	木星社	月八	▲日本インフレーションと圓の危機、世界農業恐慌はどう展開するか外七篇。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報	並四六	製判	342	東洋經濟新報社	尺三	▲中國經濟と帝國主義の攻勢、我國軍需品工業の調査、日本に於ける金本位停止外一部。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報	並四六	製判	366	東洋經濟新報社	月六	▲國家總動員計畫に關する調査、恐慌下の婦人勞働と當面の重要性外二部。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報	並四六	製判	379	東洋經濟新報社	月九	▲第九輯はソヴェト聯邦の經濟的發展と日本の對立外三部より成る。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報	並四六	製判	314	東洋經濟新報社	月二十	▲第十輯は支那分割の運動とアチア問題の新たな段階外二部より成る。
朝日新聞經濟部編	朝日經濟年報	並四六	製判	413	朝日新聞社	月五	▲昭和六年一月一日より同十二月末日迄の我が國經濟の推移を述べた書。
全國經濟調查會編	日本經濟年誌	並四六	製判	720	先進社	月八	▲昭和六年に於ける我國經濟上の重要問題に就ての論述で、農林及水産業廿二項。
機關聯合會編	日本財政經濟論	並四六	製判	504	千倉書房	月一	▲日本の財政經濟に關する所有の統計を網羅し且つ詳細に説明した書である。

東洋經濟新報社編	日本戰時經濟の全貌	並四六	製判	195	東洋經濟新報社	月十	▲日本戰時經濟に就ての分析で、戦争と國家總動員計畫外四篇。
茂森唯士譯	日本經濟恐慌の研究	並四六	製判	261	木星社	月四	▲日本資本主義合理化過程(マルコフ)日本經濟市況の分析(ヴラブルガ)外四篇譯述。
時事新報經濟部編	外人に映る日本	並四六	製判	172	高瀬書房	月七	▲外人の眼に映つた日本經濟の現状觀で、日米經濟關係の動向外四篇。
井關孝雄	日本統制經濟論	並四六	製判	222	高瀬書房	月七	▲統制經濟運動の概要の一般と其原則等を論述せる書。
小島精一	日本計畫經濟論	並四六	製判	298	千倉書房	月六	▲日本計畫經濟論滿洲計畫經濟計畫經濟政策の發展過程の三篇にて論述。
上野陽一	計畫經濟と管理法	並四六	製判	292	千倉書房	月八	▲サヴェーエトロシアの産業五ヶ年計畫と管理法以下八章にて論述。
井關孝雄	統制經濟の基礎知識	並四六	製判	256	東京書房	月八	▲統制經濟、計畫經濟の基礎的理論の檢討で統制經濟に關する概念外三部。
山本勝市	經濟計算	並四六	製判	298	千倉書房	月九	▲計畫經濟に於ける基本問題たる經濟計算に就て論述せるもので、問題の意義外六章。
小島山直登	日滿統制經濟論	並四六	製判	296	創建社	月十	▲日滿統制經濟原論、日滿經濟統制政策、我が國の對滿政策外七章。
小島精一	日滿經濟ブロック問答	並四六	製判	109	千倉書房	月十	▲日滿經濟ブロックに就ての論述で、日滿經濟ブロック問答外二部より成る。
武藤山治	我財界の緊急對策	並四六	製判	179	千倉書房	月四	▲金輸出再禁止の善後處置に就て論述せるもの。附録金本位制撤廢と其對策外六篇。

大坂毎日新聞	東京毎日新聞	世界實狀研究會編	藤原俊雄	高橋龜吉	斯波武	經濟事情研究會編	熊平源藏	東京朝日新聞	河合良成	内外産業資料會編	日本經濟記者協會	山崎謙三
財界は何處へ行く	財界は何處へ行く	財界の戦慄	金再禁から財界復活の途へ	變革期の財界と其對策	金融・融・亡・國・論	債務棒引戰術	積極的に消費せよ	經濟國難の非常對策	非常時の經濟對策	非常時對策と經濟參謀本部設置の提唱	此の難局を斯く乗切れ	時局經濟叢書
布四六裝入判	布四六裝入判	布四六裝入判	布四六裝入判	洋四六布判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判
372	169	147	384	294	590	189	146	111	145	52	315	513
一、二〇〇	六、五	四、〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇八	四、五	四、三	四、〇	四、三	二、〇	八、〇	一、二〇〇
先進社	公望閣	極東書院	大同書院	千倉書房	一元社	歐亞社	先進社	新國際經濟社	千倉書房	内外産業資料調查會	文藝春秋社	千倉書房
四月	七月	三月	五月	五月	六月	一月	七月	六月	六月	八月	十月	十月
▲金解禁より金再禁に至る内外の經濟情勢を分析批判し今後の財界推移を觀測せるもの。	▲不況の病源は何？ 不景氣の解剖、明日の日本はどうなるかの三篇。	▲金輪再禁止に因る衝動、金輪再禁止は當然の歸結、經濟制度革新の必要其他。	▲金解禁後の金融政策と再禁止論、工業金融特に中小商工業の金融施設外二篇に論述。	▲金再禁の目的・効果と其達成方策、金再禁對策失敗の根本事情と其結果外二篇にて論述するもので、銀行業、今日の問題外二篇。	▲金融界の過去現在將來に互つて解剖檢討せるもので、銀行業、今日の問題外二篇。	▲借金の限界性、恐慌について、各階級と借金、借金棒引論外三章にて詳述す。	▲經濟の目的・積極的消費論の主張、積極的消費と其助勢外三篇。	▲經濟時局座談會の速記録で、爲替の前途及びその對策經濟國難打開の種々相其他。	▲經濟方策を創作せよ、日銀の態度改むべし兌換發行高の根據如何外十章。	▲統制經濟の發達過程、統制經濟とは何ぞや我國に於ける經濟參謀本部外三章。	▲非常時匡救議會と時局匡救資金の放出、爲替低落と財界の動向外一篇。	▲開爲替はどうなる？ (山崎謙三) 産業奉還論(安部磯雄) 外三篇。一書及一冊。

財政經濟時報社編	木村禮八郎	勝田貞次	石橋湛山	小汀利得	高橋龜吉	谷口吉彦	財政經濟時報社編	加藤直士	早川保太郎	高橋龜吉	鈴木憲久	
新國民經濟の理論と實際	日本經濟の危機	インフレーションはどうか	インフレーションの理論と實際	インフレ經濟時代	時局とインフレーション	ネオ・イン購買力補給案	通貨と景氣の理論解説	景氣轉換論	景氣變動論入門	景氣の曙光を探る	景氣轉換期	不景氣からファツシヨへ
並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判
111	109	213	382	355	250	307	100	171	294	229	417	341
四、〇	四、三	六、〇	八、〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	四、〇	一、三〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、五〇
財政經濟社	文新社	時事新報社	東京書房	高橋書房	淺野書店	千倉書房	財政經濟社	千倉書房	南北書院	新國際經濟社	千倉書房	淺野書店
十月	九月	四月	七月	二十	八月	八月	五月	六月	五月	四月	十月	九月
▲國民經濟改革論で、日本經濟革新の理論、ファツシヨムと分配關係に及ぼす影響外三篇。	▲自力更生で不況は救はれるか？、インフレーションと分配關係に及ぼす影響外三篇。	▲インフレーションの意義、可能性等に就て究明せるもので、通貨と金との關係其他。	▲金輸出再禁止の理論とインフレーション、金本位制度の改造外一篇。	▲物價暴騰時代の心得、景氣は果してよくなるか、農村よ何處へ行く？ 外十九章。	▲時局匡救インフレーションの意義と機能、インフレーションの批判外九章。	▲恐慌の深化とその打開策、景氣轉換の必要と可能、ネオ・インフレーション外七章。	▲通貨政策及び景氣變動の二問題に就ての究明、附平價切下論の根本精神外一篇。	▲國際經濟學の泰斗ベインシュの「景氣轉換論」の譯述で、世界の現状外廿一章。	▲近代景氣論の方法論的根柢を詳細に取扱つたもので、景氣と景氣科學其他。	▲景氣恢復は何故遅れるか、科學者の見た世界不況の第一理由外十六章にて論述。	▲景氣の底入轉換、經濟基礎の變革、財界の推移等三編よりなる論文集。	▲我國國民經濟の現實に就ての景氣觀察で、景氣觀察我國國民經濟の實勢外二章。

金・通貨・爲替問題

大口二郎	日本好景氣の原理	並四六製判	95	特三〇〇	雄文閣	月二十	▲日本好景氣の原理を一般の人に解り易い様に述べたもので、物價問題の解決外八章。
勝田貞次	景氣回復の實証的研究	並四六製判	96	三〇〇	景氣研究所	月十	▲景氣回復の原理を理論的實際的に考察せる書。改訂版。
猪俣津南雄	金の經濟學	洋四六布判	932	一、五〇〇	中央公論社	月五	▲大衆の關心最も深熱な諸問題を取扱つて解説せるもので、貨幣としての金を中心に其他に關する諸問題外五篇にて論述。
片山繁雄	金及通貨論	洋四六布入判	564	二、八〇〇	出版部	月十	▲金本位の意義、作用及び將來(山崎覺次郎)過渡的金本位(春日井憲)外十五篇及附録。
東洋經濟新報社編	金本位制の研究	洋四六布入判	612	二、四〇〇	出版部	月五	▲金恐慌問題を論じた書で、金本位運用上の矛盾と金恐慌の後に來るもの外六章。
高島佐一郎	金本位の後に來るもの	並四六製判	362	一、三〇〇	千倉書房	月九	▲金の主要運動に就て實証的に論述せる書で金の武裝抗爭、金の世界的波浪の二篇。
繪所陣平	金の武裝抗爭	並四六製判	402	一、〇〇〇	同人社	月四	▲一九三一年世界的にまき起された金恐慌に就て述べたもので、英貨の偉力外十二章。
渡邊進	此の金恐慌	布四六製判	218	一、三〇〇	千倉書房	月四	▲英國の金本位停止に就て論述した書で、金貨の悲劇以下十九章。
伊地知軍治	金の悲劇	上四六製判	189	一、三〇〇	先進社	月四	▲「圓」の悲劇、インフレーションの解説、貨幣制度の現状と將來外一章。
木村禧八郎	圓の悲劇	並四六製判	169	六〇〇	木村書房	月六	▲世界不況原因の一部としての金の問題、世界の状況外二篇。
淺野未太郎	金の急務	洋四六布入判	87	一、八〇〇	先進社	月二	▲平價切下の効果影響可否其他に就て論述せるもので、平價切下の對外的價值其他。
勝田貞次	富の分布か新平價か?	洋四六布判	291	一、三〇〇	千倉書房	月六	

井上準之助	金再禁止と我財界の前途	並四六製判	110	三〇〇	千倉書房	月二	▲金本位制の破壊、再禁止後の我財界外十二篇。附録に於ける平價切下の真相其他。
武藤山治	金再禁止善後處置研究資料	並四六製判	22	二〇〇	國民同志會	月三	▲金本位撤廢論者の勝利—金本位制度の崩壊—債權國の採るべき政策。
朝日新聞社編	金再禁止早わかり	並四六製判	118	四〇〇	朝日新聞社	月一	▲金輸出再禁止早わかり問題、金輸出再禁止是非の論争外二章。
貴島桃味	大富豪の弗買戦と政變の真相	並四六製判	126	四〇〇	經濟タイムズ社	月二	▲金本位制擁護と金再禁止外二章。附録今後の日本景氣を左右する世界の經濟事情其他。
關顯雄	井上前蔵相とドル賣	並四六製判	54	三〇〇	駿南社	月二	▲ドル賣篇(ドル賣の真相外二項)井上前蔵相篇三項。
鈴木三星	大富豪の弗買戦と政變の真相	並四六製判	51	二〇〇	經濟報社	月二	▲政界稀有の謎以下二十五項。
森田久	弗買の解剖	並四六製判	149	四〇〇	千倉書房	月一	▲弗買と弗買の罪過論、金再禁止と財界外五章。附録外國爲替の解説其他。
關顯雄	爲替相場の騰落	上四六製判	262	一、三〇〇	先進社	月七	▲外國爲替全般の知識を平易に説けるもので外國爲替の實際外四篇。
宮川貞一郎	爲替はどうかなる	並四六製判	350	八〇〇	高瀬書房	月十	▲國際經濟と外國爲替市場の解剖、購買力平價説を中心として外四章にて論述。
山崎純	圓爲替はどうなる	並四六製判	113	四〇〇	千倉書房	月九	▲金本位停止下のわが圓爲替、圓爲替暴落とその將來、金本位はどうなる外一章。
鈴木益三	爲替相場變動と爲替管理	並四六製判	300	一、〇〇〇	東京書房	月一十	▲爲替相場論、爲替管理論、我國爲替管理法解説の三部。
大久保一路	爲替管理の運用と其影響	並四六製判	159	六〇〇	高瀬書房	月六	▲諸外國の實例に基いて爲替管理の本質、及運用を平易に説明せるもの。
大久保一路	爲替管理の發動	並四六製判	159	四〇〇	高瀬書房	月二十	▲爲替管理の本質、爲替管理の效果、貿易管理の得失外九章。附録制經濟主義の擡頭其他

有本 歡之助	久保田 與喜智	山口 幸輔	來多武 六	結城 禮一郎	細木 盛枝	瀨田 大次郎	白柳 秀湖	等々力 太郎	大阪毎日新聞 經濟部編輯	小川 見太郎	
利殖と金儲の近道	小資有價證券利殖要訣	目指すは百萬兩	豪商蓄財術物語	黄金狂物語	家作を貸す秘訣	小口利殖學	現代財閥罪惡史	三井財閥展望	經濟風土記	財政學	
洋四六 布入判 384	洋四六 布入判 201	洋四六 布判 357	洋四六 布入判 515	洋四六 布入判 412	洋四六 布入判 372	洋四六 布判 208	洋四六 布判 376	洋四六 布判 111	洋四六 布入判 509	洋四六 布入判 391	
一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	
日實本業社	版第一會出	大日書房	誠文堂	白永社	田口書店	高瀬書房	千倉書房	聯合情報社	刀江書院	鐵塔書院	
月二	月四	月八	月一十	月九	月五	月八	月五	月六	月一十	月四	
▲事實に即して投資の方法を説けるもので、株式の巻、公債社債の巻外二部。	▲素人が小資本で副業的に出来るやう説いた株式金儲手引書で、處世の道其他。	▲スビード時代の金儲けの道を述べたもので、目指すは百萬兩、米相場必勝戦術外十篇。	▲我國各時代の金儲話しを蒐めた書で、大名、吹ひの鳥井宗寶其他。	▲金儲物語で、ヤンキー式事業家、支那人式の騙術の二篇。	▲貸家のこと一、家賃を貸す工夫、家賃を取り立てる工夫。附貸家に關する法規。	▲少資本を運用しての利殖學に就て述べたもので、利殖には何をすべきか外十六篇。	▲過去現在に互る政黨の墮落を如實に物語る政界と財界との暗黒面を描く。	▲三井の傳統的指導精神、三井の財閥的沿革直系六會社の陣容外五章。	▲岡山、廣島、山口、鳥根、鳥取を合せた中國經濟風土記。	▲財政學全般に亙つての統一的體系をなせる論述で、緒論、經濟論、收入論外三篇。	▲財政學を國民經濟理論の立場から研究せるもので、經費、收入外一節。

阿部 ヒュン	木下 アヲ	神戶 正雄	藤田 主計	河田 烈	大坂商科大學 經濟研究所	神戶 正雄	青木 得三	藤田 正憲	森田 優三	川 虎三
財政	フアツシヨ財政批判	赤字時代の財政諸問題	非常時の財政經濟策	帝國歲計豫算の話	我國最近の地租問題	地方稅改革問題	租稅講話	相續稅の話	統計概論	統計利用に於ける基本問題
洋四六 布入判 391	洋四六 布判 310	洋四六 布入判 260	洋四六 布判 28	洋四六 布判 142	洋四六 布判 339	洋四六 布入判 167	洋四六 布入判 230	洋四六 布入判 293	洋四六 布入判 315	洋四六 布入判 364
一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	一、二、三
鐵塔書院	高瀬書房	出立命部館	新使命社	龍吟社	大同書院	出立命部館	改造社	千倉書房	森山書店	岩波書店
月四	月二十	月一十	月二十	月四	月三	月一十	月三	月九	月二十	月二十
▲財政學を國民經濟理論の立場から研究せるもので、經費、收入外一節。	▲イタリイの一般狀勢とフアツシズムの財政觀念、工業恐慌外十二章。	▲赤字時代に於ける財政諸問題に就ての論述で、財政全局問題、經費問題外四部。	▲齊藤内閣は非常時匡救に何等の信念を有せずと、金融財政經濟各般の新政策を説く。	▲豫算の編成・豫算提出の順序・豫算の審査豫算の成立・豫算の執行・内容其他卅一項。	▲改正地租法の意解明をすると共に「地租委讀問題」の分析批判を試みたもの圖表五六。	▲市町村稅制の改正、租稅の賦課機關、家屋稅の科管家屋稅の果進の四編にて論述。	▲總論、各論(所得稅、地租、營業收益稅、資本利子稅、相續稅外十五章)。	▲何故相續稅を課するか、各國の相續稅制度我が國相續稅の沿革外十六篇にて説述。	▲大學専門學校に於ける統計學教科用又は參考用たるを目的とせる書で、統計數列外二篇。	▲統計利用に於ける基本的な統計方法上の問題に就て述べたもので、統計の概念外四章。

神戶正雄	東京朝日新聞編輯	東京朝日新聞	新滿洲國の經濟事情	上欄編	製入判	94	一、〇〇〇	八〇〇	一月一十	▲滿洲國の財政稅制關稅及び經濟一般に就ての研究で、滿洲國の財政外三章。
大谷實	東京朝日新聞編輯	東京朝日新聞	滿洲國の經濟建設	上欄編	製入判	225	一、〇〇〇	六〇〇	一月七	▲新滿洲國の全面的な經濟狀態に就て述べたもので、貨幣制度と金融外九章。
東京朝日新聞編輯	東京朝日新聞	東京朝日新聞	滿洲國の經濟建設	上欄編	製入判	306	一、〇〇〇	二、二〇〇	一月五	▲新國家の創生とその對日政策、新國家の財政々策、滿洲の有望工業外六章。
報知新聞經濟部編輯	報知新聞經濟部	報知新聞經濟部	滿洲國の開發	洋四六	布判	241	一、二〇〇	八〇〇	一月四	▲滿洲開發と現在日本の經濟不況との關係等を主眼に論述せる書で、日本の生命線其他。
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	對滿經濟政策に關する各種意見	並編	製判	53	四〇〇	四〇〇	一月八	▲各方面にて發表せられし意見を集めたものである。
石田七郎	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿支經濟關係の一考察	並編	製判	62	四〇〇	四〇〇	一月一十	▲滿支經濟關係の端初、變革、發展、移住民貿易等に及ぶ。
小泉吉雄	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	列國の對滿資本輸出について	並編	製判	85	四〇〇	四〇〇	一月十	▲借款、合算、非合算に互り部門別に會社の状態を資本、能力、商品取扱に至る迄調査す
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿洲經濟の發達	並編	製判	98	四〇〇	四〇〇	一月八	▲滿洲經濟の世界經濟への結合過程より説き起し各部門に分ちて發達の指標を示す。
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿洲通貨統計	並四六倍	製判	50	四〇〇	四〇〇	一月五	▲滿洲に於ける經濟統計の重要なもののみを網羅せるもの。
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿洲貿易詳細統計	上欄編	製判	404	八〇〇	三〇〇	一月一十	▲B編は貨幣相場編である。
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	昭和三十六年滿洲貿易年報	並四六倍	製判	135	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一月九	▲大連、營口、安東縣、ハルビン區に於ける貿易の詳細なる統計である。
滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿鐵經濟調查會	滿洲の産業とその資源	並四六倍	製判	280	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一月八	▲毎年刊行の「北支那貿易年報」を六年版より改題したのである。
南滿洲鐵道株式會社	南滿洲鐵道株式會社	南滿洲鐵道株式會社	滿洲の産業とその資源	並四六倍	製判	745	三、五〇〇	一、四〇〇	一月六	▲滿洲調查書中より産業及びその資源に關するもの、のみを蒐録した書。

參謀本部編輯	參謀本部編輯	參謀本部編輯	滿洲産業統計圖表	並編	製判	68	一、二〇〇	八〇〇	一月六	▲地形、氣候、人口移民、耕地面積、家畜其他四種に分ちして六十五の統計圖表を收む。
參謀本部編輯	參謀本部編輯	參謀本部編輯	滿洲資源要覽	並四六倍	製判	135	一、〇〇〇	八〇〇	一月六	▲面積及其他六類にて各種統計を收む。
内外産業資料會編輯	内外産業資料會編輯	内外産業資料會編輯	滿洲國資源提要	並編	製判	87	四〇〇	四〇〇	一月六	▲滿洲國資源の實態を最も簡明に紹介せるもので、滿洲概観、農産篇、畜産篇外三篇。
門多榮男編輯	門多榮男編輯	門多榮男編輯	滿蒙商取引總覽	洋四六	布入判	745	三、五〇〇	一、四〇〇	一月六	▲各方面から蒐集した貴重な滿蒙商業關係文獻の集大成で、重要物産と其商取引外二部。
カウツキ一著	カウツキ一著	カウツキ一著	農業經濟學	洋四六	布入判	734	二、八〇〇	二、三〇〇	一月二十	▲カウツキ一の「農業問題、近代的農業の諸傾向の概観と社會民主黨の農業政策」の全譯
近藤康男著	近藤康男著	近藤康男著	農業經濟學	洋四六	布入判	462	三、五〇〇	一、四〇〇	一月四	▲農業の諸問題を經濟過程に關聯して考察せるもので、食糧及び原料市場外四章。
直井武夫著	直井武夫著	直井武夫著	マルクス主義農業經濟學	洋四六	布入判	710	二、八〇〇	一、八〇〇	一月三	▲マルクス主義の農業理論は本書によつて始めて確立されたと云はれる權威書。
中澤辨次郎	中澤辨次郎	中澤辨次郎	都市經濟と農村經濟	並四六	製判	255	一、二〇〇	八〇〇	一月一十	▲最近の都市及農村の社會的經濟的的政治的諸關係に就て論述せる書。
石坂橋樹	石坂橋樹	石坂橋樹	農村庶民金融	洋四六	布入判	109	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一月四	▲農業金融に就ての究明で、農業信用の性質農業信用の種類外五章。
谷口吉彦	谷口吉彦	谷口吉彦	米專賣の問題	並四六	製判	165	四〇〇	四〇〇	一月八	▲米專賣の諸問題に就て論述せるもので、米專賣の理論、米專賣の効果外一章。
財政經濟時報編輯	財政經濟時報編輯	財政經濟時報編輯	米專賣の可否	並編	製判	76	四〇〇	四〇〇	一月七	▲米專賣法私案につきて（鈴木梅四郎）以下十二篇。
藤岡啓	藤岡啓	藤岡啓	米穀問題は踊る	並四六	製判	164	六〇〇	六〇〇	一月二	▲國民經濟の危機、列國の政策わが國の米穀政策外二篇にて論述。

經濟・商業(産業一般)

八木芳之助 京都帝國大學助教授 米價及び米價統制問題	朝倉昇 平北道財務部長 米價對策・米の賣り時	宇原義豊 日本産業革命論	野村證券調査部 低額と向上期の主要産業	平井泰太郎 産業合理化圖録	日本經營學會編 産業合理化と失業	三上正毅 産業資本主義組織	高垣寅次郎 産業心理學	東亞經濟調査局編 本邦に於ける米の需給	東亞經濟調査局編 本邦に於ける棉花の需給	東亞經濟調査局編 支那紡績業の發達と その將來	滿鐵調査課 滿洲大豆及其工業の前途	東京市商工課編 東京市に於ける中小商工業者の實際	東京市役所編 東京市に於ける中小商工業者の實際	松村金助 日本工業地帯の展望	協同組合	山崎勉治 協同組合の歴史	本位田詳男 協同組合の歴史	城西消費組合編 國際消費組合運動	ウヰツ子著 英國婦人消費組合運動	正田淑子著 英國婦人消費組合運動	交通經濟・交通一般	橋本敏雄 航空經濟政策論	島田孝一 自動車運送の經濟學的研究
洋面編 布入判 226	洋面編 布入判 749	並編 製判 330	並編 製判 389	洋面編 布入判 839	洋面編 布入判 255	洋面編 布入判 284	洋面編 布入判 325	洋面編 布入判 114	洋面編 布入判 163	洋面編 布入判 110	並編 製判 21	洋面編 布入判 218	洋面編 布入判 279	上四六 製判 337	洋面編 布入判 406	洋面編 布入判 372	並四六 製判 327	洋面編 布入判 274	洋面編 布入判 274	洋面編 布入判 427	洋面編 布入判 361		
二〇〇	四八〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
有斐閣	明文堂	千倉書房	千倉書房	春陽堂	同文館	大阪屋號	千倉書房	東亞經濟局	東亞經濟局	東亞經濟局	滿鐵	工政會	工政會	出版部	古今書院	日本評論社	日本評論社	日本評論社	同人社	同人社	有斐閣	丸善	
月九	月二	月一十	月一十	月一	月九	月一十	月四	月四	月七	月四	月三	月二	月九	月二十	月二十	月二十	月二十	月三	月三	月二十	月七		
▲米價問題に就ての研究で、米價構成の研究 米價統制の研究の二篇十章。	▲米の賣り時、米價對策の要點二・三、米穀 調査會の諸提案に對する批判並に私見他六項	▲我國の産業統制、電氣事業の國策、科學的 管理法の應用、業務刷新の訓練外二編。	▲爲替暴落を中軸として主要産業の産生力を 検討せるもので、紡績業外九編。	▲經濟學に關する各般の論説を收めたもので 總編、企業組織篇外六篇及附録、索引。	▲産業合理化と失業(赤松要)産業合理化の 諸問題(中島久萬吉)外十八篇。	▲米國の經濟組織殊に其産業の狀態を詳述せ るもので、生産、分配、研究外六章。	▲産業心理に關して唯一の研究文獻である。	▲内地に於ける米附滿洲に於ける米(並製八〇〇) 臺灣に於ける棉花附滿洲に於ける棉花製心	▲内地に於ける米附滿洲に於ける米(並製八〇〇) 臺灣に於ける棉花附滿洲に於ける棉花製心	▲一、支那紡績業の沿革 二、支那紡績業の 發達原因 三、支那紡績業の現勢其他	▲滿蒙主要物産の大豆及其工業に對する研 究を江湖に紹介する爲めのパンフレット。	▲東京市が特別調査をして調査せるもので上 巻は資本篇仕入篇。	▲下編は東京市の中小商工業者のうち金融競 業及協力、家族外二部に就て叙述。	▲日本の産業界が今後如何なる動向を辿るべ きかに就き正しき認識を與へてゐる。	▲日本消費組合運動の全般に亘つて述べたも ので、歴史時代外一篇。	▲歐洲の農村協同組合を紹介せる書で、ドイ ツ、イタリイの農村協同組合外四章。	▲世界經濟恐慌と勤勞大衆、國際協同組合聯 盟、ドイツ協同組合運動外二章。	▲英國婦人消費組合ギルドの物語を收めたも ので、英國婦人消費組合運動の起源外十七章。	▲政策的見地から一個の體系を具へた航空經 濟政策論で、航空發展政策論外十一章。	▲自動車運送の眞價と影響、自動車による貨 物の運送、自動車保險外十章にて論述。			

經濟・商業(協同組合・交通經濟・交通一般)

東亞經濟調査局編 支那紡績業の發達と その將來	滿鐵調査課 滿洲大豆及其工業の前途	東京市商工課編 東京市に於ける中小商工業者の實際	東京市役所編 東京市に於ける中小商工業者の實際	松村金助 日本工業地帯の展望	協同組合	山崎勉治 協同組合の歴史	本位田詳男 協同組合の歴史	城西消費組合編 國際消費組合運動	ウヰツ子著 英國婦人消費組合運動	正田淑子著 英國婦人消費組合運動	交通經濟・交通一般	橋本敏雄 航空經濟政策論	島田孝一 自動車運送の經濟學的研究
洋面編 布入判 110	並編 製判 21	洋面編 布入判 218	洋面編 布入判 279	上四六 製判 337	洋面編 布入判 406	洋面編 布入判 372	並四六 製判 327	洋面編 布入判 274	洋面編 布入判 274	洋面編 布入判 427	洋面編 布入判 361		
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇		
東亞經濟局	滿鐵	工政會	工政會	出版部	古今書院	日本評論社	日本評論社	同人社	同人社	有斐閣	丸善		
月四	月三	月二	月九	月二十	月二十	月二十	月五	月三	月三	月二十	月七		
▲一、支那紡績業の沿革 二、支那紡績業の 發達原因 三、支那紡績業の現勢其他	▲滿蒙主要物産の大豆及其工業に對する研 究を江湖に紹介する爲めのパンフレット。	▲東京市が特別調査をして調査せるもので上 巻は資本篇仕入篇。	▲下編は東京市の中小商工業者のうち金融競 業及協力、家族外二部に就て叙述。	▲日本の産業界が今後如何なる動向を辿るべ きかに就き正しき認識を與へてゐる。	▲日本消費組合運動の全般に亘つて述べたも ので、歴史時代外一篇。	▲歐洲の農村協同組合を紹介せる書で、ドイ ツ、イタリイの農村協同組合外四章。	▲世界經濟恐慌と勤勞大衆、國際協同組合聯 盟、ドイツ協同組合運動外二章。	▲英國婦人消費組合ギルドの物語を收めたも ので、英國婦人消費組合運動の起源外十七章。	▲政策的見地から一個の體系を具へた航空經 濟政策論で、航空發展政策論外十一章。	▲自動車運送の眞價と影響、自動車による貨 物の運送、自動車保險外十章にて論述。			

日本交通協會	交通事業の合理化	洋四六 布入判 220	一、八〇	通日 協本 會交	三月	▲各種交通事業の合理化及統制に關する學理と實際を各専門家が講述せるものなり。
通信省管船局	昭和六年海運概況	並編 製判 260	一、五〇	事日 學本 會海	二月二十	▲世界及我國の海運に關する一切の數字を網羅し、詳細且正確、資料として價値大なり。
ギ杵春水譯著	海運賃率論	洋四編 布入判 529	三、〇〇	森山書店	八月	▲海運同盟並に賃率制度に關する研究で、海運賃率發生論、海運賃率制度外一編。
瓜生卓爾	鐵道經濟の話	洋四編 布入判 280	二、〇〇	日鐵 本道 社之	五月	▲鐵道經濟に關する一際の研究書。
中島幸三郎	鐵道ロマンス	並四六 製判 180	一、〇〇	日鐵 本道 社之	三月	▲からくり儀右衛門の生涯、井上鐵道守と富貴樓お倉別府温泉ロマンス外十二篇の物語。
高橋有造	鐵道旅客運送	布編 製判 340	一、〇〇	出東 版書 會籍	十一月	▲出札事務、職責、出納、記帳、其他旅客取扱、乘車券、運賃、急行料金、寢臺券其他。
高橋有造	鐵道旅客運送	布編 製判 238	一、〇〇	出東 版書 會籍	十一月	▲改札並車掌事務、各種乘車券の取扱方、拂戻、手廻品其他。
石田靖一編	最新鐵道線路地圖	布折疊 製式珍 1	二、〇〇	鐵道研究社	四月	▲國有鐵道、地方鐵道及軌道、殖民地鐵道、連帶自動車及航路、滿洲國及中華民國各鐵道。
石田靖一編	鐵道停車場一覽	洋三五 布判 290	四、七〇	鐵道研究社	十一月	▲國有鐵道、地方鐵道、軌道、殖民地鐵道、連帶自動車及航路、五十番別々難讀譯名表。
山澤見道	鐵道年鑑と日誌	洋四六 布判 510	一、五〇	日事 業興 信	十一月	▲鐵道省高等官を始め各鐵道局指名請負人と八年度の日誌。
帝國飛行協會編	日本航空殉難史	並四六 製判 73	四、五〇	行帝 協國 會飛	十月	▲自昭和六年十月至昭和七年十月航空殉難者六十名の履歷。
帝國飛行協會編	七年航空年鑑	洋編 布判 675	三、三〇	行帝 協國 會飛	七月	▲世界現代に於ける軍事、民間航空情勢一斑、飛行機要目、航空機製作會社外數十項。
渡邊普二郎	通信事業經營論	洋四六 布入判 360	二、〇〇	交通經濟社	九月	▲通信事業經營論の對象と其方法、政策決定、料金決定要素たる價値と費用、外四章。

竹井十郎述	我南洋貿易を阻害する華僑の真相	並編 製判 91	四、〇〇	東亞 經濟 局	七月	▲一、華僑二、華僑とその商業三、華僑と破産四、華僑とポイコット外三篇。
門多榮男	關稅改正の基礎とその影響	洋四六 布判 154	二、〇〇	料內 外產 業資 會	七月	▲概説（一）産業保護を目的とせるもの二十三種（二）從量稅附加稅を附課せるもの十三種
滿鐵經濟調查會	改訂支那關稅制度綱要	並編 製判 68	二、〇〇	滿鐵	十月	▲支那關稅制度の要を抽出し大綱を敘述す。
東京商科大学	商學研究	並編 製判 303	二、〇〇	岩波書店	二月	▲衝突損害と海上保險との關係（藤本幸太郎）鐵道特定貨物賃率の研究（渡邊大輔）外六編。
增地庸治郎	商業通論	上編 製入判 344	一、五〇	千倉書房	九月	▲最新の材料を基礎として述べられた同書類中最新のものである。
ブラント著	公企業論	布四六 製入判 250	一、五〇	章華社	五月	▲公團體の經濟的活動に就ての究明で、發展史餘論、社會學的基礎外三章。
東洋經濟新報社編	事業會社經營效率の研究	洋四六 布判 390	三、〇〇	東洋 經濟 部	一月	▲我國事業を代表せる諸會社決算の諸數字を整理せる書で、解説、統計の二部より成る。
佐藤七郎	社債の理論と實際	洋編 布入判 418	二、八〇	文雅堂	四月	▲社債の理論と實際とについて包括的に述べたもので、事業資金の調達と社債外四篇。
シエマレーバ著	社債の理論と實際	洋編 布入判 599	四、〇〇	同文館	九月	▲會社企業就中株式會社企業資本の處理法に就て論述せるもので、企業の評價外十編。
野村男三	會社設立と清算の話	洋四六 布入判 243	一、五〇	高瀬書房	十月	▲合名會社及び合資會社との設立と清算に就て實務方面より記述せる書。

金融・信託・保險		銀行・爲替	
西野喜與作	金融讀本	町田義一郎	英蘭銀行史論
貴島桃隆	不動産金融の知識	中村太郎	郵便年金の話
貴島桃隆	不動産金融とサラリーマン金融の仕方	友田健二郎	圓の危機に脅ゆる生命保險
前馬治一	金融政策十四年	星豊三	生命保險社施設論
江口行雄	投資信託論	末高信	社會保險の本質
高瀬書房	高瀬書房	森山書店	丸善社
高瀬書房	高瀬書房	千倉書房	式會社
高瀬書房	高瀬書房	森山書店	賢文館
高瀬書房	高瀬書房	千倉書房	保險實務社
高瀬書房	高瀬書房	森山書店	育社會會教
高瀬書房	高瀬書房	千倉書房	日本評論社
高瀬書房	高瀬書房	森山書店	研究會

取引所・市場・商品	
山根重男	コーポラル取引論
N.パロウ著	サヴェイトロシアに於ける協同組合銀行
藤田秀夫	銀行預金實務
梶尾謙	銀行簿記及實務
原靜	銀行實務誌
梶尾謙	銀行簿記及實務
大間知庸吉	外國爲替實務誌
森田久	外國爲替の實際知識
池田政雄	外國爲替要諦
向井鹿松	綜合取引所論
長満欽司	株式取引所機能論
熊田克郎	新インフレーション時代の株式市場

▲金融知識の通俗化を目標として論述せる書で、資金の種々相外一篇。
▲金融經濟上最も不備とされてゐる不動産金融に關する諸知識を平易に紹介す。
▲不動産金融に關する諸知識を分り易く説述せるもので、不動産金融の緊急處置二篇。
▲マツマンナの「戦後の金融政策」の全譯に其の後の論文五篇を添へたもの。
▲英米兩國の投資信託の歴史的發展と經營方針を總括に論述せる書。
▲社會保險の概念、社會保險の接續領域、社會保險の統一外一章にて論述。
▲破保險者福社事業の意義及効果、諸外國及本邦に於ける實際其他を解説論述せるもの。
▲圓貨の不信用と其の生命保險への影響、生命保險會社の選り方とその内容外一篇。
▲郵便年金の使命、郵便年金制度の内容、郵便年年積立金の運用外七章。

▲コーポラルの概説、我國コーポラルの沿革、ビルブローカー、コーポラルの意義外八章にて論述。
▲ソヴェイト社會主義共和國聯邦に於ける協同組合銀行の實狀を直載に紹介したるもの。
▲銀行預金の實務的智識を説ける書で、預金事務取扱に關する一般通則外七章。
▲銀行の性質、銀行の業務、事務取扱手續、銀行簿記等四篇。一改訂新版。
▲實際界に於ける簿記原理の應用を指導解説せるもので、勘定科目、傳票制度外四章。
▲最も難解とせられる外國爲替に就て平易に説述せる書で、外國爲替業の發展外廿章。
▲初心者にも容易に會得出来る様解説せる内國爲替實務の研究書。
▲外國爲替の意義、爲替仲買及爲替銀行の職能、相場變動の原因外十三章附録一篇。
▲外國爲替の實際に就て述べたもので、送金爲替、外國通貨並地金銀の賣買外十二章。

▲株式取引所と商品取引所を共に取扱ひ各國の制度を比較綜合した研究書。
▲總論、株式取引所に對する彈壓及批判、同發生及び發達外二章。
▲世界恐慌脱出策としてのインフレーションの地位、株式市場の動向外六章にて論述。

福田敬太郎	市場政策原理	洋四六	布入判	412	二、五〇	春陽堂	三月	▲主として物財市場政策を取扱つたもので、市場政策の意義、小賣市場政策外二章。
矢野實	中央卸賣市場解説	並袖	製珍	138	四、五〇	大産會本	五月	▲中央卸賣市場の解説、附録中央卸賣市場法規より開業迄の解説、附録中央卸賣市場法規として英米市場用語の詳解を載し別輯として市場の専用語を網羅して解説を施す。
中外商業新報社	市場用語解説	洋四六	布入判	375	二、〇〇	森山書店	二月二十	▲市場の専用語を網羅して解説を施す。
西依六・八	新商品學講義	布菊	製判	679	三、〇〇	式會善社株	七月	▲文化の進歩と共に日進月歩する商品の取引法、鑑定法等の現狀に即した商品學(改訂版)の製造工程、石油の話外十九篇。附録三篇。
財政經濟時報社編	商品生産の話	並菊	製判	99	四、〇〇	時財報社	一月	▲商品の生産工程を平易に述べた書で、電球の製造工程、石油の話外十九篇。附録三篇。
馬場敬治	經營學研究	洋四六	布入判	370	三、五〇	森山書店	八月	▲方法論上に於ける若干の基礎問題、社會科學の歴史性と非歴史性外四篇にて論述。
平井泰太郎	經營學入門	洋四六	布入判	376	二、五〇	千倉書房	三月	▲經營學の本質に關する諸問題に就て述べたもので、商業學より經營學への轉向外四篇。
平井泰太郎	經營學の常識	洋四六	布判	267	一、〇〇	千倉書房	一月	▲經營學の學問、機械以前と以後、今日の經營株式會社、作業の管理外四篇。
宮田喜代藏	經營學文獻解説	洋四六	布入判	356	一、五〇	千倉書房	五月	▲經營學專攻者に東西古今の文獻を紹介し其の内容を一々説明せるものである。
中外商業商店編	經營學原	上四六	製判	338	一、五〇	千倉書房	二月二十	▲生産經營及びその合理化の一般的原理を述べたもので、經營の根本事實外二篇。
上野陽一	商店經營要論	布菊	製判	186	一、〇〇	賢文館	十一月	▲商店經營の秘訣を例をあげて詳細に解説せるもので、サービスの仕方外九篇。
鈴木保良	商業經營要論	布菊	製判	183	二、〇〇	高原書店	六月	▲新經營者心得十五ヶ條、何が利益を生むかが賣れるか其他經營に關する四篇。
増地庸治郎	商業經營	洋四六	布入判	233	二、二〇	雄風館	四月	▲科學的經營法による小賣商店經營の實際的原則を説いた書で、營業計畫論外四篇。

太田哲三	會計學概論	洋四六	布入判	413	三、八〇	高陽書院	六月	▲會計及び會計學、會計學の發達、複式簿記の機構、決算整理外十七篇。附録五篇。
村瀨支	損益計算論	洋四六	布入判	152	一、〇〇	森山書店	十月	▲損益の計算に關する會計學上の諸問題に就いて述べた書で、利益論外五篇。
渡邊寅二	貸借對照表の作成と吟味	洋四六	布入判	242	一、五〇	雄風館	一月	▲貸借對照表は何を語る、負債及び資本、損益計算書の分析外十四篇にて論述。
ケスタ	合併貸借對照表論	洋四六	布入判	182	一、二〇	森山書店	八月	▲例題を附し其實際上の應用を明かにせる合併貸借對照表の論述で、支店會計外四篇。
ケスタ	貸借對照表論	洋四六	布入判	418	三、〇〇	森山書店	一月	▲貸借對照表、無形財産及其他の諸財産、貸借對照表の解釋外二十三篇。
渡邊寅二	帳簿組織の研究	洋四六	布入判	214	一、五〇	森山書店	二月二十	▲帳簿組織設定に際して考慮すべき基本的な方法を解説せる書で、特別仕課帳外十八篇。
大口周吉	營業帳簿記帳方法	並四六	製判	128	四、五〇	帝國會稅	九月	▲納稅者の苦情と不當課稅の起る原因、稅法上の營業收入範圍外十三篇にて論述。
全國無盡集會所	無盡簿記精義	並菊	製判	237	一、五〇	全國會稅	五月	▲緒論、勘定科目、分課及傳票、帳簿の種類及組織、無盡事務取扱手續、外三篇。
太田哲三	商業簿記	洋四六	布入判	291	一、八〇	高陽書院	三月	▲複雑なる簿記理論を二勘定學説により一貫明快に解説し一讀簿記の一般知識を得せしむ

伊藤正一	商業簿記要綱	洋四六	布入判	289	二、〇〇	博文館	月七	▲複式簿記、貸借仕訳、記帳と決算、其他二章、附録標準財務諸表。
杉山茂	商業簿記要領	洋四六	布入判	308	二、〇〇	杉山簿記出版部	月二十	▲商業簿記の全貌を説ける入門書で、仕訳、帳簿、收支計算簿記、傳票外十一章。
商業教育研究会編	革新商業簿記教科書	洋四六	布入判	209	一、四〇	出立命部館	月四	▲上下二巻より成る商業學校及び新制の師範學校中學校の簿記教科書。
河端瑞雄	商業簿記要義	上菊	製判	209	二、〇〇	駿々堂	月八	▲本年度を中心に最近二ケ年間の入試問題の解説書。
村松早苗	商用通信提要	洋四六	布判	405	二、〇〇	南北書院	月五	▲商用通信の基礎的並に一般的事項を前篇に説述し、後篇に各種の商用通信に就て詳説す。
金井浩	精實商業作文	洋四六	布入判	313	二、〇〇	同文書院	月九	▲商業書翰の原理並に其の應用に就て論述せる書で、商業書翰の特質外十二章。
虎尾正助	文實踐商業通信	洋四六	布入判	290	一、四〇	文友堂	月一	▲外國貿易についての實地に應用されたる豊富な文例を掲ぐ、貿易に志す人の參考書。
小澤愛園	學生の商業作文	洋四六	布判	295	二、〇〇	同文館	月五	▲商用文の概念構成及書法様式を説きその作と文例とを示せるもの。
瀧時智	文書整理法の理論と實際	洋四六	布入判	288	二、〇〇	同文館	月一	▲文書整理法の發達、近世企業に於ける事務所の特性、専門語と其の意義外十七章。
清水正巳	商賣のアメリカ	洋四六	布入判	459	二、〇〇	誠文堂	月一	▲一番印象に残つた店、大規模なカタログ本位の卸賣、海外都市の商店街外八十九篇。
阿波野才二郎	商賣の呼吸	洋四六	布入判	300	二、〇〇	誠文堂	月六	▲商賣道の要諦を平易に説けるもので、商界の歡喜、犬の首を繞りて外十二篇。

經濟・商業(商用文・文書整理・商賣・商店・販賣)

總川行道	商人讀本	並編	製判	149	一、〇〇	文修堂	月二	▲商店の經營、購買心の喚起、店員と店主及社會、販賣の助力外十一章。
小川菊松	商戰三十年	並四六	製判	285	八〇	誠文堂	月九	▲小僧時代より獨立して誠文堂を創りて三十年間に及ぶ小川氏の商戰體驗録。
有賀祿郎	百貨店の跳躍・小賣商の對策	洋四六	布判	266	八〇	時事新報社	月六	▲百貨店の内容を平易に説述すると同時に小賣店の對策を説けるもの。
結城禮一郎	小資本現代の商賣	上四六	製入判	507	一、二〇	白永社	月七	▲一千圓を限度とし素人にも出来る商賣許りを蒐めて一々開店の手法を説けるもの。
東京商工研究會編	知らず小資本開業案内	並四六	製判	359	八〇	富文館	月九	▲渡滿心を抱く者の爲めの小資本で開業出来る商賣案内書で、店舖篇外四篇。
森山四郎	滿蒙小資本開業案内	洋四六	布判	248	一、二〇	千倉書房	月三	▲吳服店經營の弱點、仕入の心得、店頭及店內の設備外十九章及圖案カッツを收録。
商店界社編	吳服店繁昌策	洋四六	布入判	88	一、二〇	誠文堂	月八	▲洋服店繁昌の要點、デパート對抗策、仕入に成功するには外七章及圖案カッツを收録。
商店界社編	洋服店繁昌策	洋四六	布入判	85	一、二〇	誠文堂	月八	▲蓄音器ラヂオ店繁昌の要點、集顧客開拓法と賣上増進策外六章及圖案カッツを收録。
商店界社編	ラヂオ・蓄音機店繁昌策	洋四六	布入判	83	一、二〇	誠文堂	月八	▲藥品と化粧品店、純益を擧げるには、仕入品の單純化外八章及び圖案カッツを收録。
商店界社編	賣藥・化粧品店繁昌策	洋四六	布入判	86	一、二〇	誠文堂	月八	▲賣上百割増の商略、繁昌實例、圖案文案選集外二篇にて菓子小賣店に就て詳述す。
サトウ・ツタエ	菓子小賣店の商略と繁昌策	洋四六	布入判	286	二、〇〇	誠光堂	月二	▲洋品店繁昌の要點、最新式販賣法、仕入に成功するには外七章及圖案カッツを收録。
商店界社編	洋品店繁昌策	洋四六	布入判	84	一、二〇	誠文堂	月八	▲販賣の科學的研究、販賣方法、販賣手段の改良、充分なる準備外十三篇。
坂本重關	販賣の研究	布四六	製入判	282	一、〇〇	藤山書店	月一	

經濟・商業(商賣・商店・販賣)

廣告・商業美術

井 關 純	販 賣 員 の 常 識	並袖 製珍 88	二〇	實業界社	月七	▲販賣員とは何か、販賣員は繁榮の大使。販賣の働き。眞の心を捉へよ。其の他。
有 田 二 郎	廣 告 の 心 理 學	洋函四六 布入判 386	一八〇	日東書院	月九	▲廣告の科學的研究で、廣告の心理學的研究廣告の作成外七篇にて論述。
堀 田 善 太 郎	街 頭 宣 傳 學	布函四六 裝入判 503	二〇〇	雄文閣	月七	▲理論と實際を兼ねた宣傳研究書で、街頭宣傳學理論外二篇。附録。
佐 藤 紅 太 郎 編	最 も 新 廣 告 意 匠 文 字 集	上判四六 四六四倍 製入判 65	一、五〇〇	誠光堂	月七	▲多くの意匠文學中から特に最近の代表的なものを選集せる書。
大 阪 中 央 放 送 局 編	J O B K 廣 告 集	並四六 製判 151	四〇	日本放送	月五	▲廣告と宣傳廣告の計畫商業美術廣告の心理廣告文案新聞雜誌廣告屋外廣告其他。
井 關 純	廣 告 百 般 早 わ かり	並袖 製珍 94	二〇	實業界社	月九	▲廣告の種類、準備、活字の智識平版の知識廣告文句其他。
萬 年 社 編	廣 告 年 鑑	洋函四六 布入判 516	一、八〇〇	萬年社	月一十	▲内外廣告界の大觀、新聞總覽、雜誌總覽、文案圖案集、廣告法規、廣告統計、名觀等。
濱 田 增 治	商 業 美 術 精 義	上函四六 製入判 402	二、〇〇〇	富山房	月六	▲別著「商業美術精義」の解説書で、商業美術教本編成要綱外三篇。
小 林 愛 雄	商 業 美 學	並袖 製判 200	一、〇〇〇	振興館	月三	▲序論、美の本質、建築美、彫刻美、陳列美、廣告美、照明美、音楽美、店員美、挿畫數十。
阿 部 直 躬	第 四 〇 回 日 本 全 國 諸 會 社 役 員 錄	洋函 布判 1700	一、七〇〇	商業興信所	月六	▲資本金拾萬圓以上の銀行會社の登記事項及主要社員の職員氏名等を掲載す。
淺 野 松 次 良 編	日 本 紳 士 名 鑑	洋函 布入判 2000	二、五〇〇	交詢社	月六	▲所得稅五十圓以上營業收益稅七十圓以上納稅者約十四萬人掲載附録全國銀行會社職員錄

名鑑・要覽・年鑑

文化社會學概論

定價金二圓五十錢・東京堂版

長 野 縣 編	職 員 錄	並袖 製珍 500	二〇〇	新書刊社	月五	▲長野縣關係の全職員錄。
山 澤 見 道	最 全 國 著 名 請 負 業 者 名 鑑	洋函 布判 274	三、〇〇〇	日事業興信	月三	▲日本全國の著名なる土木建築請負業者を各縣別にして著したるもの。
大 日 本 帝 國 商 業 聯 盟 編	日 本 産 業 經 濟 團 體 名 鑑	布四六 製判 1040	一、五〇〇	大日本帝國	月七	▲全國一萬餘の重要團體を蒐め其重要項目を挙げて之を組織的系統的に編纂。部門八編。
全 國 無 盡 集 會 所	昭 和 六 年 度 全 國 無 盡 會 社 要 覽	並袖 製珍 390	一、五〇〇	全國無盡	月三	▲無盡の沿革及營業無盡の現況、社團法人全國無盡集會所、全國無盡會社要覽。
山 下 久 四 郎	昭 和 七 年 度 糖 年 鑑	洋函 布入判 259	三、五〇〇	日本糖業	月七	▲世界糖界及我糖界各部門の精密、最新なる統計を主とし、昭和六年中の重要事項記載。
片 桐 祐 七 郎 編	服 裝 雜 貨 年 鑑	上四六 製判 300	一、〇〇〇	アライドラ	月一十	▲體裁四六版裝幀豪華紙金文字の内容も編並自由日記添附服裝雜貨に関する百科全書。

大阪商大講義 關榮吉著

工業

(7-1)

著者	書名	形態	頁数	送料	発行所	月行	内容大意
工業経済研究会編	工業経済研究 第一册	並菊	157	八〇	森山書店	月四	▲滿蒙を包含する我國工業政策の大方針(斯波忠三郎)技術の本質(馬場敬治)外六篇。▲改正電気事業法の経済的考察(澁澤元治)計劃經濟について(諸井貫一)外七篇。
工業経済研究会編	工業經濟研究 第二册	並菊	151	八〇	森山書店	月七	▲工業及工場管理の原則と實際技術とを叙述せる書で、工業の發達と企業形態の變遷其他、▲能率増進を目的として材料管理又は倉庫經理のテクニックを述べた書。
桐淵勘藏	工業管理學	洋菊	718	四八〇	吉田工務所出版部	月四	▲商工省の各種工業品規格統一の表を全部に亙つて集録せるもの。
小原龜太郎	工場材料と商品の検査	洋菊	292	二五〇	春陽堂	月三	▲第二十四號及第廿五號規格の改訂並に第八十四號乃至第百六號規格全部を收録す。
商工省工業品規格統一調査會編	日本標準規格 第一卷	洋菊	350	二〇〇	出版部	月二十	▲滿蒙の資源と化學工業、世界並に本邦化學工業界近狀、化學工業製品輸入高其他。
商工省編	日本標準規格 第五卷	洋菊	98	四三	出版部	月二	▲(一)非常時匡救策としての教育注文制度の提唱(二)米國に於ける軍需品の教育注文制度
化學工業時報社編	化學工業 昭和八年版	並四六製判	543	八〇	化學工業社	月二十	
門多榮男	平時工業動員	洋菊	58	四〇	内外産業調査會	月九	

工業(工業一般)

五五七

歌舞伎研究家の必讀の大論文

坪内逍遙著

近世畸人傳その他

四六判函入上製美本
挿圖コロタイプ數葉
定價一圓八十錢
送料十二錢

歌舞伎はわが國體に於て世界に於けるユークライクな存在である。こんな危難な、不思議な舞臺藝術は世界の他のどの國にも、どんな時代にもなかつた。歌舞伎は野生のまゝの純然たる民衆藝術として、連續三百年の間断もなしに同じ系統を追つて進化し、而も從横に發展した。西洋諸國が前後千何百年もかゝつて、めい／＼で分擔して、意識的努力の結果、やつと獲得した劇的要素の有限のものが歌舞伎には自然に、半無意識的に備はつてゐる。それだけに、其本質も、其歴史も複雑で、やゝこま／＼と、到底、言語や文章だけで之を説明することは容易でない。況んや簡單に具體的に敘説する事をやである。著者博士は此點に留意せられ、幸ひにも傳存してゐる種々の古書を利用して、一瞥下に三百年の進化を歌舞伎劇場の内外に亙つて、備に看取せしむべく工夫された。書證史話と題された所以である。而して其書證は外國劇場のそれとの比較にさへも及んでゐる。劇に關する研究書は内外とも近來頗る増加しつゝあるが、本書の如きは前例が無い。挿畫八十餘圖。

文學博士

坪内逍遙著

(好評噴々)

菊判絹布裝函入
本文二百五十頁
コロタイプ版・石版・
寫真版・凸版八十面
定價三圓五十錢
郵送料十八錢

株式會社 東京堂 發行所
東京市神田區錦町
電話七二〇番

工業(土木・鐵道工學)

吉原鐵夫	大河戶博士外七氏	小西勝治郎	工業之日本社編	東京工學研究會編	高敷良二	最新工學普及會編	間崎則質	上野正夫	吉田彌七	藤原太郎										
自用工業便覽	最新工學寶典	滿洲國之金屬商工錄	日本工業要鑑	土木工事仕様及見積	土木日本標準規格	建築土木標準規格解説	設計ハンドブック	鋼並鐵筋コンクリート 不靜定橋	鐵筋コンクリート設計法	鐵骨構造										
總三六 華判	華袖 鐵珍	上菊 製判	洋面四六 布入判	並菊 製判	並菊 製判	洋面四六 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面四六 布入判	洋面四六 布入判										
970	1024	120	2300	138	166	201	577	400	411	230										
二、三〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	二、四〇〇	特一、一〇〇 六〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	二、八〇〇	三、六〇〇	四、〇〇〇	二、二〇〇										
知進社	鐵道時報局	工業界社	日工業社之	鐵道圖書局	鐵道圖書局	中央工學會	龍吟社	森山書店	式丸會善社株	大版 鐵道圖書局										
月六	月六	月九	月五	月八	月八	月三	月二	月十	月九	月二十										
▲機械製圖燃料鑄造鍛工手仕上機械化土木型塗料砥石材料試驗機材料強弱化學公式其他。トブック。	▲滿洲國の金屬生産狀況及國外より輸入金屬の狀況金屬取引關係鐵工所金屬商名簿等詳述	▲全國工業會社商店一般記載。	▲仕様及見積、減價の償却と設備費の金利外六章。	▲主として土木建築に關するものを輯録した書で木材其他。	▲原動機、場外材料運搬、場内材料運搬、工事用機械の四章にて詳述。	▲從來の日本標準規格中特に建築土木に關するもの、みを見解せるもの。	▲土木技術者の爲の實際書で、數理關係材料の規格、設計資料外三篇。	▲連續桁橋、ゲルバー桁橋、拱橋及ラーメン橋の理論計算法設計計算を説く。	▲コンクリート及び鐵筋コンクリートの理論並に實驗的研究で、コンクリート汎論其他、度、鐵筋外二十章。	▲鐵骨構造の一般知識に就て論述せるもので、梁論、高層建築論外三篇。	▲土木基本製圖法、各種重要構造的構造物の製圖を簡より繁に漸進せしめ適當に配列す。	▲工事設計施行に關する事項は悉く網羅し具體的實例を以て詳説す。土工、治水外五編。	▲濃集力を有せざる物體の彈性均合に就いての一般式、數價外三章にて詳説す。	▲道路工學に就いての全般を記したるものにして道路の認識外十六章を收む。	▲下水工學の一般を最も判り易く極めて順序的に配列完結せるものである。	▲悉く實例集にして初學者にも解り易く内容圖面豊富記事新鮮なる鐵道書。	▲橋梁用語、構造要素及び型式種類外三編二十四章よりなる。	▲領測量平板測量、羅針儀測量、經緯儀測量高低測量の五章よりなる。	▲初めて計算尺を使用せんとする人々の爲に懇切丁寧に説述す。	▲土木工事の設計に關し基本的設計標準と之に必要な設計資料及工事歩掛等を網羅す。

工業(土木・鐵道工學)

良本正勝	堀口甚吉	工業畫法研究會	山名晃	渡邊貫謙	村上元紀	丹羽健藏	西畑常	大野諫	森田虎起	坂元左馬太	東京工學研究會
コンクリート環境	鐵骨構造	土木基本及構造製圖	鐵工工事設計實用便覽	レザル土歴論	近世道路工學	下水工學	青山隧道編	大野橋梁汎論	實用測量法講義	設計算尺の使ひ方	土木工事設計標準
洋面四六 布入判	布面菊 製入判	上四六 製入判	洋面菊 布入判	洋面四六 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面四六 布入判	洋面菊 布入判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
260	309	235 50枚	545	157	280	170	316	420	160	116	167
二、七〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、一〇〇	一、一五〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
大版 鐵道圖書局	中央工學會	大版 鐵道圖書局	鐵道圖書局	工業雜誌社	大版 鐵道圖書局	大版 鐵道圖書局	大正商工社	大版 鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局
月六	月三	月三	月十	月九	月三	月十	月七	月五	月三	月七	月五

新島武三 加藤田敬太郎	齋藤朴	坂元左馬太	川越温	岡田信次	山澤見道	山澤見道	車輻工學會編	庄司富重	庄司富重	内藤多伸	武井藤二	武井藤二	三浦尙史
土木建築應用數學	鐵道工學	鐵道曲線表及曲線布設法	鐵道線路と建造物	鐵道保線讀本	鐵道省建設工事請負總覽	最新全國鐵道建設詳細圖	蒸氣機關車 修理基準一覽	實用建築構上造	實用建築構下造	新建建築構造學	振動學	最新建築電氣學	建築構造力學
洋四六 布入判	布編 製判	洋四六 藍入判	洋四六 布入判	洋三六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	力四六 布判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判
273	393	343	382	240	1	1	77	341	337	540	66	220	220
一、八〇	二、五〇	一、五〇	一、〇〇	一、五〇	三、〇〇	三、〇〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
鐵道圖書局	シビル社	鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	日業興信社	日業興信社	鐵道研究社	鈴木書店	鈴木書店	早稲田大學出版部	岩波書店	大業學會	淡屋書店
月一	月二十	月九	月一十	月一十	月四	月九	月四	月一十	月一十	月三	月九	月九	月三
▲土木建築技術者に必要なる應用數學。代數幾何、平面三角法、最小自乗法應用等。	▲鐵道保線建設技術者用參考書。	▲半徑十米より一萬米迄角度零度より百八十度迄の曲線表並布設法表の引き方の詳解。	▲改正規程に依る最新の鐵道工學書、路線の選定、路盤、隧道、軌道等十六章。	▲新らしく保線行政の分野を開拓せる本格的な研究書。	▲昭和六年四月より同七年三月末迄の鐵道建設請負入札の統計總覽。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。	▲鐵道省建設工事の開業線未成線豫定線及工事入札金額等一切を地圖に示したるもの。

奥田芳男	堀口垣拾巳	大岡實	滿鐵經濟調査會	岸田亥治郎	中村達太郎	中村達太郎	堀紫朗	山澤見道	伊藤藤奎二	妹澤克惟	武井藤二	武井藤二	三浦尙史
建築樣式論叢	建築樣式論叢	建築樣式論叢	支那住宅志	支那住宅志	給水・給湯及消火設備	新らしき建築學階梯	最新建築施工法	建築機械設備	最新建築電氣學	振動學	建築構造力學	建築構造力學	建築構造力學
洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	上編 製判	洋四六 布入判	布三六 製判	布四六 製判	布編 製判	洋編 布判	並編 製判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判
384	706	400	382	345	184	259	479	508	172	799	66	220	220
三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	四、二〇	三、二〇	一、五〇	二、〇〇	四、五〇	四、〇〇	一、九〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
吉田工務部	六文館	大業學會	滿鐵	雄山閣	丸善社	丸善社	丸善社	丸善社	オーム社	岩波書店	大業學會	大業學會	淡屋書店
月五	月六	月一	月五	月五	月三	月九	月二十	月八	月二十	月二十	月九	月九	月三
▲主として平面構成及び設備に就て論述せるもので、計畫の要項、住居建築外七章。	▲茶室の思想的背景と其構成(堀口拾巳)摩天樓の經濟的高度(相内武千雄)外十三篇。	▲原始建築、後期ルネサンスの建築、近代の建築、日本の建築外十三章にて論述。	▲往昔の縱穴、横穴等より現代に至る支那の漢蒙滿族の住宅を餘す所なく説明す。	▲日本建築史(原史時代、飛鳥時代外五章)支那建築史(上代と發達時代との建築外五章)。	▲給水給湯問題に於ける圖表效用を普遍化せんとするもの、度量衡は米突法に依る。	▲日本建築史(原史時代、飛鳥時代外五章)支那建築史(上代と發達時代との建築外五章)。	▲建築の實際を論じた現場の教科書、工事監督の任務、建築術の發達以下十七章。	▲建築機械設備の全般を説述した書で、原動機外十二章。	▲建築の實際を論じた現場の教科書、工事監督の任務、建築術の發達以下十七章。	▲主としてビルディングに於ける電氣設備に關し廣範圍の問題を蒐録記述せる書。	▲建築學會立案の實業學校教授細目案に據つて撰述せるもので、靜力学外四編。	▲工學上に於ける振動問題の説明及び紹介書で、振動の一般理論、車軸の振動、十一編。	▲簡單に建築構造力學の要點を記述せしものにして靜力学外四編を收む。

工業(建築・家具・工作)

建築研究會	洋風建築構造各部詳細圖編	上四六倍判	115	二〇〇	大塚屋書店	四月	▲洋風構造圖、實物寫眞等を模範的にして且つ有要なるものゝみを収集す。
建築學會編	新興獨逸建築作品集	並四六倍判	104	一、八〇	式九會善社株	五月	▲松坂屋に開催された「新興獨逸建築工藝展覽會」の中心作品を盡く蒐録せるもの。
牧野正巳	鼓技場建築	布編	326	馬、一四〇	式九會善社株	七月	▲運動鼓技場の設計や設備に關して述べたもので、室内遊戯及鼓技外六章。
中尾保	インターナショナル建築	上編	79	一、三〇	改善社	二十	▲インターナショナル建築の精神を通俗的に説明せる書で、思想と建築のイヅム其他。
宮澤小五郎編	五室以内の新住宅設計	洋編四六倍判	187	一、八〇	朝日新聞社	四月	▲同潤會が懸賞募集した分塊住宅設計圖案中當選の十二案を収録せるもの。
張蒼雄	中流住宅	布編	183	一、二〇	式九會善社株	九月	▲内容—汎論、構造、災害、衛生、法規、家相、設計各論、住宅計畫實例實施上の注意。
松崎留吉	設計の住宅間取と外觀	布編	102	一、〇〇	中央工學會	十月	▲住宅の實例三十三を擧げて設計の實際と其建築の要諦とを解説せる書。
山田醇	住宅建築の實際	洋編	541	五、〇〇	新光社	六月	▲我國に適する住宅建築の要領を記述せる書で、敷地の選び方外十三章、口繪二百四圖。
野口榮成	住宅の照明	上四六倍判	71	四、〇〇	出版部會	八月	▲電燈に就ての正しい消費知識を説けるもので、電球の品質、書齋の照明外十六章。
野口榮成	建築素人建築の指針	洋編四六倍判	100	四、〇〇	榮城社	二十	▲建築工事を細別し其實施上の注意及び耐震建築並建築法規の解釋、建築手續、貸家經營等集せる一六〇〇餘案中より優秀廿六案を集む。
佐藤田三郎	小住宅圖案集	洋編	150	三、五〇	新信濃每日	八月	▲長野縣下に於ける都市近郊向住宅を懸賞募集せる一六〇〇餘案中より優秀廿六案を集む。
山代田三郎	便所の設計と設備	並四六倍判	87	二、二〇	三省堂	七月	▲便所改善の要點、水洗便所への給水装置外十章。附便所に關する取締規則。
大澤一郎	ルックハルト兄弟作品集	並四六倍判	21	一、〇〇	洪洋社	二月	▲ベルリン・フルフェール・ステンダム女王の酒場外十九圖を収録。

工業(建築・家具・工作)

加藤秋	映畫館の建築計畫	洋編四六倍判	236	二、〇〇	洪洋社	五月	▲映畫館の平面及び斷面設計をなす爲に必要な知識を述べたもので、沿革外七章。
洪洋社編輯部編	モダン小住宅設計グラフ	上四六倍判	21	一、〇〇	洪洋社	四月	▲住宅のコンポジション、いの家、ろの家外廿一種の設計グラフ及び解説を収む。
洪洋社編輯部編	モダン小商店設計グラフ	並四六倍判	20	一、〇〇	洪洋社	七月	▲モダンな小商店の設計グラフを収めて解説を施す。
洪洋社編輯部編	モダン小住宅設計グラフ	並四六倍判	20	一、〇〇	洪洋社	九月	▲モダンな小住宅の設計グラフ集。
建築寫眞類	新しき階段の構成	上四六倍判	50	一、三〇	洪洋社	二月	▲さまざまの新しい階段の寫眞を蒐め收めた書。
建築寫眞類	現代和風邸宅の構成	上四六倍判	48	一、三〇	洪洋社	三月	▲書院、洋館日本家取合ひ外觀、洗面所及化粧室廊下外觀外四十五圖。
建築寫眞類	新しき照明意匠	上四六倍判	58	一、三〇	洪洋社	五月	▲現代建設に適應すべき照明装置及び裝飾に役立つべき意匠的資料を蒐録す。
建築寫眞類	和風住宅の室内構成	上四六倍判	46	一、三〇	洪洋社	六月	▲和風住宅室内の趣味あり變化ある主要部分を活寫せる書で、岡田氏邸戸欄外四十五圖。
建築寫眞類	カフエー内部集	上四六倍判	48	一、三〇	洪洋社	七月	▲銀座神田新宿方面に亘るカフエー内部の設計圖を收め解説を施す。
建築寫眞類	書齋と應接の構成	並四六倍判	48	一、三〇	洪洋社	八月	▲書齋及び應接室の寫眞集。
建築寫眞類	カフエー内部集	上四六倍判	48	一、三〇	洪洋社	九月	▲カフエー内部の寫眞集で、カフエー・マル、第一銀座會館ジネヤ會館その他。
建築寫眞類	塗裝・舗裝・石積意匠集	上四六倍判	48	一、三〇	洪洋社	十月	▲塗裝、舗裝、石積の種々技巧を施せる意匠寫眞集。
建築寫眞類	世界の新興住宅	上四六倍判	50	一、三〇	洪洋社	十二月	▲世界の新興住宅の寫眞五十圖を收めこれに説明を施せるもの。